令和元年度　病院年報

千葉市立青葉病院

令和元年度年報発行にあたって 4

1. 総括 5

2. 診療局報告 20

内　科 21
消化器内科 22
循環器内科 23
呼吸器内科 24
血液内科 25
糖尿病・代謝・内分泌代謝内科 26
脳神経内科 27
リウマチ科 28
総合診療内科 29
外科・消化器外科 30
整形外科 32
小児科 34
児童精神科 36
成人精神科 41
産婦人科 44
皮膚科 45
泌尿器科 47
眼科 49
耳鼻咽喉科 50
救急集中治療科 52
歯科 54
リハビリテーション科 58
麻酔科 63
病理科 66
診療局業績 67

3. 医療技術部報告 75

臨床検査科 76
放射線科 81
栄養科 83
臨床工学科 86
医療技術部門業績 90

4. 薬剤部報告 93

薬剤部 94

5. 看護部報告 99

看護部 100

6. 事務部門報告 106

医療安全室 107
感染対策室 110
地域連携室 114
診療録管理室 120
情報管理室 122
事務局 124

7. 統計 127

令和元年度年報発行にあたって

千葉市立青葉病院　院長　山本恭平

令和元年度は昨年に引き続き、開業医さんからの紹介を断らない、入院適応のある救急搬送を断らないということを病院スタッフにお願いして運営をしてきました。
その結果、病床稼働率は85%に届くところまで上昇し、紹介患者数も増加しました。
また経営コンサルタントの協力もあり、支出の削減にも努力し、減価償却費も加えて昨年度より医業収支が5.6億円改善しました。

念願であったホームページの刷新も完成し、青葉病院の新しい姿を伝えられるようになったのではないかと思います。

当院の政策的医療の柱である、救急医療では深夜帯の搬送件数では千葉市でトップであり、救急搬送困難例の事業では全体の約 30%の救急車の受け入れを行い、千葉市の救急医療に貢献をしています。

昨秋の台風被害のときは周辺医療機関から入院患者の受け入れを行い、災害拠点病院としての機能を果たしました。
また年明けからは新型コロナウイルス患者の受け入れを行い、感染症指定医療機関としての責務を果たしています。そのために一般入院を一部制限しなくてはならなくなり、全体の病床稼働が低下し医業収支の悪化も見られています。
今後は、感染の状況を把握しつつ、千葉市や千葉県と協力してコロナ対策と通常診療を行っていく予定です。コロナ禍にあっても市民に信頼され求められる病院であるために職員一同努力しきます。

この年報が、関係各位のお目にとまり、いろいろなご意見をお寄せいただき、青葉病院のさらなる発展に役立つことを願っています。

1. 総括

（１） 概況

入院を必要とする患者を搬送する救急車を断らないという基本方針のもと、救急搬送の積極的な受け入れを推進しており、救急処置スペースの拡充により受入環境を向上させるため、救急等を整備し、平成 27 年度に供給開始することを決定した。

また、無菌室化空調設備改修工事を実施し、血液疾患の治療においてより安全性の高い医療を提供できる環境を整備した。

前年度に引き続き本院を管理型とする管理型臨床研修病院として卒後臨床研修医 8 人と、千葉大学医学部附属病院を基幹型とする協力型臨床研修病院として卒後臨床研修医 5 人を受け入れるとともに、後期臨床研修医 10 人を受け入れた。

（２） 施設概要

ア　所 在 地　　千葉市中央区青葉町 1273 番地 2

イ　敷地面積　　26,250.15 ㎡

ウ　建築面積　　12,374.23 ㎡

エ　延床面積　　33,130.06 ㎡

（ア） 病院棟　　RC・SRC・S 造、地上 5 階 地下 1 階 PH1 階建
延床面積　28,245.77 ㎡

（イ） 付属棟 1　　RC 造、1 階、　延床面積　146.86 ㎡

（ウ） 付属棟 2　　RC 造、地上 1 階地下 1 階、延床面積　106.10 ㎡

（エ） 駐車場棟　　RC 造、地上 1 階地下 1 階、延床面積　4,631.97 ㎡

（３） 沿革

昭和	13 年	11 月	伝染病患者収容の目的で市営伝染病院として隔離病舎を設置 （病床数 28 床） 【千葉県衛第 8878 号】
	15 年	6 月	伝染 20 床増床（48 床）
	25 年	3 月	伝染 28 床、結核 20 床 【千葉県指令医第 79 号】
	26 年	4 月	伝染 30 床、結核 50 床 【千葉県指令医第 30 号】
	28 年	7 月	伝染 30 床、結核 100 床 【千葉県指令医第 85 号】
	34 年	4 月	市立療養所を市立葛城病院に変更
	39 年	6 月	伝染 12 床、結核 65 床 【千葉県指令第 2180 号】
	40 年	5 月	伝染病棟完成（伝染 50 床、結核 77 床） （鉄筋コンクリート造、2 階建） 【千葉県指令第 1462 の 2】
	42 年	3 月	精神病棟完成（鉄筋コンクリート造、2 階建）
		12 月	病床変更（伝染 50 床、結核 53 床、精神 100 床） 【千葉県指令第 10-42 号】
	43 年	3 月	本館サービス棟完成（鉄筋コンクリート造、4 階建）
		4 月	千葉市立病院に名称変更、地方公営企業法の財務規定等適用
		7 月	一般病棟（本館）の新設により病床数変更 （一般 124 床、結核 53 床、精神 100 床、伝染 50 床） 【千葉県指令第 10-28 号】
		10 月	霊安室完成（モルタル造、平屋建）
	44 年	5 月	新看護婦宿舎完成（鉄筋コンクリート造、4 階建） 理学診療科、麻酔科を設置（診療科目 12 科）
	47 年	3 月	産婦人科設置（診療科目 13 科）
		4 月	組織改正（診療部、薬局、看護部、事務局）
		5 月	新館完成（鉄筋コンクリート造、4 階建）
		6 月	新病棟の完成により病床数変更 （一般 174 床、結核 53 床、精神 100 床、伝染 50 床） 【千葉県指令第 35 号-14】
	50 年	11 月	結核病棟廃止 （一般 187 床、精神 100 床、伝染 50 床） 【千葉県指令 35 号-28】
	53 年	12 月	敷地面積及び病棟増設 （一般 199 床、精神 100 床、伝染 50 床） 【千葉県指令 41 号-67】
	54 年	6 月	病床数減少 （一般 199 床、精神 40 床、伝染 50 床） 【千葉県指令第 49 号-11】
昭和	54 年	11 月	診療部門等の増改築及び病室収容定員の変更 （一般 206 床、精神 40 床、伝染 50 床） 【千葉県指令第 49 号-39】
	60 年	5 月	病床数減少 （一般 197 床、精神 40 床、伝染 50 床） 【千葉県指令第 95 号-23】
	61 年	3 月	病床数変更

			（一般 170 床、精神 40 床、伝染 50 床）　【千葉県指令第 96 号-97】
	61 年	5 月	病床数変更 （一般 201 床、精神 40 床、伝染 50 床）　【千葉県指令第 2 号-13】
	63 年	3 月	外来診察室及び病床数変更 （一般 210 床、精神 40 床、伝染 40 床）　【千葉県指令第 3 号-116】
平成	5 年度		「両市立病院の再整備に関する提言」中間報告 「両市立病院再整備基本調査」実施
	7 年度		「両市立病院再整備基本構想」策定
	9 年度		「市立病院再整備基本計画の概要」報告
			「市立病院再整備基本計画」策定
	10 年度		基本設計、用地取得
	11 年	1 月	青葉病院開設許可 （一般 305 床、精神 60 床、伝染 15 床）
	11 年	3 月	市立病院　病室収容定員の変更 （一般 226 床、精神 40 床、伝染 6 床）　【千葉県医整指令第 3 号-133】
	11 年度		実施設計、青葉病院建築着工
	12 年	10 月	青葉病院開設許可（病床変更） （一般 314 床、精神 60 床、感染症 6 床）　【千葉県医指令第 30 号】
	14 年	8 月	青葉病院建築工事竣工
	15 年	1 月	青葉病院外構工事竣工
		5 月	千葉市立青葉病院開院 （一般 314 床、精神 60 床、感染症 6 床）
	16 年	3 月	協力型臨床研修病院指定（16 年 4 月　開始）
	16 年	10 月	管理型臨床研修病院指定（17 年 4 月　開始）
	18 年	9 月	財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価認定
	21 年	4 月	ＤＰＣ対象病院
	21 年	4 月	千葉市立病院第 1 期改革プラン
	23 年	4 月	地方公営企業法全部適用へ移行
	23 年	4 月	血液内科を標榜
	23 年	9 月	病院機能評価再認定
	23 年	9 月	脳神経外科を標榜
	24 年	4 月	千葉市立病院第 2 期改革プラン
	24 年	4 月	整形外科入院機能を青葉病院へ集約
	24 年	10 月	助産師外来を再開
	25 年	7 月	糖尿病・代謝内科、内分泌内科を標榜
	25 年	9 月	7 対 1 看護職員配置基準取得
	25 年	10 月	土曜リハビリテーションを開始
	26 年	3 月	千葉県がん診療連携協力病院に認定

	26 年	4 月	リウマチ科を標榜
	26 年	11 月	日曜リハビリテーションを開始
	27 年	4 月	地域医療支援病院に認定
	27 年	12 月	救急病棟開設・稼働開始
	28 年	2 月	病院情報システム（電子カルテシステム）更新
	29 年	1 月	ハイケアユニット病棟開設
	29 年	4 月	災害拠点病院に認定
	31 年	4 月	病床数変更 （一般 307 床、精神 56 床、感染症 6 床）

（4） 運営規模

ア 病床数

一　　般	307 床
精　　神	56 床
感　　染　　症	6 床
計	369 床

(病棟別病床診療科目別病床数)

場所		病棟名	病床数	診療科	(床)	1 人室 (床)		2 人室 (床)		3 人室 (床)		4 人室 (床)	
あおば館	1 階	HCU ICU	12	ICU	(4)	4	(4)						
				HCU	(8)							2	(8)
	3 階	3 階西	45	外科	(45)	10	(10)			1	(3)	8	(32)
		3 階東	45	泌尿器科	(22)	6	(6)			1	(3)	9	(36)
				内科	(10)								
				眼科	(10)								
				皮膚科	(3)								
	4 階	4 階西	50	整形外科	(45)	7	(7)			1	(3)	10	(40)
				内科	(5)								
		4 階東	40	産婦人科	(30)	5	(5)			1	(3)	8	(32)
				内科	(10)								
	5 階	5 階西	40	内科	(40)	12	(12)	2	(4)			6	(24)
		5 階東	45	緩和ケア・在宅療養支援	(15)	10	(10)			1	(3)	8	(32)
				内科	(30)								
わかば館	1 階	児精	28	児童精神科	(28)	8	(8)					5	(20)
		成精	28	成人精神科	(28)	12	(12)					4	(16)
	2 階	わかば 2 階	36	小児科	(16)	18	(18)	1	(2)			4	(16)
				内科	(14)								
				感染症	(6)								
計			369		(369)	88	(88)	7	(14)	6	(18)	65	(260)

イ 職員の配置

平成 31 年 4 月 1 日現在（単位：人）

	診療局	薬剤部	看護部	事務局ほか
医師	76			
歯科医師	1			
診療放射線技師	19			
臨床検査技師	26			

保健師				
心理療法士	2			
理学療法士	10			
作業療法士	7			
言語聴覚士	2			
視能訓練士	2			
臨床工学技士	6			
歯科衛生士	1			
栄養士	7			
保育士				
看護師			350	
助産師			15	
准看護師				
介護福祉士				9
薬剤師		23		
事務職員				15
技術職員				3
診療情報管理士				5

(診療科別医師・歯科医師数)

内科	27 人	外科	4 人	整形外科	11 人
小児科	2 人	産婦人科	5 人	眼科	1 人
耳鼻咽喉科	2 人	皮膚科	2 人	泌尿器科	4 人
麻酔科	4 人	リハビリテーション科	2 人	歯科	1 人
精神科	3 人	児童精神科	3 人	救急集中治療科	3 人
病理診断科	1 人				

ウ　施設基準一覧表

平成３１年３月現在

番号	施設基準名	算定開始年月
第　6 号	歯科外来診療環境体制加算	平成 20 年 4 月
第 1625 号	一般病棟入院基本料7対1	平成 28 年 10 月
第 1585 号	精神病棟入院基本料13対1	平成 28 年 10 月
第　4 号	総合入院体制加算 3	平成 23 年 4 月
	地域医療支援病院入院診療加算	平成 28 年 4 月
第　27 号	臨床研修病院入院診療加算(基幹型)	平成 17 年 4 月
第　29 号	救急医療管理加算	平成 22 年 4 月
第　26 号	妊産婦緊急搬送入院加算	平成 20 年 4 月
第　46 号	診療録管理体制加算 1	平成 27 年 5 月
第　24 号	医師事務作業補助体制加算 1(20対1)	平成 28 年 4 月

第　26 号	医師事務作業補助体制加算 1(50対1)	平成 28 年 4 月
第 102 号	急性期看護補助体制加算(25対1)5 割以上	平成 28 年 10 月
第　18 号	看護職員夜間配置加算(12 対 1 配置加算 1)	平成 28 年 10 月
第　67 号	療養環境加算	平成 15 年 5 月
第 181 号	重症者等療養環境特別加算	平成 26 年 11 月
第　16 号	無菌治療室管理加算1	平成 27 年 4 月
第　7 号	精神科身体合併症管理加算	平成 20 年 4 月
第　6 号	精神科リエゾンチーム加算	平成 28 年 4 月
第　5 号	強度行動障害入院医療管理加算	平成 26 年 4 月
第　68 号	栄養サポートチーム加算	平成 27 年 4 月
第　76 号	医療安全対策加算1	平成 24 年 4 月
第　25 号	感染防止対策加算1【感染防止対策地域連携加算】	平成 27 年 4 月
第 196 号	患者サポート体制充実加算	平成 29 年 6 月
第　31 号	ハイリスク妊娠管理加算	平成 21 年 4 月
第　35 号	ハイリスク分娩管理加算	平成 23 年 4 月
第　34 号	精神科救急搬送患者地域連携受入加算	平成 24 年 6 月
第　30 号	総合評価加算	平成 21 年 1 月
第 104 号	病棟薬剤業務実施加算 1	平成 27 年 12 月
第　17 号	病棟薬剤業務実施加算 2	平成 28 年 11 月
第　36 号	データ提出加算 2	平成 24 年 10 月
第　13 号	精神疾患診療体制加算	平成 28 年 4 月
第 115 号	退院支援加算 1(地域連携診療計画加算)	平成 28 年 6 月
第　22 号	精神科急性期医師配置加算	平成 28 年 4 月
第　62 号	特定集中治療室管理料 3	平成 29 年 5 月
第　25 号	ハイケアユニット入院医療管理料2	平成 29 年 1 月
第　16 号	小児入院医療管理料 5	平成 27 年 12 月
第　2 号	児童・思春期精神科入院医療管理料	平成 24 年 4 月
第 1050 号	入院時食事療養(Ⅰ)	平成 15 年 5 月
第　7 号	喘息治療管理料	平成 18 年 4 月
第　12 号	糖尿病合併症管理料	平成 20 年 4 月
第　17 号	がん性疼痛緩和指導管理料	平成 22 年 4 月
第　4 号	がん患者指導管理料 1	平成 22 年 4 月
第　17 号	がん患者指導管理料 2	平成 26 年 4 月
第　6 号	移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	平成 24 年 12 月
第　24 号	糖尿病透析予防指導管理料	平成 24 年 4 月
第　32 号	院内トリアージ実施料	平成 24 年 4 月
第　89 号	夜間休日救急搬送医学管理料	平成 24 年 4 月
第　83 号	外来リハビリテーション診療料	平成 24 年 4 月
第　59 号	がん治療連携計画策定料	平成 27 年 10 月
第　7 号	地域連携診療計画加算	平成 28 年 4 月
第　22 号	肝炎インターフェロン治療計画料	平成 22 年 4 月

第 340 号	薬剤管理指導料	平成 22 年 4 月
第 133 号	医療機器安全管理料1	平成 27 年 3 月
第 116 号	歯科治療総合医療管理料	平成 16 年 4 月
第 5 号	在宅療養後方支援病院	平成 26 年 5 月
第 8 号	持続血糖測定器加算	平成 26 年 4 月
第 43 号	造血器腫瘍遺伝子検査	平成 24 年 12 月
第 28 号	HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	平成 26 年 4 月
第 138 号	検体検査管理加算(Ⅰ)	平成 20 年 4 月
第 53 号	検体検査管理加算(Ⅳ)	平成 29 年 4 月
第 28 号	植込型心電図検査	平成 24 年 4 月
第 23 号	時間内歩行試験	平成 24 年 4 月
第 4 号	胎児心エコー法	平成 22 年 4 月
第 16 号	ヘッドアップティルト試験	平成 24 年 4 月
第 2 号	皮下連続式グルコース測定	平成 22 年 4 月
第 12 号	神経学的検査	平成 20 年 4 月
第 4 号	内服・点滴誘発試験	平成 22 年 4 月
第 9 号	CT 透視下気管支鏡検査加算	平成 24 年 4 月
第 516 号	CT 撮影及び MRI 撮影	平成 27 年 11 月
第 32 号	大腸CT撮影加算	平成 24 年 4 月
第 12 号	抗悪性腫瘍剤処方管理加算	平成 22 年 4 月
第 13 号	外来化学療法加算 1	平成 20 年 8 月
第 52 号	無菌製剤処理料	平成 20 年 4 月
第 30 号	心大血管リハビリテーション料(Ⅰ)	平成 26 年 10 月
第 122 号	脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	平成 25 年 5 月
第 26 号	運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	平成 24 年 4 月
第 57 号	がん患者リハビリテーション料	平成 27 年 8 月
第 137 号	歯科口腔リハビリテーション料2	平成 26 年 4 月
第 4 号	医療保護入院等診療料	平成 16 年 4 月
第 15 号	エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	平成 23 年 5 月
第 16 号	エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)	平成 23 年 5 月
第 127 号	透析液水質確保加算2	平成 27 年 11 月
第 398 号	CAD／CAM冠	平成 28 年 3 月
第 20 号	脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	平成 15 年 8 月
第 46 号	経皮的冠動脈形成術	平成 26 年 4 月
第 43 号	経皮的冠動脈ステント留置術	平成 26 年 4 月
第 111 号	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	平成 18 年 4 月
第 27 号	植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術	平成 24 年 4 月
第 56 号	大動脈バルーンパンピング法(IABP 法)	平成 18 年 4 月
第 15 号	経皮的大動脈遮断術	平成 23 年 5 月
第 17 号	ダメージコントロール手術	平成 23 年 5 月
第 18 号	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	平成 24 年 4 月

第　30 号	体外衝撃波腎・尿管結石破砕術	平成 18 年 4 月
第　 2 号	膀胱水圧拡張術	平成 22 年 4 月
第　92 号	医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6(歯科点数表第 2 章第 9 部の通則 4 を含む。)に掲げる手術	平成 23 年 4 月
第　55 号	胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)(医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則の 16 に掲げる手術)	平成 26 年 4 月
第　21 号	輸血管理料Ⅰ	平成 24 年 4 月
第　29 号	輸血適正使用加算(輸血管理料Ⅰ)	平成 24 年 4 月
第　 6 号	自己生体組織接着剤作成術	平成 24 年 4 月
第　28 号	胃瘻増設時嚥下機能評価加算	平成 26 年 4 月
第 109 号	麻酔管理料(Ⅰ)	平成 15 年 5 月
第　18 号	病理診断管理加算1	平成 24 年 4 月
第 3578 号	クラウン・ブリッジ維持管理料	平成 15 年 5 月

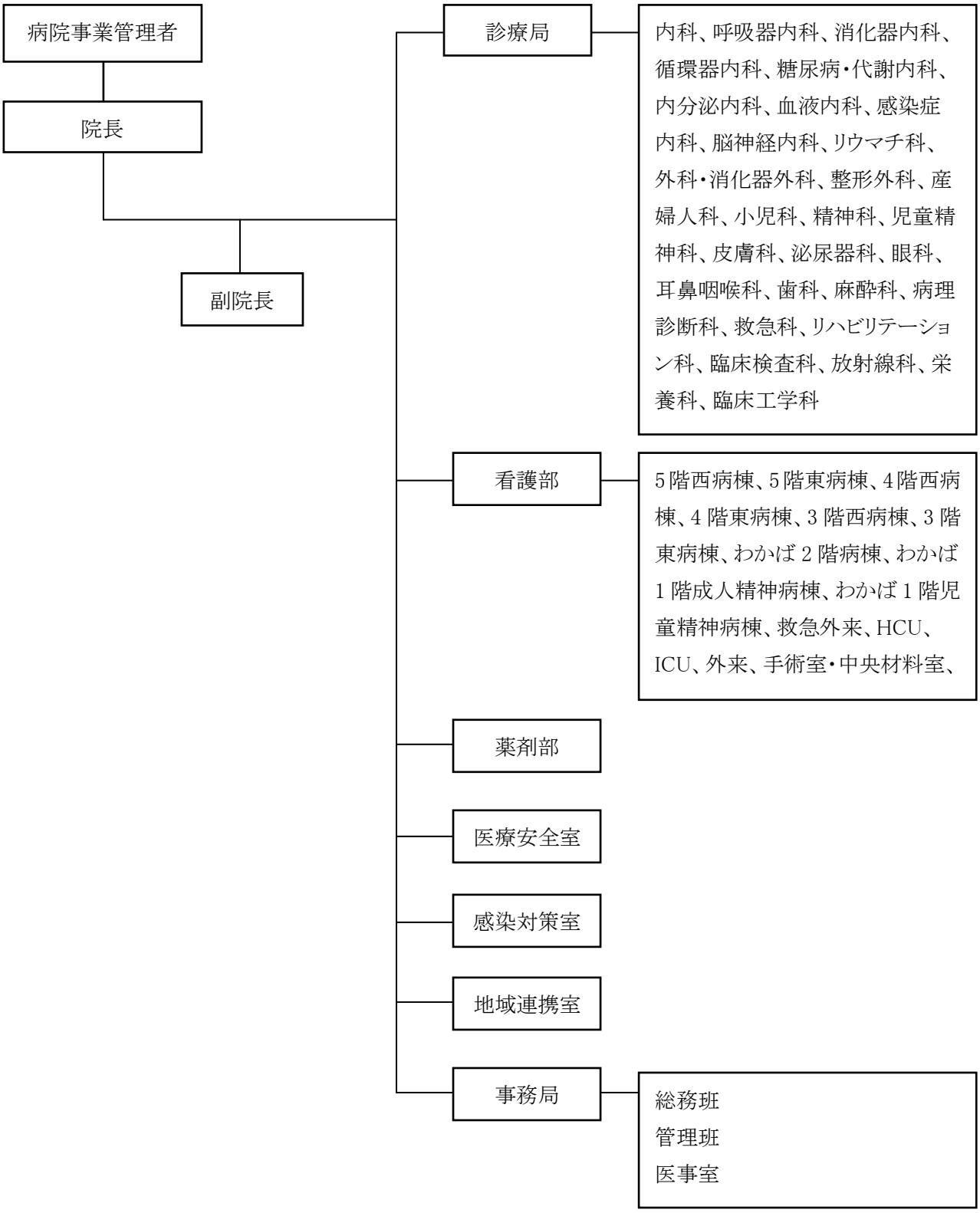
エ　教育研修指定施設一覧

- 日本血液学会専門医制度研修施設
- 日本アレルギー学会認定教育施設
- 日本整形外科学会専門医制度研修施設
- 日本産婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設
- 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
- 骨髄移植推進財団非血縁者間骨髄移植・採取施設
- 厚生労働省臨床研修指定病院（協力型）
- 日本プライマリケア学会認定医研修施設
- 日本内科学会認定医制度教育関連病院
- 日本外科学会外科専門医制度修練施設
- 日本眼科学会専門医制度研修施設
- 日本麻酔科学会認定病院
- 厚生労働省臨床研修指定病院（管理型）
- 日本神経学会認定教育施設
- 日本内分泌学会認定教育施設
- 日本糖尿病学会認定教育施設
- 日本皮膚科学会認定専門医研修施設
- 日本泌尿器学会専門医基幹教育施設
- 日本感染症学会専門医研修認定施設
- 日本精神神経学会精神科専門医制度研修施設
- 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設
- 日本呼吸器学会認定施設
- 日本大腸肛門病学会専門医修練施設
- 日本臍帯血バンクネットワーク登録移植医療機関
- 日本臨床衛生検査技師会認証施設
- 日本周産期・新生児医学会周産期母体・胎児専門医補完研修施設
- 日本手外科学会研修施設
- 日本障害者歯科学会臨床研修施設
- 日本消化器病学会臨床研修施設
- 日本消化器外科学会認定施設
- 日本消化器内視鏡学会指導施設
- 日本がん治療認定医機構認定研修施設
- 日本緩和医療学会認定研修施設
- 日本集中治療学会専門研修施設
- 日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学専門医特定研修施設
- 日本動脈硬化学会専門医教育施設
- 日本有病者歯科医療学会研修施設認定
- 日本リハビリテーション医学会研修施設
- 臨床微生物検査技師制度協議会研修施設

オ　病院配置図

	あおば館	わかば館
5 階	病棟（内科、在宅支援・緩和ケア）	
4 階	病棟（整形外科、内科、産婦人科）	
3 階	病棟（外科、眼科、内科、皮膚科、泌尿器科）	レストラン
2 階	外来診療部門（産婦人科、小児科、泌尿器科、耳鼻いんこう科、眼科）、検査室、手術室、管理部門、医局、医療情報センター、ホールあおば	病棟（小児科、内科、感染症）
1 階	外来診療部門（内科、外科、整形外科、皮膚科）、救急集中治療科、放射線室、生理検査室、内視鏡室、検査処置センター、入退院センター、事務局	外来診療部門（精神科） 病棟（児童精神科、成人精神科） リハビリテーション科
地下	外来診療部門（歯科）、薬剤部、RI 室、栄養中央材料室、SPD、ME センター、ベッドリネンセンター、中央監視室	

カ　病院組織図


病院事業管理者
院長
副院長
診療局
内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、糖尿病・代謝内科、内分泌内科、血液内科、感染症内科、脳神経内科、リウマチ科、外科・消化器外科、整形外科、産婦人科、小児科、精神科、児童精神科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科、麻酔科、病理診断科、救急科、リハビリテーション科、臨床検査科、放射線科、栄養科、臨床工学科
看護部
5階西病棟、5階東病棟、4階西病棟、4階東病棟、3階西病棟、3階東病棟、わかば2階病棟、わかば1階成人精神病棟、わかば1階児童精神病棟、救急外来、HCU、ICU、外来、手術室・中央材料室、
薬剤部
医療安全室
感染対策室
地域連携室
事務局
総務班
管理班
医事室

キ　院内委員会一覧

病院管理会議	病院の運営に関する重要事項を審議決定
病院運営調整会議	病院の運営方針の周知及び各部門の総合調整

病院管理部門

医療安全管理委員会	医療安全管理体制の充実、医療事故防止対策に関する事項
感染対策委員会	感染症対策に関する事項を協議・調整、感染防止を図る
放射線安全管理委員会	医療用放射線設備等の完全管理、患者・医療者の安全確保
医療ガス安全管理委員会	医療ガス設備の安全管理を図り、患者の安全を確保する目的
防火防災委員会	災害の予防及び人命の安全、被害の軽減を図ることを目的
災害医療対策委員会	災害拠点病院の認可に関することとトリアージの実施及び備品管理
衛生委員会	職員の安全と健康の確保及び作業環境形成の促進を図る
診療材料・物流管理委員会	診療材料の適正運用、SPDの効率的運用を図る
医療機器選考・仕様決定委員会	医療機器の購入・更新にかかる事項を協議・検討

診療部門

診療委員会	診療の質的向上、円滑化及び合理化の推進
救急部運営委員会	救急部運営に関する事項を協議・調整
手術室運営委員会	手術室運営に関する事項を協議・調整
放射線科運営委員会	放射線科運営に関する事項を協議・調整
検査科運営委員会	検査科運営に関する事項を協議・調整
リハビリテーション委員会	リハビリテーション科運営に関する事項を協議・調整
MEセンター管理運営委員会	MEセンターの管理運営に関する事項を協議・調整
輸血療法委員会	輸血療法に関する事項を協議・調整
褥瘡対策委員会	褥瘡対策に関する事項を協議・調整
臨床栄養委員会	給食・栄養管理に関する事項を協議・調整
NST 委員会	入院患者の栄養サポートの充実を図る
行動制限最小化検討委員会	行動制限最小化に係る事項及び面会・通信の制限を検討し、患者の権利擁護を図る
病床管理委員会	病床の管理・運用に関する事項を協議・調整
緩和ケア委員会	緩和ケア全般・緩和ケアチームの活動に関する事項の協議・調整
化学療法委員会	化学療法の質的向上、適正化、合理化を図る

診療戦略部門

DPC委員会	DPCの戦略（含コーディング適正化）、診療報酬対策、クリニカルパス、診療録管理に関する調査、協議・調整
DPC詳細検討部会	DPC の適切なコーディングに関する事項
クリニカルパス部会	クリニカルパスの利用率等に関する事項

診療情報提供委員会	診療情報提供に関する事項
必要度委員会	重症度、医療・看護必要度に関する事項
診療録管理委員会	診療録の記載、精度、退院時サマリ、同意書等に関する事項
診療報酬委員会	診療報酬請求に関する事項、査定、返戻に関する事項
地域連携委員会	地域連携に関する事項、地域連携室の運営、院内外広報活動
広報委員会	院内外広報誌及び年報の編集・発行、ホームページの制作・更新にかかる事項を協議・検討

薬剤部門

薬事委員会	薬事業務の適正かつ合理的な運営を図る
治験審査委員会	治験の円滑・適正な実施を図る

情報管理部門

情報システム管理委員会	病院情報システム管理の適正かつ効率的な運営を図る

研究・研修部門

倫理委員会	医学研究及び医療行為等における倫理的、社会的配慮を図る
臨床倫理委員会	医療行為における法的、倫理的、社会的配慮を図る（倫理委員会が所掌する臨床研究を除く）
医師臨床研修管理委員会	臨床研修に関する体制の整備、研修内容の改善・円滑化を図る
図書室整備・運営委員会	図書、各種研修・研究材料の整備・充実

接遇・患者権利擁護部門

患者サービス向上委員会	医療者と患者のパートナーシップ、職員に対する接遇教育・研修、患者及び家族の支援に関する事項を協議・検討
癒しの会	医療以外の目的で実施される患者サービスの推進を図る

2. 診療局報告

内　科

（１）基本方針

内科では消化器、循環器、呼吸器、血液、内分泌代謝、脳神経内科、膠原病、総合診療の各専門科で診療を行っている（腎臓内科は非常勤外来のみ)。近年の高齢化にともない、多くの患者さんは多分野にまたがる問題点を抱えている。そこで内科では、専門分野を持つ医師もすべて、まず患者さんの全体を診(Generalist)、これに更に自分の専門性（Specialist）を加え、専門以外の分野に関しては他の専門医（他科の専門医も含む）とコンサルトをして、その患者さんを診ていくというやり方を徹底している。色々な分野の専門医が１人の患者さんを連携して診るためにも、最大限電子カルテを活用している。病診連携強化を掲げ、開業医の先生からの紹介は24時間を通し原則受け入れている。

（２）実績

病床は約165床で、月あたりの新入院数が約300名、うち約半分の患者さんが救急入院という現状は過去5年間ほぼ変わりない。病床稼動も年平均で90%以上、平均在院日数は約13日間、紹介率も約45%と地域の救急医療のニーズには応えられているのではないかと考えている。

（３）研修、教育

当院の内科は１つで、各分野の垣根を低くし、各専門医が常に意見を出し合い、研修医が専門医に気軽に相談でき、専門医の意見を取りまとめて、診療方針を決定できるシステムとしている。内科は以下のような教育認定施設になっており、スタッフ、実績とも充実している。日本内科学会認定教育関連病院、日本プライマリケア学会教育認定施設、日本血液学会研修認定施設、日本糖尿病学会教育認定施設、日本内分泌学会教育認定施設、日本循環器病学会認定施設、日本呼吸器学会認定施設、日本消化器病学会認定施設などである。

（４）現状での取り組み

当院は救急と高齢者対策に重点をおいているが、その中心を内科が担っている。救急科の協力も得て、2次　救急患者、開業医の先生方からの紹介救急患者を積極的に受け入れている。また在宅医療を推進する目的で、開業医の先生が往診中の患者さんを登録していただき、夜間,休日などの急変時の対応、また在宅を続けるための医療面でのバックアップをはかり、在宅医療をされている先生方からも高い評価を受けている。

消化器内科

（１）概要

常勤医師４名、後期研修医１名で、消化器疾患に対する診療全般を行っています。消化器外科との密な連係協力体制の下で最善の方法を選択の上、きめ細かい治療を行 っています。

（２）実績および取り組み

消化器内科の業務の中で最も大きな比重を占めるのが消化管内視鏡検査と処置です。

経鼻内視鏡及び鎮静下内視鏡検査にも対応して苦痛の少ない検査を心がけており、また、ＮＢＩシステムの導入により精細な画像診断をすることで消化管腫瘍の早期診断・早期治療につながるように努めています。

内視鏡検査及び処置件数は新型コロナウイルス感染症流行の影響もあって、一部例年より若干少ない件数となりましたが、本年度でおおよそ上部内視鏡検査 2000 例、大腸内視鏡検査 1500 症例、内視鏡処置では消化管腫瘍性病変の EMR および ESD 400 例、EST などの内視鏡的胆道系検査および治療 110 例を施行しました。

救急搬送後に緊急内視鏡処置が必要な症例は平日日勤帯はもちろんのこと、夜間休日でも二次救急指定日においてはオンコール体制をとって完全対応しております。

その他、イレウス、虫垂炎、憩室炎、非特異的炎症性腸疾患、急性肝炎、肝硬変、 肝膿瘍、急性膵炎、消化器悪性腫瘍など各種消化器疾患に対する検査および治療に対　応をしております。

（３）スタッフ

橘川嘉夫
宮本禎浩
畠山一樹
小関寛隆
三輪千尋（後期研修医）

循環器内科

（１）概要

スタッフは常勤医師５名で診療している。認定循環器専門医研修施設の認定も受けており、循環器科として高度かつ適正な医療を目指している。特に、急性期病院として、急性心筋梗塞や急性心不全などの循環器救急医療に力を入れている。

（２）一般診療および検査と治療

循環器科外来は、毎年約 9000～10000 人の来院があり、令和元年度の検査実績では、心エコー2429 件/年、ホルター心電図が 375 件/年、トレッドミルテスト 60 件/年、心臓核医学検査(心筋シンチ)124 件/年と昨年度とほぼ同等の件数で経過している。また、心臓カテーテル検査総数は 338 件でその内 159 件で経皮的冠動脈形成術（PCI）を施行している。PCI の半数は緊急症例であり、夜間など時間外の症例が全体の約２割を占めている。当科では予定の PCI に関しても心臓 CT、負荷心筋シンチや冠血流予備量比測定により、虚血性心疾患を正確に評価し、適正な冠動脈形成術を施行している。今までは石灰化の強い冠動脈病変に対しては治療に難渋することもあったが、令和２年９月から高度石灰化病変に対する切削治療器具（Rotablator）の施設認定を受けたため、より幅広い患者層に対して PCI を施行できることとなった。また、閉塞性動脈硬化症のスクリーニングのため ABI 検査を 760 件/年施行しており、下肢動脈に対する経皮的血管形成術も積極的に施行している。最近は、心房細動、肺塞栓血栓症あるいは深部静脈血栓症の患者の増加に伴い、抗凝固療法を必要とする患者の入院が増加している。その他、不整脈治療では、ペースメーカー治療も 16 件／年施行している。また、集中治療室と連携しながら、大動脈内バルーンパンピング法、経皮的心肺補助装置や持続透析療法による重症心不全の治療も可能となっている。

（３）担当医師

志鎌　伸昭　（循環器専門医、総合内科専門医、）

石尾　直樹　（循環器専門医、総合内科専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医）

正司　俊博（循環器専門医、総合内科専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医、高血圧専門医）

竹田　雅彦（救急科専門医、内科認定医）

盛　直人（内科認定医、日本心血管インターベンション治療学会認定医）

呼吸器内科

（１）概要

スタッフは常勤医師 3 名(うち 1 名は時短)で診療しています。日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本感染症学会認定研修施設の認定を受けています。各種呼吸器疾患の急性期および慢性期管理に力を入れています。

（２）一般診療および検査と治療

呼吸器内科外来は、月・水・木・金で多数の患者に診療にあたっています。また、気管支鏡検査は原則火曜日午後に行い、年間 150 例前後実施しています。来年度から超音波内視鏡導入予定で、診断率向上が期待できます。必要に応じて CT ガイド下肺生検も行っています。

（３）担当医師

瀧口　恭男（日本呼吸器学会専門医・指導医、日本呼吸器内視鏡学会専門医・指導医、
日本感染症学会専門医・指導医、抗菌化学療法指導医、インフェクション
コントロールドクター)

永吉　優

松浦　有紀子

血液内科

(1)　概要

常勤医師 6 名で、造血器疾患一般に対する診療を行っている。診療の中心は造血器腫瘍だが、貧血や血小板減少症など良性疾患の診療も行っている。造血幹細胞移植は血液疾患診療の重要な治療法で、当科でも中心的な役割を果たしている。当院での移植件数は延べ 300 件を超えたが、移植可能な施設が限られているため、千葉市のみならず県内から広く症例を受け入れている。日本血液学会血液研修施設、日本骨髄バンクならびに日本臍帯血バンクネットワークの認定を受けており、診断から移植まで連続した診療が可能となっている。

(2)　一般診療および検査と治療

入院患者数は年々増加している。その多くは急性白血病、慢性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの造血器腫瘍であり、化学療法を中心とした治療を行っている。移植件数は年間 30 件で増加傾向にある。

化学療法は時に重篤な合併症を来たすため、『安全な治療』は当科にとって永遠の課題である。このためには業務の効率化が重要であり、看護師と協力してクリニカルパスの充実を図っている。病棟・外来スタッフのみならず、検査科、薬剤部、さらに今年度より栄養科、リハビリテーションが積極的に治療に参画するようになり、より専門的な対応が可能となった。

(3)　スタッフ

横田　朗

小野田　昌弘

鐘野　勝洋

永尾　侑平

糖尿病・代謝・内分泌代謝内科

（1）概要

日本糖尿病学会、日本内分泌学会の教育認定施設であり、前期のみならず後期研修医の指導にも当たっている。

（2）実績と現状と新しい取り組み

本年度も外来・入院とも患者数が増加し、糖尿病、甲状腺・副甲状腺疾患を中心として骨・カルシウム代謝疾患、原発性アルドステロン症などの紹介患者も引き受けている。

本年度は 126 名に、入院にて糖尿病の指導・治療を行った。疾患の内訳もメタボリックシンドロームを背景とした 2 型糖尿病患者から、1 型糖尿病患者、ステロイド糖尿病、糖尿病ケトアシドーシス・高浸透圧性非ケトン性昏睡といった救急疾患まで幅広く積極的に受け入れている。

外来では糖尿病療養指導士の資格を持つ看護師と栄養士を中心に患者教育に力を注いでいる。地域診療連携にも力を入れており、当院独自の取り組みである糖尿病週末入院プログラム（主に開業医師より依頼いただく）にて、短期入院にて糖尿病管理に必要な患者教育も行っている。

また月 2 回糖尿病教室も開催している。

昨年度より透析予防指導も開始し看護師・栄養士と共に、主に早期腎症の患者を中心に介入を行い、年間 80 件以上を目標に積極的に介入を行っていく予定である。

内分泌疾患に関しては、平成 30 年 4 月より当院耳鼻科とも協力し「甲状腺・副甲状腺センター」を立ち上げた他、原発性アルドステロン症を対象とした副腎静脈サンプリングも開始している。

甲状腺・副甲状腺センターに関しては、バセドウ病、橋本病、甲状腺腫瘍の精査加療依頼が主となっている。

バセドウ氏病に対しては放射線治療も手がけており、年間平均 30 件ほど施行している。

平成 31 年 4 月からは耳鼻科常勤医師が不在となり当院での手術はできないものの、千葉大学・海浜病院および近隣の耳鼻咽喉科と連携しながら治療にあたっており、外科治療を要する疾患の相談にも十分対応可能である。

副腎静脈サンプリングは毎週火曜日午後に実施している。週 1 件のペースではあるが、これまで周辺医療機関では千葉大学に紹介せざるを得なかった二次性高血圧症例にも早期に対応することが可能になっており、昨年度は 38 名に対してサンプリングを実施した。

教育認定施設として、毎年糖尿病学会・内分泌学会の各総会（および関連学会）にて演題も発表している。

当科は糖尿病内分泌代謝疾患患者を幅広く受け入れており患者数は年々増加の一途のため、さらに病診連携を徹底すべく努力している。

（3）担当医師

山本恭平（S57 卒）（糖尿病専門医・指導医，内分泌専門医・指導医）

番　典子（H16 卒）（糖尿病専門医）

河野貴史（H20 卒）（糖尿病専門医、内分泌専門医）

脳神経内科

（１）概要

神経内科は脳、脊髄、末梢神経、筋肉の疾患を対象に診療しており、外来は火曜、木曜、金曜の午前と水曜の午後に行っている。当院では特に脳血管障害に対する MRI、MRA、脳血流 SPECT、３D-CT 血管撮影、DAT スキャンなど最新の機器での精査を迅速に行うことが可能であり、早期診断と治療、発症早期からのリハビリを積極的に行っている。

（２）実績

令和元年度の神経内科の外来患者数は 3314 名、入院の担当患者数は 148 名であった。入院患者の疾患内訳は脳梗塞、脳出血、くも膜下出血などの脳血管障害が最も多く、次いで髄膜炎、脳炎、脳膿瘍、脊髄炎などの神経感染症、代謝性脳症、めまい、てんかん、多発性硬化症、GBS などの免疫性疾患、変性疾患であった。

（３）スタッフ

青墳章代（神経内科専門医・指導医、リハビリテーション科専門医・指導医、内科認定医）
和田　猛（神経内科専門医・指導医、内科認定医）
青墳佑弥（神経内科専門医、リハビリテーション科専門医、内科認定医）

リウマチ科

（1）概要

リウマチ・膠原病・アレルギー疾患を対象とし、外来、入院診療に勤めている。
現在常勤医 1 名、後期研修医 1 名、非常勤医師 2 名の医療体制を敷いている。

（2）実績

常勤医赴任より 7 年が経過し、外来患者数、入院患者数共に増加傾向にある。外来診療は月曜、火曜、水曜、木曜に行っており、入院加療が必要となった場合ほとんどのケースで迅速な対応が可能である。
リウマチ性疾患の診断、治療評価には関節超音波検査を積極的に用いており、また各種分子標的製剤も取り揃えている。尚アレルギー疾患については、専門的な精査加療が必要な場合は千葉大学医学部附属病院アレルギー専門外来への紹介を行っている。

（3）スタッフ

小林　芳久
高山　明日香
池田　啓(非常勤)
古田　俊介(非常勤)

総合診療内科

（1）概要

総合診療医として当院の日々の初診外来を担当し、症例の精査・加療・振り分けを行っている。

（2）実績と現状と新しい取り組み

初診外来を日々行うことにより多岐にわたる症候を担当し、必要な症例については速やかに各専門診療科に紹介、発症からタイムラグ少なくスムーズに治療に結びつけることを日々心がけている。専門診療科に振り分けることのできないような疾患についての外来・入院も担当している。また、初期研修教育にも携わり、カンファレンスや勉強会を開催する傍ら、27 年度からは臨床研修管理委員長の役割を担っている。

周囲の診療所への認知度が高まるにつれ、総合診療科宛の紹介状も徐々に増加しており、今後更にその枠を拡大する予定である。

（3）スタッフ

梶原　秀喜

外科・消化器外科

（1）概要

消化器外科専門スタッフ６名にて一般外科、消化器外科および救急医療に従事している。

（2）科の特徴

消化器外科を中心とした専門的かつ QOL（生活の質）を重視した治療方針のもとに、コメディカル・スタッフと連携した患者さん中心の医療を目指している。

この方針のもとに、諸機能温存手術、腹腔鏡下手術、内視鏡治療を積極的に行っている。また、SSI（surgical site infection）の予防処置を様々に講じ、とくに感染源ともなりうる絹糸を体内に使用せず、結紮縫合は合成吸収糸を用いている。

電子カルテに連動したクリィティカルパスを利用して、標準的治療の情報を共有しながら治療目標を設定し、医療サービスの向上、チーム医療推進に努めている。

千葉市の夜間外科系救急２次病院の役割を担っており（週２日）、救急医療に積極的に対応している。

地域中核病院として、紹介、逆紹介を通して病診連携の推進に努めている。

わかりやすく納得のいく説明と同意（Informed Consent）を心がけ、プライバシーを配慮し、自由な意志に基づいて治療方針を決定している。

（3）スタッフ

安藤　克彦
小田　健司
清水　康仁
登内　昭彦
信本　大吾
藤野　真史

（4）診療内容

・消化器癌（食道、胃、大腸、肝、胆、膵）に対する合理的、up-to-date な外科治療
・胆石症、良性腸疾患、胃癌、大腸癌に対する QOL を重視した腹腔鏡下手術（特に、整容性を重視した単孔式腹腔鏡下手術の導入・施行）
・腹部救急疾患（消化管穿孔、急性虫垂炎など）に対し、術後 QOL を配慮した腹腔鏡下手術の採用
・鼠径ヘルニア、腹壁ヘルニアに対する人工補強材（ポリプロピレンメッシュ）を使用した創の緊張を少なくした根治術及び、腹腔鏡下鼠径・腹壁ヘルニア修復術の導入・施行
・胃・大腸ポリープ、粘膜癌に対する内視鏡的粘膜切除術（EMR）,粘膜下層剥離術（ESD）
・進行消化器癌に対する化学療法、分子標的薬治療等の集学的治療
・栄養サポートチームによる栄養管理
・緩和ケアチームによる末期癌患者に対する緩和医療

（5）診療実績　令和元年度

●患者状況

入院患者総数	674
紹介患者数	380
緊急入院	149（22.1%）
退院患者総数	664
死亡退院患者	5　（0.7%）
平均在院日数	9.5 日

● 緩和医療

入院患者数	4
死亡退院	4　（100%）

● 手術実績

手術総数	365
緊急手術	64　（17.5%）
悪性腫瘍	102　（27.9%）
75 歳以上	206　（56.4%）
再 手 術	3　（0.8%）
腹腔鏡手術	223　（61.0%）
胆嚢摘出術(単孔式)	56　（47）
鼠径ヘルニア修復術 総数	100
腹腔内アプローチ TAPP	0
腹膜外アプローチ TEP	98
HYBRID	2
腹壁ヘルニア修復術	1
開腹移行	5　（2.2%）
緊急手術	10
開腹移行	0

● 内視鏡治療

総数	272
上部消化管 EMR	2
上部消化管 ESD	11
緊急手術	0
下部消化管 EMR	226
下部消化管 ESD	33
緊急手術	1

整形外科

（1）概要

地域医療の基幹病院として近隣の病院や診療所・クリニックとの連携をはかり、上・下肢、関節、脊椎など整形外科全般にわたる疾患・外傷に対して幅広く対応している。長寿化に伴いさまざまな合併症のある高齢者の受診が増加しているが、他科との連携をはかり、個々の症例に応じた QOL を大切にして、最善の方法を説明・同意の上、治療を行っている。

（2）診療体系

平成 24 年 4 月より千葉市立海浜病院と統合し、令和元年度は手・肘・肩・膝・股関節および脊椎の専門医 8 名を含め、総勢 11 名で診療に当たっている。

外来診察は月～金の午前中は 5 診で行い、うち 2 診が新患および救急患者に対応し、午後も救急患者の対応や専門外来などを行っている。

手術は月～金の毎日午前、午後で行っており、緊急手術にも対応している。

千葉市夜間外科系救急の 2 次病院として週 5 日（火、水、金、土、日）当直医師 1 名、待機医師 1 名の体制で診療に当たっている。また休日 2 次医療機関として日直医師 1 名、待機医師 1 名の体制で、月 2 回救急対応を受け持っている。

（3）スタッフ

六角　智之　　（診療局長）
坂本　雅昭　　（統括部長）
茂手木　博之　（部長）
渡邉　仁司　　（部長）
山田　俊之　　（リハビリテーション科部長）
山口　毅　　（主任医長）
佐藤　純　　（主任医長）
輪湖　靖　　（医長）
戸口　泰成　　（医長）
北條　篤志　　（医長）
寺川　文英　　（医師）

（4）診療内容

- 地域医療の中核的病院として、手術を要する外傷はもとより関節疾患、脊椎・脊髄疾患および上肢疾患などの診断から治療に対応している。
- 手の外科症例のうち 90%は県下からの紹介で、手術件数の 40%程度が上肢の手術症例である。
- 特に小児外傷の紹介は多く、県内でも有数の症例数を治療している。
- 高度な専門医療を要する疾患は、千葉大学医学部附属病院をはじめ専門医療機関と綿密な連携をもちながら最新の診療をおこなっている。

（5）教育

千葉大学医学部整形外科の研修指定病院として学生教育、研修医教育を実践している。

日本整形外科学会専門医制度研修施設、日本手外科学会認定研修施設

（６）診療実績

令和元年度の外来新患数は 3217 人で、年間手術件数は 1786 件と県内でもトップクラスである。その内訳は全麻手術 738 件、腰麻・硬麻手術 137 件、伝麻・局麻手術 827 件、脊椎・脊髄疾患 132 件および人工関節 214 件などである。また最近では特に注意深い周術期管理が必要な高齢者の大腿骨転子部骨折・大腿骨頸部骨折が増加しているが、可能な限り早期手術を施行し、近隣のリハビリテーション病院と連携することで機能回復に取り組んでいる。

小児科

（1）スタッフ

統括部長：地引利昭

部長　　：大嶋寛子

（2）診療体系

午前は一般診療、午後は基礎疾患のある小児の予防接種、当院出生の１か月児の乳児健診（水曜日午後)、体重増加不良などのフォローアップ、循環器専門外来(火曜日午後)予約制の外来診療である。

（3）科の特徴

感染症を中心とした一般診療、遷延する咳嗽や繰り返す気道感染症に対しては、喀痰を採取、細菌迅速検査などで診断、治療を行っている。小児循環器外来（火曜日午後)、心雑音、胸痛、心電図異常などの循環器疾患の診療を行っている。逆紹介も積極的に行い、病診連携に努めている。

（4）教育

初期研修医　小児科研修は海浜病院で実施

（5）診療実績

・入院患者総数　50 名

他院からの紹介入院　39 名（78.0 %）

自院外来からの入院　 9 名

院内出生新生児　　 2 名

・入院症例の主な疾患

呼吸器感染症　30 例（肺炎 5（肺炎球菌 2,マイコプラズマ１,ヒトメタニューモウイルス１），気管支炎 6, 細気管支炎 10（RS ウイルス 9）,中耳炎１，インフルエンザ１他）

消化器感染症　 5 例（ロタウイルス 4 , アデノウイルスｽ１）

気管支喘息発作 8 例

新生児疾患 3 例（体重増加不良１, 哺乳不良１, 新生児仮死１（千葉大学からの back transfer）

その他　　4 例（伝染性単核球症１,蜂窩織炎１,急性腎盂腎炎１,アセトン血性嘔吐症１）

・主な紹介先と症例

千葉大学病院

小児科：　川崎病１, 慢性甲状腺炎 1, QT 延長１、新生児科：新生児仮死１

小児外科:腸重積症２, 巨大尿管伴う両側水腎症１, 腎嚢胞１, 間欠的水腎症１, 鼡径ヘルニア１, 急性虫垂炎１

順天堂大学浦安病院

小児科：気胸１

千葉県こども病院

循環器科：動脈管開存症１, 心房中隔欠損症 1、神経内科：てんかん１、

総合診療部：川崎病１

千葉市立海浜病院
　蜂窩織炎１（小児科）

＊平成 29 年度 10 月から引き続き常勤医師２名体制。平日 18 時までの対応であり、
　千葉市夜間・休日二次当番病院輪番体制には引き続き参加せず。夜間小児科医不在であり重症患者の受け入れはできないものの外来診療で管理困難な患者の早期診断と重症化の予測をトリアージし近隣の高次医療機関へ速やかに紹介している

児童精神科

(1) 概要

専任の児童精神科医 3 名、心理療法士、精神保健福祉士、作業療法士が、外来・入院診療を担当している。児童･思春期患者専用の病棟を有しており、外来治療だけでは回復の難しい症例や、外来に通院すること自体が困難な症例などについては、入院治療を行っている。病棟の同世代集団との生活を通して自信を回復し、社会に適応できる力を身につけることによって、長期にわたる引きこもりを回避することを目指している。

他の教育機関、福祉機関との連携を重視しており、現在、教育センター、児童相談所、児童自立支援施設、児童養護施設に嘱託医を派遣している。被虐待児で精神障害を合併しているような症例の外来・入院治療を委託されることが増えている。

（2）診療体系

【外来】

外来診療は、成人精神科医師 3 名と共同で行っている。児童期から思春期の心の問題全般に対応している。

診察室は、初診 1 室、再診 2 室の 3 診制を基本としている。児童・思春期外来の初診日は、月曜日、火曜日、水曜日の午前中であり、週に 12 例の初診患者を診察している。平成 19 年 1 月より、再来患者に加え、初診患者も予約制となっている。初診は小・中学生を対象としているが、高校生年代を診察する場合もある。再来患者については対象年齢に上限を決めていないため、20 歳以降も児童精神科医が継続して外来診療を行う場合がある。

外来患者は、自閉スペクトラム症、注意欠如多動性障害、学習障害などの発達障害が多く、他にも、早期発症ないしは前駆期の統合失調症、うつ病、躁うつ病、摂食障害、神経症性障害、チック障害など多岐にわたる。精神・知能の発達段階の評価や、心の問題における心理社会的評価を行い、年齢に応じた心理療法（遊戯療法）、薬物療法等を実施している。

【入院】

全国でも数少ない児童・思春期専門の病棟であり、入院患者は、原則として小・中学生を対象としている。閉鎖病棟であり、病床は全 28 床である。病床の内訳は、4 人部屋が 20 床、個室が 6 床、隔離室が 2 床である。病棟内に、千葉市立星久喜小学校・星久喜中学校の分教室（院内学級）を併設しており、専従の小学校教員 1 名、中学校教員 3 名が教育を担当している。

入院患者は、長期にわたる不登校・引きこもりを経験していることが多く、背景に発達障害を有する症例が増加している。当病棟では教育と治療を同時に行える利点があり、教育センターなどの教育機関が介入しても復学が困難であった不登校のケースを積極的に受け入れている。入院患者の半数近くが中学 3 年生であり、高校進学に向けて比較的長期間の入院治療計画を立てている。在院日数が 1 年近くに及ぶ症例もある。院内学級での学習支援を経て、ほぼ全例、高校進学を果たしている。

入院患者は、発達障害の他、統合失調症、躁うつ病、適応障害、摂食障害、神経症性障害など多岐にわたっている。病棟では 4 床室での生活が基本で、同年代との集団生活を通して社会性の発達を促す

ことを治療の柱のひとつとしている。看護師、教員、精神保健福祉士、臨床心理士、作業療法士、医師などの多職種が、それぞれの専門性を活かしながらチーム医療を実践している。個人精神療法、集団精神療法、作業療法、ソーシャル・スキル・トレーニング、家族面談、生活療法など複数の治療プログラムを実践している。

(3) スタッフ

児童精神科医；　篠田　直之、鈴木　陽大、早津　龍之介
心理療法士；　門倉　雄一郎、馬場　翔吾、梅木　沙也佳
精神保健福祉士；　大園　優子
作業療法士；　田辺　美枝子、上本　慈子

新規入院患者診断カテゴリー別統計（入院）

性別		男							女							合計	%
年齢区分		就学前	小1～小3	小4～小6	中学生	中卒～18歳未満	18歳～20歳未満	計	就学前	小1～小3	小4～小6	中学生	中卒～18歳未満	18歳～20歳未満	計		
診断名																	
Ｆ０　症状性を含む器質性精神障害								0							0	0	0.0
Ｆ１　精神作用物質による精神及び行動の障害								0							0	0	0.0
Ｆ２　精神分裂病、分裂病型障害及び妄想性障害								0				2			2	2	5.1
Ｆ３　気分（感情）障害					1			1				1			1	2	5.1
Ｆ４　神経症性障害	F40 恐怖症性不安障害				1			1				4			4	5	12.8
	F41 他の不安障害							0							0	0	0.0
	F42 強迫性障害				1			1				1			1	2	5.1
	F43 重度ｽﾄﾚｽ反応			2	5			7			2	8			10	17	43.6
	F44 解離性障害				1			1			1	1			2	3	7.7

	F45 身体表現性障害			1	1			2				3			3	5	12.8
	F48 その他							0							0	0	0.0
Ｆ５　生理的障害及び・・・	F50 摂食障害							0				2			2	2	5.1
	F50 以外							0							0	0	0.0
Ｆ６　成人の人格及び行動の障害								0							0	0	0.0
Ｆ７　精神遅滞								0							0	0	0.0
Ｆ８　心理的発達の障害	F84 広汎性発達障害							0							0	0	0.0
	F84 以外							0							0	0	0.0
Ｆ９　行動及び情緒の障害	F90 多動性障害							0							0	0	0.0
	F91 行為障害				1			1							0	1	2.6
	F92 混合性障害							0							0	0	0.0
	F93 情緒障害							0							0	0	0.0
	F94･･･社会的機能障害							0							0	0	0.0
	F95 チック障害							0							0	0	0.0
	F98 その他							0							0	0	0.0
	F99 特定不能							0							0	0	0.0
Ｇ40　てんかん								0							0	0	0.0
その他								0							0	0	0.0
合計		0	0	3	11	0	0	14	0	0	3	22	0	0	25	39	100
不登校を伴うもの		2	10					12	3	10					13	25	64.1

（2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日）

*主診断のみ集計。

*併存を含め F84 と診断されたものは 10 例(26%)、併存を含め F90 と診断されたものは 7 例(18%) 。

*虐待を認めるものは 8 例 (20.5%)。

新規外来患者診断カテゴリー別統計（外来）

性別		男							女							合計	%
年齢区分		就学前	小1～小3	小4～小6	中学生	中卒～18歳未満	18歳～20歳未満	計	就学前	小1～小3	小4～小6	中学生	中卒～18歳未満	18歳～20歳未満	計		
診断名																	
Ｆ０　症状性を含む器質性精神障害								0							0	0	0.0
Ｆ１　精神作用物質による精神及び行動の障害								0							0	0	0.0
Ｆ２　精神分裂病、分裂病型障害及び妄想性障害				1	2	1		4				2			2	6	1.3
Ｆ３　気分（感情）障害				2	4	2		8			2	18	4		24	32	6.9
Ｆ４　神経症性障害	F40 恐怖症性不安障害		1	3	10	1	2	17		1		4	3		8	25	5.4
	F41 他の不安障害		3	4	3	1		11		6	2	8	1		17	28	6.0
	F42 強迫性障害			1	4	1		6				1			1	7	1.5
	F43 重度ｽﾄﾚｽ反応		2	11	22	1		36		1	13	27	7	4	52	88	19.0
	F44 解離性障害				2	1		3			4	3		1	8	11	2.4
	F45 身体表現性障害			3	7	1		11			4	10	2	2	18	29	6.3
	F48 その他							0							0	0	0.0
Ｆ５　生理的障害及び・・・	F50 摂食障害							0			1	5	2	2	10	10	2.2
	F50 以外	1	1	1				3		1					1	4	0.9
Ｆ６　成人の人格及び行動の障害			1					1				3			3	4	0.9
Ｆ７　精神遅滞			2	5	2		1	10			1	1	1		3	13	2.8
Ｆ８　心理的発達の障	F84 広汎性発達障害		10	13	13	7	1	44		8	6	9	2		25	69	14.9

害	F84 以外		4	3	1		1	9		1			1	1	3	12	2.6
Ｆ９　行動及び情緒の障害	F90 多動性障害		23	18	9	3		53		4	4	2	2	1	13	66	14.2
	F91 行為障害		1	10	4			15			1	1	1		3	18	3.9
	F92 混合性障害							0							0	0	0.0
	F93 情緒障害		2	1	3			6		1		9			10	16	3.4
	F94･･･社会的機能障害			3	1			4		1	2	2			5	9	1.9
	F95 チック障害		3	2	1		1	7		2					2	9	1.9
	F98 その他							0		1					1	1	0.2
	F99 特定不能							0							0	0	0.0
Ｇ40　てんかん								0							0	0	0.0
その他				2	2			4				3			3	7	1.5
合計		1	53	83	90	19	6	252	0	27	40	108	26	11	212	464	#####
不登校を伴うもの			6	30	46	4	1	87		7	21	57	10	5	100	187	40.3

（2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日）

*主診断のみ集計。

*併存を含め F84 と診断されたものは 147 例(31.7%) 、併存を含め F90 と診断されたものは 106 例(22.8%)。

*虐待を認めるものは 58 例 (12.5%)。

成人精神科

（ア）スタッフ

統括部長：野々村司、主任医長：松浦暁子、医師：篠田菜々が、計 3 名態勢で、外来と入院の診療に当たっている。

野々村、松浦は精神保健指定医である。

コメディカルは、臨床心理士 1 名（非常勤）、作業療法士 2 名（常勤）、精神保健福祉士 1 名（常勤）で、入院集団精神療法、生活技能訓練法等を行っている。臨床心理士は心理検査についても担当し、精神保健福祉士は退院支援を含め、療養上の相談を行っている。作業療法士は、児童精神科の担当を兼務している。

（イ）診療体制

【外来】

外来診療については、児童精神科医師 3 名と協同で行っている。毎日 3 名の医師が担当し、「初診」と「再診」の 3 診制を基本として診療を行っている。診療の対象としては、気分障害、神経症圏、認知症を含めた老年期精神障害が多い。統合失調症圏等の精神障害も扱っているが、中毒性精神障害の専門的治療は行っていない。

初診については、予約制をとっている。

【入院】

病棟は閉鎖病棟であるが、可能な限り開放的な医療を実施している。28 床で、内訳は隔離室 3 床、個室 9 床、4 人部屋 16 床である。措置入院の指定病床を 2 床確保し（令和元年 9 月 30 日までは 1 床）、特に身体合併症を有する措置入院患者を受け入れている。

（ウ）科の特徴

いわゆる総合病院精神科の役割として、精神障害者の身体合併症例を、一般病院や精神科単科病院から受け入れ、各診療科の医師の協力のもとで治療を行っている。一方で、一般診療科入院患者の様々な精神的問題にも積極的に対応し、リエゾンチーム、高齢者サポートチーム、緩和ケアチームの活動にも参加している。

疾患群および年齢層の特徴としては、初老期・老年期の気分障害圏の患者が多い、という傾向があげられる。また、うつ病の重症例や、統合失調症の昏迷状態等に対して、麻酔科の協力のもと修正型電気けいれん療法も施行可能である。

比較的軽症例を対象とした社会機能訓練(Social skill training)も、毎週水曜日に病棟で行っている。また、児童精神科の業務を兼務する作業療法士が 2 名配属され、体操、ストレッチ等の導入等、集団精神療法の幅も広げている。退院調整に難渋する症例については、精神保健福祉士と看護師が協働し、退院前訪問指導を実施している。

（エ）診療実績（平成 31 年 4 月～令和元年 3 月）

【外来（児童精神科も含む）】

診療日数（240 日）で、初診患者数（669 名）、一日平均初診患者数（2.79 名）、延患者数（18,172 名）、一日平均患者数（75.7 名）であった。

【入院】

入院患者数は、128 名（男性 31 名、女性 97 名）であった。入院患者で、他科の診療を要する程度の身

体合併症を有したもの（身体合併症加算相当のみ）は 34 名(全体の 26.6%)だった。入院形態別では、措置入院の受け入れは 1 名、医療保護入院 56 名、任意入院 71 名だった。

入院患者の年齢内訳

年齢区分	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代	80 歳代以上
人数	8	7	13	18	28	18	23	13

入院患者の精神疾患内訳

	男性	女性	計
器質性精神障害	8	12	20
中毒性精神障害	3	0	3
統合失調症	9	21	30
気分障害圏	5	33	38
神経症圏および人格障害	5	23	28
その他	1	8	9
総計	31	97	128

無けいれん電撃療法（mECT）施行実績

施行人数（実数）	施行回数（延べ）
8	111

合併症患者内訳

脳神経系	0
呼吸器系	3
循環器系	1
消化器系	10
血液系	1
内分泌・代謝・膠原病	11
産婦人科系	1
整形外科系	4
泌尿器科系	0
眼科系	0
皮膚科系	0
耳鼻咽喉科系	0
その他	3
計	34

精神科退院前訪問指導施行実績

施行人数（実数）	施行回数（延べ）
6	18

【心理検査】

	人数	件数
4 月	10	20
5 月	6	12
6 月	10	22
7 月	11	21
8 月	9	16
9 月	10	18
10 月	6	10
11 月	10	19
12 月	10	16
1 月	9	20
2 月	8	13
3 月	12	23
合計	111	210

【生活技能訓練法】

	オープン SST 参加患者数
４月	33
５月	25
６月	28
７月	36
８月	26
９月	18
１０月	34
１１月	29
１２月	39
１月	29
２月	24
３月	54
合計	375

【集団精神療法】

	参加患者数
4 月	10
5 月	80
6 月	51
7 月	76
8 月	77
9 月	85
10 月	82
11 月	98
12 月	87
1 月	80
2 月	55
3 月	87
合計	913

集団精神療法プログラム		
季節行事	プログラム	
端午の節句	カレンダー作り	染め物
七夕の会	コラージュ	エコバッグ作り
お月見会	習字、硬筆	季節の壁飾り作り
クリスマス会	ちぎり絵	羊毛フエルト作り
ひなまつり	折り紙、切り紙	しおり作り
	ぬり絵	コースター作り
	園芸	茶話会

産婦人科

【臨床統計】

手術数

術　式		件　数
腹式単純子宮全摘術		94
子宮筋腫核出術	腹式	28
	腟式	4
卵巣の手術	腹腔鏡	49
	腹式	15
異所性妊娠の手術	腹腔鏡	6
	開腹	2
骨盤臓器脱の手術		15
子宮鏡下手術（粘膜下筋腫　ポリープ）		15
小手術		
子宮頚部切除術		60
子宮内膜そうは術		10
流産手術（人工妊娠中絶も含む）		24
その他（コンジローマ焼灼、頚管ポリープ切除など）		16

分娩数

分娩様式	
総数	178
自然分娩	117
吸引分娩	8
選択的帝王切開	16
緊急帝王切開	37

【スタッフ】

松本玲子
西脇哲二
金谷裕美
林　伸彦
山本敬介

皮膚科

（1） 概要

常勤医師 2 名で診療している。外来診療が主で、毎日 2 名体制で診療を行っている。アトピー性皮膚炎や白癬をはじめとする一般的な疾患の他、自己免疫性水疱症（水疱性類天疱瘡、尋常性天疱瘡、落葉状天疱瘡）、乾癬、多汗症、陥入爪など、幅広く診療している。また、毎週金曜日に中央手術室にて手術を行っている他、平日午後にも外来手術室にて手術を行っている。

千葉市の皮膚科では数少ない入院の受け入れもしており、主に蜂窩織炎、水疱症、薬疹といった患者の入院加療を行っている。

（2） スタッフ

根岸　麻有子

岡﨑　大二郎

（3） 診療内容

通常の外用治療、内服治療の他、主に下記のような検査や治療を行っている。

【検査】

・ダーモスコピー

・真菌鏡検

・皮膚生検、筋生検、側頭動脈生検

・パッチテスト

・光線過敏症検査

【処置、治療】

・液体窒素

・紫外線治療（Narrow-band UVB）

・手術治療（単純縫縮、植皮）

・乾癬患者に対する生物学的製剤治療

・イオントフォレーシス

・多汗症ボトックス注射

・陥入爪ワイヤー治療

・局所陰圧閉鎖療法

（4） 教育

日本皮膚科学会認定専門医研修施設であり、後期研修医育成にも力を入れている。

（5） 診療実績

外来患者数：年間約 10000 人

入院患者数：年間約 100 人

良性腫瘍手術 件数：78 件

悪性腫瘍手術 件数：25 件

皮膚切開術 件数：79 件

皮膚生検 件数：195 件

(2019/4/1～2020/3/31)

泌尿器科

（1）概要

泌尿器科では、主に腎臓、尿管、膀胱、尿道等の尿路の疾患および男性生殖器の前立腺、精巣等の疾患の診断、治療を担当している。

排尿障害、尿路感染症等の一般泌尿器科の他に、泌尿器悪性腫瘍（腎癌、腎盂尿管癌、膀胱癌、前立腺癌、精巣腫瘍等）に対する手術、化学療法等に積極的に取り組んでいる。終末期医療については、在宅での生活時間を長くとれるよう訪問診療医や訪問看護師、介護士と連携をとりながら可能な限り外来診療で加療し、必要に応じて体調管理・服薬調整目的の短期入院にも対応している。

（2）診療体系

常勤医師 4 名体制。非常勤医 2 名

外来：月曜から金曜の午前中および、月･水･金の午後（再来診療のみ）

（月曜、水曜、金曜は 3 診体制、手術日のため火曜は 2 診、木曜は 2 診体制）

月曜、水曜、金曜に体外衝撃波結石破砕術（ESWL）を施行している（1 日 3 件)。

手術日：予定手術は火曜、木曜の週 2 日。臨時手術は月曜午前中。

また毎週火、金に外部より非常勤医に外来手術の応援に来て頂いている

（3）スタッフ

岡野　達弥（当院副院長）

松本　精宏（泌尿器科統括部長）

高橋　正行(泌尿器科部長)

井上　裕司

（4）科の特徴

当科では治療の低侵襲化を目指し、腎尿管結石に対する体外衝撃波治療（ESWL）およびホルミウムレーザーを用いた内視鏡治療(尿路結石には TUL、前立腺肥大症には HoLEP)を積極的に実施している。前立腺肥大症に対する内視鏡治療は HoLEP（経尿道的ホルミウムレーザー前立腺核出術）を標準術式とし、導入後 10 年で 800 例以上施行しており、症例数は全国でも上位に位置している。平成 23 年度より腎癌、腎盂尿管癌、副腎腫瘍に対して体腔鏡下（腹腔鏡下）手術を基本術式としている。また当院代謝内分泌内科による副腎静脈採血などの副腎疾患精査体制の強化により副腎疾患が増加しており腹腔鏡手術件数が増加しています

（5）教育

日本泌尿器科学会認定専門医基幹教育施設に認定されている。

平成３０年手術統計

ラパロ副腎摘出	12	HOLEP	120
ラパロ腎摘出	4	TUR-BT	87
ラパロ腎部分切除	0		
開腹腎摘	0	TUL	42
開腹腎摘（良性）	1		
開腹腎部分	0	前立腺生検	118
ラパロ腎尿管	12	ESWL	134
開腹腎尿管	4	手術合計	544
		合計	680
前立腺全摘	11		
膀胱全摘＋回腸導管	2		
膀胱全摘＋尿管皮膚瘻	1		

眼科

（1） 概要

常勤医１名と非常勤医師１名（月・水・金の午前のみ）にて、主に外来診療を行っている。現在は院内他科からの紹介患者を中心に診療を行っており、代謝内分泌疾患・造血器疾患・自己免疫疾患・神経内科疾患・呼吸器疾患・皮膚疾患など、その背景は様々である。糖尿病網膜症・緑内障・加齢黄斑変性症・ぶどう膜炎・網膜裂孔などに対する眼科一般診療も行っている。

また視能訓練士２名（うち１名は海浜病院と兼務のため月・水・金のみ）にて各種検査（視力検査・眼圧検査・視野検査・光干渉断層計検査・眼筋機能精密検査・中心フリッカー値・視覚誘発電位・斜視検査など）を行っている。

現在手術治療は行っていないが、眼感染症に対する抗生剤治療やバセドウ病眼症に対するステロイドパルス治療などの入院加療も適宜行っている。

（2）スタッフ

医師：星野章子

視能訓練士：嶋田祥

吉野久美

（3）診療内容と実績

・糖尿病網膜症

眼底検査・光干渉断層系検査・蛍光眼底造影検査などを施行し、結果に応じて網膜光凝固・抗 VEGF 薬硝子体注射・ステロイド局所注射などを施行している。R1 年度の新規患者数は 159 名であった。また、抗 VEGF 薬硝子体注射は R１年度は 35 件であった。

・バセドウ病眼症

眼球突出度測定・眼筋機能精密検査・眼窩 MRI などを施行し、病状に応じてステロイドパルス治療やステロイド局所注射などを施行している。R1 年度の新規患者数は 67 名であった。

・造血器疾患

サイトメガロウイルス網膜炎などをはじめとした眼感染症の治療や、移植後の移植片対宿主病に伴う重症ドライアイの治療などを行っている。R1 年度の新規患者数は 118 名であった。

・神経内科疾患

視野検査・視覚誘発電位・眼筋機能精密検査などを施行し原病に伴う眼症状の評価を行っている。R1 年度の新規患者数は 21 名であった。

・自己免疫疾患

原病に伴う眼症状の評価の他、治療薬による眼局所副作用のフォローアップも行っている。R1 年度の新規患者数は 65 名であった。

・皮膚疾患

薬疹や眼部帯状疱疹などに伴う眼症状の評価と治療を行っている。R1 年度の新規患者数は 19 名であった。

R1 年度の外来患者数は延べ 4981 名、新規患者数は 592 名であった。

耳鼻咽喉科

（1）　概要

耳鼻咽喉科は耳、鼻、咽喉頭を対象に診療しており、地域中核病院の役割を果たすべく紹介を受け外来診療を行っている。

（2）　実績と現状と新しい取り組み

常勤が再開して 4 年が経過し周囲の診療所への認知度が高まるにつれ、当科への紹介状も徐々に増加して、小児領域やめまい、頭頸部外科領域などの専門分野も幅広く対応可能であり手術日も増えたことに伴い手術件数も増加しております。

そして甲状腺・副甲状腺センター開設もされ甲状腺副甲状腺疾患に対する診断から治療まで一つの施設で行える病院となりました。

また、嚥下サポートチームの一員としても耳鼻科は重要な役割の一端を担っております。

（3）　スタッフ

有本昇平

市川英樹

術式	合計
アデノイド切除術	1
アデノイド切除術, 口蓋扁桃手術(摘出)	2
バセドウ甲状腺全摘術(両葉)	3
ポリープ消退し手術施行せず	1
リンパ節摘出術(長径３ｃｍ未満)	22
咽頭異物摘出術(複雑)	1
顎下腺摘出術	2
気管切開術	1
鼓膜(排液，換気)チューブ挿入術	4
鼓膜(排液，換気)チューブ挿入術, 鼓膜切開術	1
口蓋扁桃手術(摘出)	34
口蓋扁桃手術(摘出), アデノイド切除術, 鼓膜(排液，換気)チューブ挿入術, 鼓膜切開術	1
喉頭狭窄症手術(前方開大術)	1
喉頭腫瘍摘出術(直達鏡), 右	1
甲状腺悪性腫瘍手術(亜全摘)	2
甲状腺悪性腫瘍手術(切除)	7
甲状腺部分切除術(片葉)	15
耳下腺腫瘍摘出術(耳下腺深葉摘出術)	1
耳下腺腫瘍摘出術(耳下腺浅葉摘出術)	1
上顎洞根本手術	1

上皮小体腺腫過形成術(上皮小体摘出)	15
声帯結節(ポリープ)切除術(直達喉頭鏡又)	7
先天性耳瘻管摘出術	2
全身麻酔下後出血止血術 (左扁桃窩)	1
唾液腺膿瘍切開術	1
中咽頭腫瘍摘出術(経口腔)	1
内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅲ型(選択的(複数洞)副鼻腔手術)	7
内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅲ型(選択的(複数洞)副鼻腔手術),内視鏡下鼻腔手術Ⅰ型(下鼻甲介手術),副鼻腔手術用骨軟部組織切除機器加算	1
内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅲ型(選択的(複数洞)副鼻腔手術),副鼻腔手術用骨軟部組織切除機器加算	1
内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅳ型(汎副鼻腔手術)	2
内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅳ型(汎副鼻腔手術),副鼻腔手術用骨軟部組織切除機器加算	1
粘膜下下鼻甲介骨切除術,鼻中隔矯正術	2
皮膚皮下腫瘍摘(露出以外３－6cm)	1
皮膚皮下腫瘍摘出(露出部２－4cm)	1
皮膚皮下腫瘍摘出術(露出２cm 未満)	1
鼻茸摘出術	2
鼻茸摘出術,内視鏡下鼻腔手術Ⅰ型(下鼻甲介手術)	1
頸部異物摘出術	1
頸部郭清術(片側)	1
合計	151

救急集中治療科

（1）　概要

365 日 24 時間体勢での救急外来診療業務・院内救急対応業務に加え、集中治療室における重症患者管理を行っている。また、千葉大学から医学部 5 年生を中心とした学生実習の受け入れ・教育を行っており、平成 28 年からは千葉市救急ワークステーションにおける救急隊の教育・実習が始まり、さらには災害拠点病院および DMAT としての活動を行なっている。

（2）　診療体系および看護形態

- 救急外来部門と HCU 部門、ICU 部門にそれぞれ 1 看護単位を擁する看護体制
- 救急外来は救急棟に移動になり診察室 2 床、処置室 2 床に拡大
- 特定集中治療室管理料の施設基準を満たす個室 ICU：4 床
- 重症患者の緊急入院に対応する HCU ベッド：8 床

（3）　スタッフ

森田　泰正（救急科専門医、集中治療専門医）
高橋　和香（救急科専門医、集中治療専門医）
齋藤　大輝（救急科専門医）

（4）　科の特徴

- 千葉市の救急拠点病院として、救急医療体制の構築に貢献している。
- 千葉市の救急輪番体制に、二次病院として協力している。
- 救急・救命対応が必要な疾患に対し迅速かつ適切に対応する。
- 各診療科と連携して ICU にて重症な患者の治療に当たる。
- 千葉市消防局に医師が常駐するメデイカルコントロールに参加している。

（5）　教育

- 千葉市消防学校救急過程教育訓練における講義、研修を行なっている。
- 院内の救急ワークステーションにて救急隊の実習監督・教育を行っている。
- 千葉大学医学部の学生全員の実習を年間通して受け入れている。
- 研修医の救急/集中治療領域の指導を行っている。

（6）　診療実績

①　救急医療

内科：常時 24 時間体制
救急集中治療科：平成 22 年度より常時 24 時間体制
外科・整形外科・小児科・産婦人科：当番日のみ

令和１年度		総数（名）
救急外来来院患者数		5935
救急車での来院患者数		4501
入院患者数		2037
来院患者数 科別内訳	内科	4593
	外科	119
	整形外科	828
	外科系他科	130
	産婦人科	222
	小児科	14
	精神科	22

今後も地域救急医療に貢献し、特に救急車での来院患者数を増加させる。

② 集中治療

総数の推移として大きな変化は認めない。4 床の中でベッドコントロールを行っているため、0 床の時と満床の時の差が激しく、業務量が安定しないという面がある。業務量を安定するために、維持透析業務を ICU において導入し、仕事量の安定や受け入れ範囲の拡大に一定の成果を上げている。また、整形外科の頚椎術後患者の術後受け入れも開始した。

令和1年度		総数（名）
ICU入室患者数		273
ICU死亡患者数（率）		18 (6.6%)
転入先	院内での転棟	101
	院外から転入	172
診療科	内科	199
	外科	19
	整形外科	41
	泌尿器科	13
	産婦人科	1
特殊治療	人工呼吸器	115
	血液浄化	31

歯科

（1）　概要

「医科歯科連携」をキーワードに医科診療科とスムーズに連携することを念頭に置き診療することを心がけている。

種々な全身的疾患に罹患した患者を対象としており、患者の病状、病態によっては歯科治療が困難なこともあるため、主治医へ病状を照会の上、歯科治療方針を検討・計画し、患者の状態にあった口腔環境整備・維持を行っている。

また、高齢化に伴い歯科患者も全身疾患に罹患した、いわゆる有病歯科患者が増加し、その疾患も複数となり対応も複雑化しているため、病院歯科という機能を活かした歯科治療を行えるように千葉市歯科医師会との連携強化を進めている。

令和元年度で特記すべきは、令和 2 年 1 月以降の新型コロナウイルス感染拡大に伴い診療の縮小、制限を行ったことであり、その結果令和 2 年 1 月から 3 月期の患者数が例年と比べ減少した。また、歯科では口腔内処置による飛沫発生は必須であり感染リスクが高い診療科であるが、感染対策室の指導のもと標準予防策に準じ診療を行い感染することはなかった。

（2）　診療体系

当科で院内入院中の方、他科受診中の方、地域医療機関から紹介を受けた方を対象に診療しており、受診していただいた方々に安全、安心、信頼の得られる歯科医療を提供している。

入院中に歯科受診された方においては退院後の継続的なフォローアップや地域歯科医療機関への紹介を行い口腔環境の整備に対応している。

内服薬の歯科的対応については抗血栓療法（ワーファリン、バイアスピリン等）を受けている患者では、服薬を継続しての外来通院での抜歯が一般的となっているが、抜歯後出血対応のため術後入院管理を行うこともある。骨吸収抑制薬（ビスフォスフォネート製剤、抗 RANKL 抗体：デノスマブ）や血管新生抑制薬が投薬されている患者（悪性腫瘍、骨粗鬆症）では抜歯等の観血的治療後の顎骨壊死が報告されていることから、投薬する医科と連携し治療している。また、比較的長期間の治療を要する血液疾患患者への歯科的サポートも行っている。

医科がん患者の手術症例、骨髄移植患者や化学療法患者を対象として周術期口腔機能管理を行っている。

院内活動として栄養サポートチーム（NST）、摂食嚥下サポートチームに加わり、入院患者の口腔関連の問題に対応している。

下顎水平埋伏智歯抜歯等の口腔外科症例は東京歯科大学口腔外科専門医の協力を得て診療を行っているが、治療困難症例や口腔インプラント，歯列矯正などの専門的治療が必要となる場合には、東京歯科大学千葉歯科医療センターや千葉大学医学部附属病院歯科口腔外科をはじめ近隣歯科医療機関との連携により対応している。

千葉市口腔保健事業のうち、介護予防事業における特定高齢者・口腔ケア事業に協力，特定高齢者が自ら口腔機能の維持回復を目指す支援を行っている。また、妊産婦歯科健診事業にも協力し、妊産婦の口腔衛生指導を行っている。

（３）　スタッフ

阿部　耕一郎

資格：日本歯科麻酔学会認定医

日本障害者歯科学会認定医

日本有病者歯科医療学会指導医、専門医

日本口腔ケア学会評議員

日本糖尿病協会登録歯科医

歯科医師臨床研修指導歯科医

産業歯科医

（４）　教育

日本障害者歯科学会　認定研修施設

日本有病者歯科医療学会　認定研修施設

（５）　診療実績

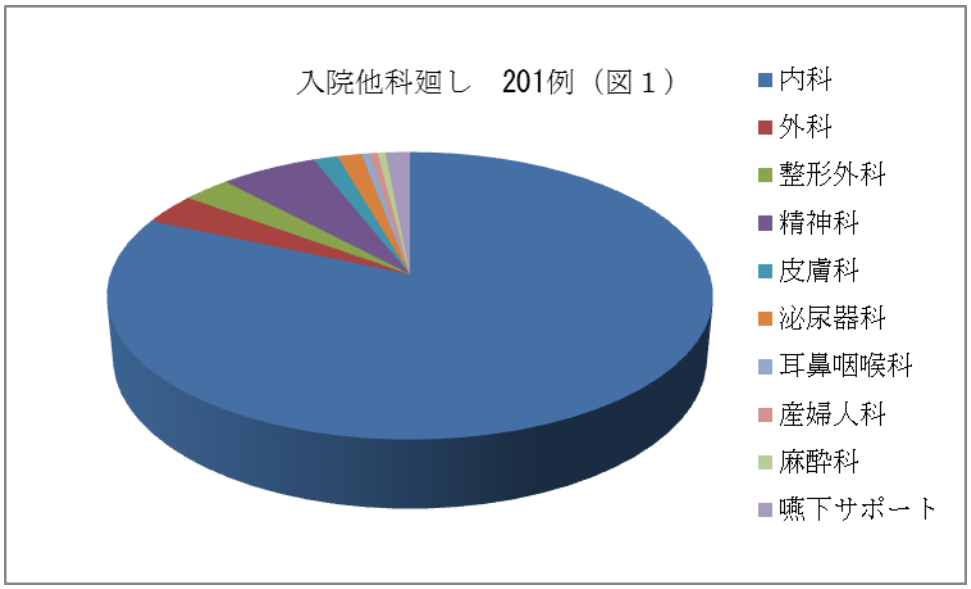
平成 31 年 4 月から令和 2 年 3 月までの総患者数は 2324 名、初診は 338 名で入院 204 名(60.4%)、外来 134 名(39.6%)、再来は 1986 名、入院 455 名(22.9%)、1531 名(77.1%)であった。

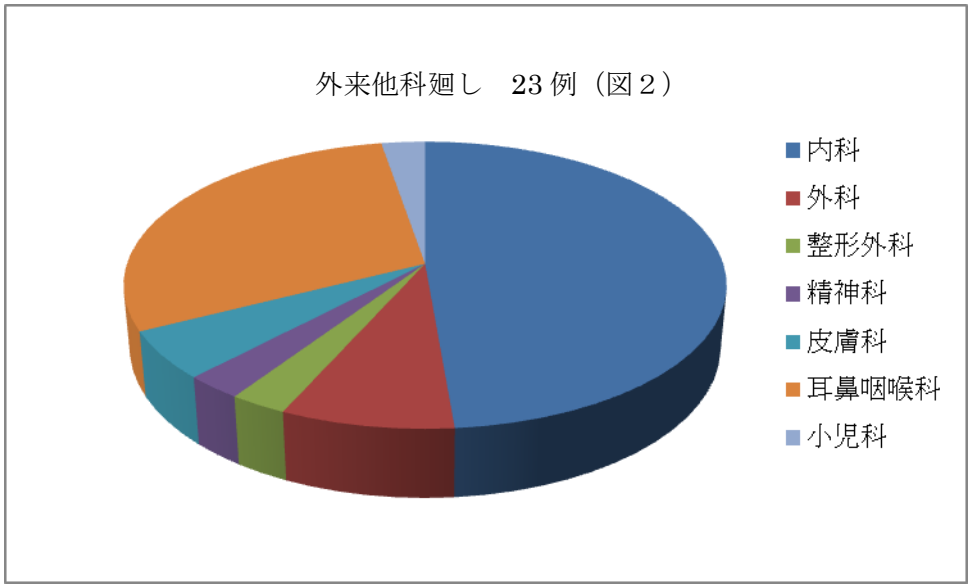
初診の他科廻し症例は入院 201 例、外来 36 例でどちらも内科からの依頼が多く、入院では内科の半数は血液内科からの依頼であった。また、診療科からだけでなく摂食嚥下サポートチームからの診察依頼もあった。（図１）外来では睡眠時無呼吸症候群患者に対する口腔内装置作製のため耳鼻咽喉科からの依頼が増加していた。（図２）年齢分布は例年と同様に高齢者が多かった。（図３）

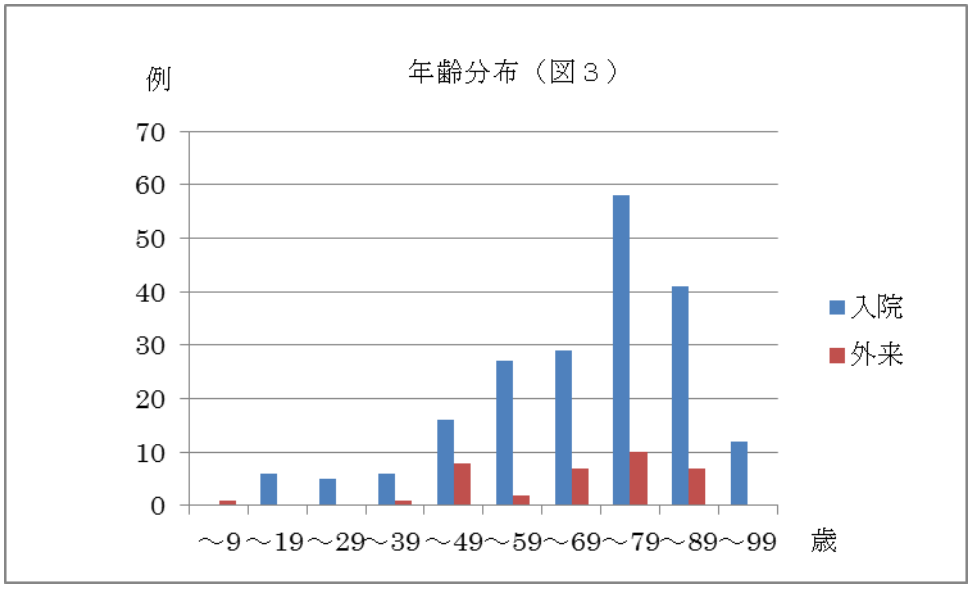
院外からの紹介患者の大半は抗血栓薬の服用や全身的疾患を合併している患者の抜歯であった。

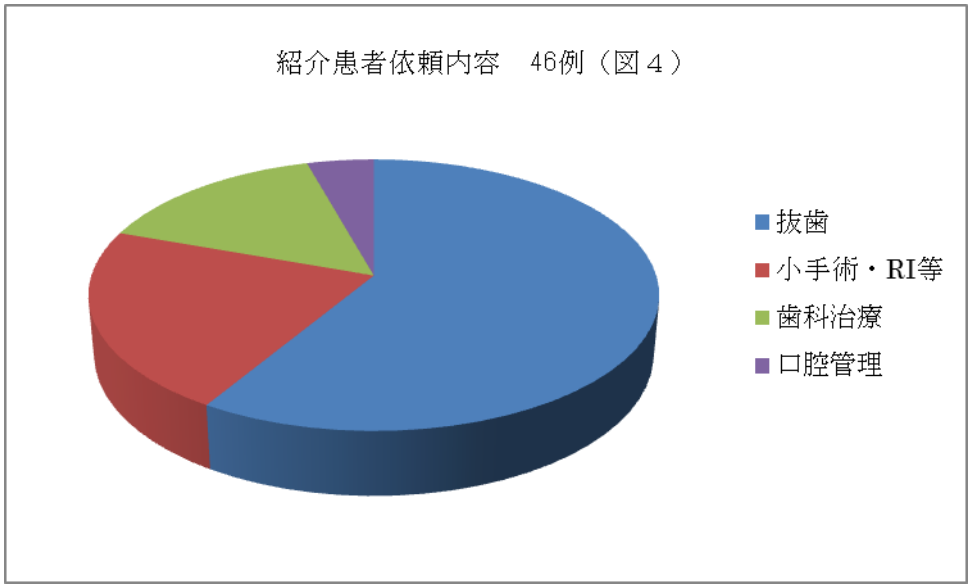
以下に本年度の主な処置件数を示す。（表１）

以上




外来他科廻し　23 例（図２）
内科
外科
整形外科
精神科
皮膚科
耳鼻咽喉科
小児科


年齢分布（図３）
例
70
60
50
40
30
20
10
0
～9
～19
～29
～39
～49
～59
～69
～79
～89
～99
歳
入院
外来

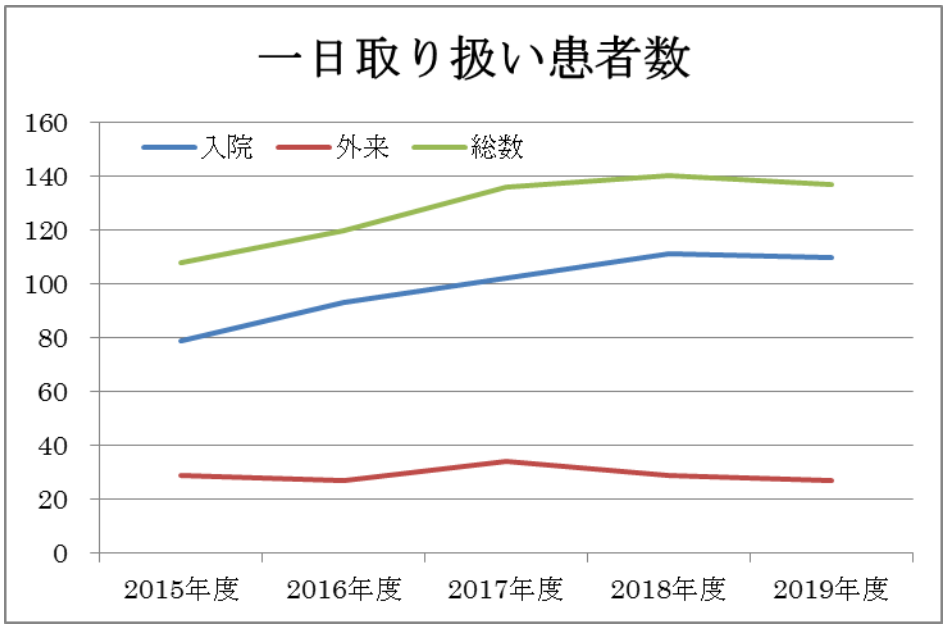

紹介患者依頼内容　46例（図４）
抜歯
小手術・RI等
歯科治療
口腔管理

● 主な処置内容（平成 31・令和元年度）（表１）

口腔外科処置	症例数
口腔内消炎手術	2
抜歯	69
難抜歯	7
埋伏智歯抜歯	13
歯根のう胞摘出術（含抜歯）	40
舌腫瘍切除手術	2
顎関節脱臼非観血的整復術	2
腐骨除去術	1
歯科保存処置	
麻酔抜髄	20
感染根管治療	12
間接歯髄覆罩	3
修復・補綴処置	
インレー修復（メタル・レジン）	2
光重合レジン修復	91
全部鋳造冠	6
ブリッジ	1
硬質レジン前装冠	0
ハイブリッドレジン冠	5
局部義歯	7
総義歯	2
義歯修理	55
義歯床下面膜調整処置	11
患者管理・指導	
歯科疾患管理	967
歯科特定疾患療養管理	25
歯科治療時医学管理	37
精神鎮静法管理	2
歯科入院管理	1
歯科衛生実地指導	1110
周術期口腔機能管理	
周術期口腔機能管理策定	100
周術期口腔機能管理Ⅰ	45
周術期口腔機能管理Ⅱ	61
周術期口腔機能管理Ⅲ	253
周術期専門的口腔衛生処置	159

リハビリテーション科

１．　2019 年度のリハビリ科実績



2019 年度の一日の取り扱いリハ患者数は昨年度との比較で入院はほぼ同等、外来で７％減、総数で２％の減となった。マンパワーとしては産休・育休スタッフが 2 名、また休職中の退職 1 名の減員があった。このため年度途中より非常勤ＰＴ1 名の雇用を始め、また育休より復帰したスタッフも 1 名いたため、2018 年度より常勤換算で 1 名程度のマンパワーの低下に留めることができ診療に大きな支障を来たさないよう運用をはかった。

業務的には、昨年度より開始した嚥下チームラウンドがより充実した活動となり、全病棟対象に嚥下のサポートの普及に務めた。

医療安全面でもリハ科内で受付、助手など非常勤スタッフも含めたＭＥＴコール研修会が毎月開催され始め、医療安全への意識が高まり、こうした活動は院内のＭＥＴ報告会でも紹介され先進的な試みと評価された。

また転倒予防に対する取り組みはＱＩ委員会活動として、TUG の歩行自立度のデータ収集、解析、院内ＱＩ報告会での発表を行い、リハビリスタッフの全病院的な諸活動が目立った 1 年となった。

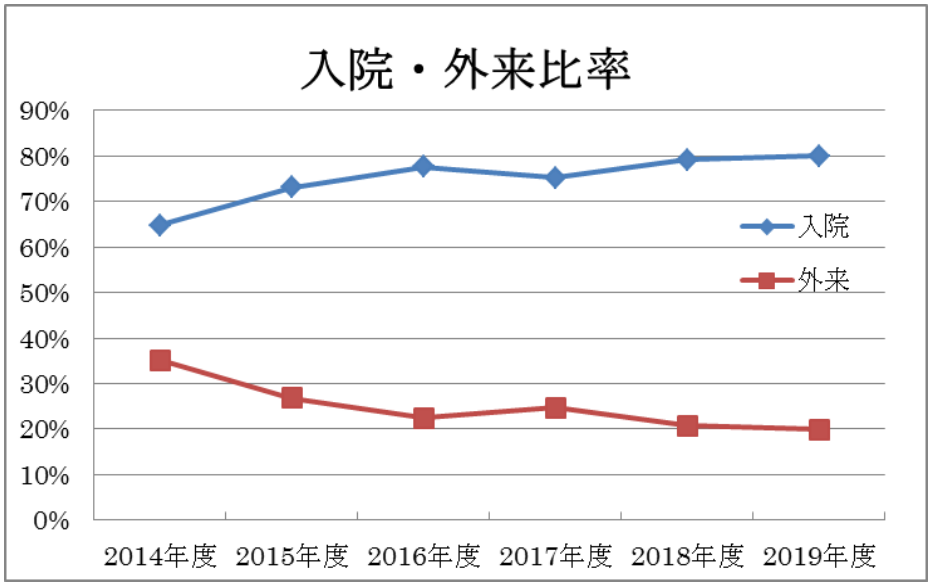
新しい市立病院建築構想については海浜病院リハスタッフと青葉病院リハスタッフでミーティングが持たれるなど、両病院共通の問題、対応として今後も情報・意見交換をしていくことが確認された。

● 入院外来比率

入院リハ患者数は一日平均で 110 名、外来リハ患者数は 2018 年度より減少し一日平均で 27 名（昨年度より 2 名減）となった。

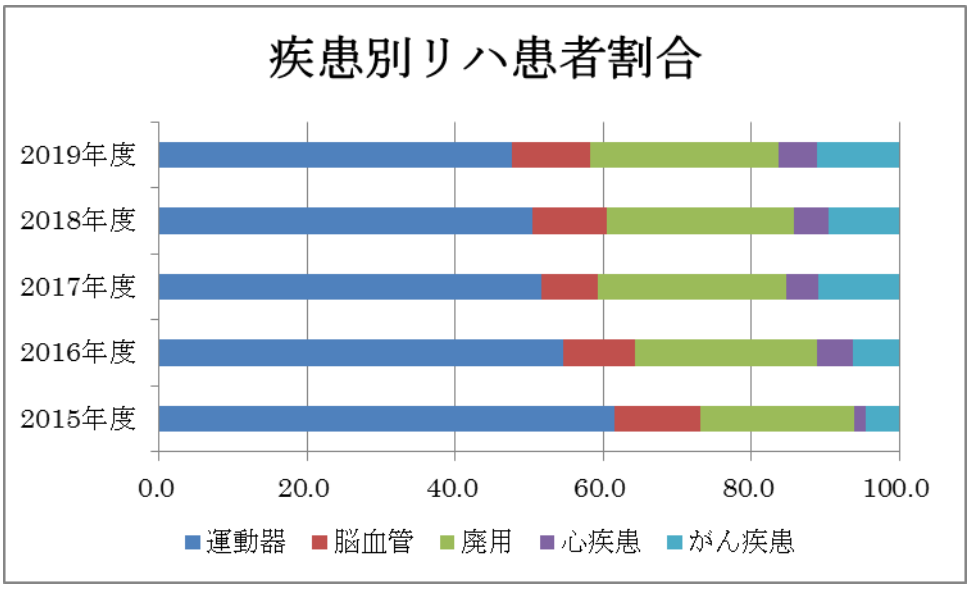
入院外来あわせた総計では取り扱い患者数は 137 名（昨年度より 3 名減）と 3%の減少であった。

入院外来比率としては 8 割の入院､2 割の外来という割合がここ 4 年ほど定着しつつあり急性期病院として妥当な割合と思われる。



● 疾患別リハビリの割合

2019 年度の疾患別リハビリの割合は運動器リハ 47.7%、廃用リハビリが 25.4%、がんリハ 11.2%、脳血管リハ 10.5%、心リハ 5.2%という結果で、昨年度とほぼ同様の結果となった。2015 年度以降の運動器リハ割合の減少傾向はまだ持続している。



● 主なリハビリ対象疾患

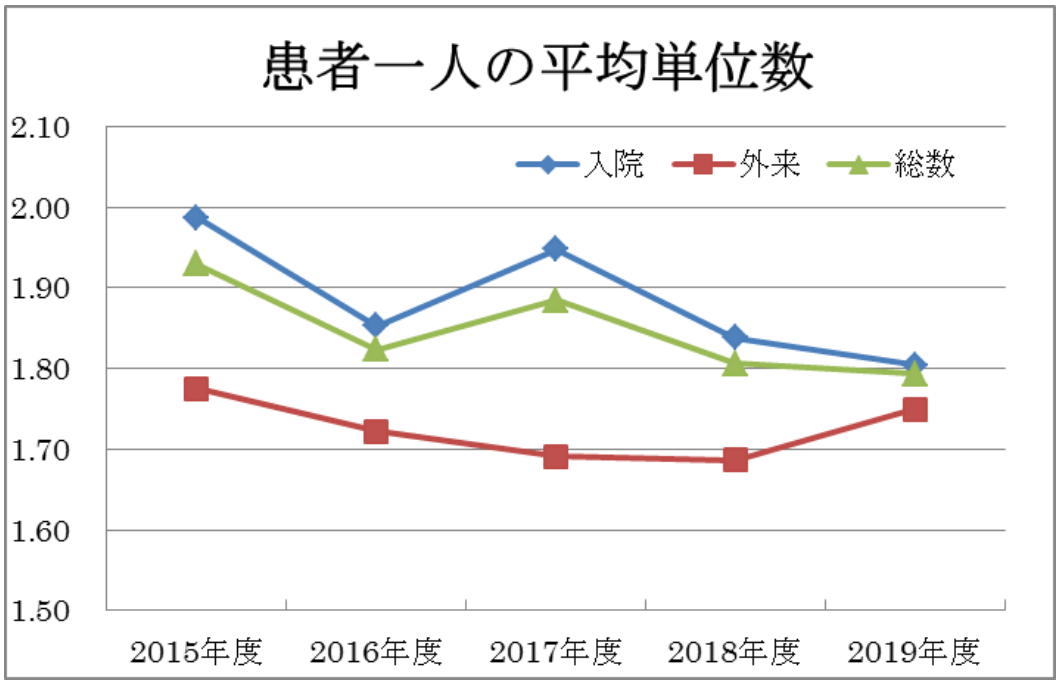
	人数
脳卒中その他脳疾患、脳外傷	54
脊髄損傷その他脊髄疾患	104
リウマチを含む骨関節疾患	587
脳性まひを含む小児疾患	0

神経・筋疾患	18
切断	12
呼吸・循環器疾患	442
その他	697

● 患者一人あたりの平均訓練時間

2013 年度からリハ新規依頼の増加が続き、マンパワーは増えないため患者一人あたりの訓練時間は徐々に下がってきていたが、本年度は外来リハ患者の訓練時間が伸びた。

平均単位数から類推すると入院患者 36 分（昨年度より 2 分減）、外来患者 34 分（昨年度より 3 分増）となり、全体としては昨年同様の値となった。



● クリニカルインディケーターについて

当院リハ科で 2009 年度より症例数の多い３疾患（大腿骨頚部骨折、脳血管疾患、廃用症候群）の日常生活自立度についてバーセルインデックスを用いて経年変化を追跡調査している。

まず頚部骨折だが対象患者数が昨年に比べて 2/3 まで低下した。開始時のＢＩ値は昨年より 2 ポイント高く、終了時ＢＩ値も１ポイント、改善率は３８．７ポイントであった。在院日数やリハ期間は昨年度より微増ており、入院からリハ開始まで日数も約２日の延長がみられた。

次に脳卒中患者についてはＢＩ値は開始時は昨年度から６ポイント増であり、2017 年度からの連続で低下するなど重症化していたが 4 年目にして逆転した。終了時も１１ポイント増で、改善率は５ポイント増加であった。リハ開始までの日数は昨年度とほぼ同等であった。一番の変化は在院日数で昨年度２８日であったのが１６日と１２日短縮されており、回復期リハビリへの早期転院が伺われる結果となった。

廃用症候群については、2010 年度以降、毎年のように患者数を増加してきたが本年度は 517 名と初めて低下し

ている。リハビリ患者総数は昨年度と著変ないことを考え合わせると、心リハ、がんリハなど他の疾患別リハとして算定が進んできていることを示しており、廃用リハビリの対象縮小が伺われる。

廃用リハ患者の平均在院日数は昨年度より約２日間延長され、リハ開始までの日数も 0.8 日延びた。そのためリハ期間は１日増加し、ＢＩ値の改善率は３ポイント低下した。

バーセルインデックス(2019 年度)

※赤字は 2018 年度

	開始時	終了時	在院日数	リハ期間	開始日
大腿骨頚部骨折 （100 人） 156 人	19.6 17.2	58.2 57.6	23.6 22.0	17.8 19.0	4.4 2.5
脳卒中 （　45 人） 42 人	27.9 21.9	59.2 47.8	16.0 28.0	11.7 21.9	4.3 4.8
廃用症候群 （517 人） 642 人	23.9 26.0	45.5 51.3	28.2 26.0	20.1 18.8	6.1 5.2

２．　2019 年度リハビリ入院患者概要について

入院患者実人数は 1914 名と昨年とほぼ同数であった。

うち生活保護受給者は 159 名、8.3%と昨年度より 2 ポイント増で、2017 年度並に戻った。退院後独居の割合も 2.5 ポイント減で全体の 16.1%が独居であった。

☆入院リハ患者実数　１９１４名　（複数入院はダブルカウント）

うち生活保護受給者１６０名（8.4%）　独居老人３９３名（20.5%）

全入院患者の日常生活自立度　　リハビリ開始時 44.1　⇒終了時 70.8

※昨年　リハビリ開始時 39.5　⇒終了時 65.8

※一昨年リハビリ開始時 38.8　⇒終了時 65.4

全患者の生活自立度はＢＩで開始時が 4.6 ポイント増、退院時が 5.0 ポイント増となり改善率は 0.4 ポイント微増した。

そうした中、自宅退院は１２１７名　率にして 63.6%と昨年度より 2 ポイント減となった。これは独居の割合が初の 20%超えした影響もあるだろう。

病院転院は３３２名 17.3%となりうち回復期が 164 名のみ 8.6%と 2013 年度をピークに年々低下傾向であり、療養型病院（3.2%）や施設（9.7%）と 10%まで増加してきている。

死亡退院は 101 名と過去最高となり昨年 4.7%より 5.2%と 0.5 ポイント増となりより重症の患者のリハビリ件数があったことが示唆される。

退院後のリハビリフォロー継続率は2018年度より0.7ポイント減少し12.6%　240名が外来リハを継続診療した。

３．　診療スタッフ、施設・設備

リハビリテーション科は独立した診療科となっており、専任の医師 2 名が常勤配置されている。

統括部長　青墳　章代（リハビリテーション科専門医・指導医、神経内科専門医・指導医、内科認定医）
部長　　山田　俊之（整形外科専門医、手外科専門医）

また 2019 年度のリハビリスタッフとして理学療法士 11 名（うち 1 名非常勤)、作業療法士 6 名、言語聴覚士 1 名、リハビリ助手 2 名、受付 2 名で運営した。
施設面での修繕はリハビリガーデン扉の補修がなされた。機材としては診療備品として歩行器などの補充の他は特に大きな新規購入はなかった。

麻酔科

（1）スタッフ

常勤麻酔科医師

統括部長　鈴木洋人（日本麻酔科学会指導医）
部長　　葛田憲道（麻酔科標榜医）
部長　　高橋実里（日本麻酔科学会指導医）
部長　　中嶋和佳（日本麻酔科学会指導医）

非常勤麻酔科医師（1 日/週勤務）2019/4 月～2019/9 月

月	火	水	木	金
なし	２名	１名	２名	２名

2019/9 月～2020/3 月

月	火	水	木	金
１名	２名	１名	２名	２名（３名）

夜間休日待機医師

日	月	火	水	木	金	土
常勤医師	民間医局	常勤医師	常勤医師	常勤医師	民間医局	常勤医師

（2）診療体系

常勤麻酔科医不在の病院が見られる中、当院は4名の麻酔科医が常勤し、3名が日本麻酔科学会認定の麻酔科専門医指導医である。業務は、週5日手術室での麻酔業務を中心に行っている。全身麻酔が中心であるが、帝王切開術の硬膜外併用脊髄クモ膜下麻酔、高リスク患者の脊髄クモ膜下麻酔、産婦人科小手術に対する静脈麻酔等も行っている。年間麻酔科管理症例数は約2,000例である。

常勤麻酔科医以外に各曜日ごとに週一勤務で日勤帯の非常勤麻酔科医が勤務している。

平成27、28年度は、固定の非常勤医師2名のほか、千葉大学麻酔科、東京慈恵会医科大学麻酔科からそれぞれ複数曜日に非常勤医師を派遣してもらっている。平成28年度9月からは、固定の非常勤医師がもう１名追加された。

平成29年度は、固定の非常勤医師は2名となり、千葉大学麻酔科、東京慈恵会医科大学麻酔科からの派遣は曜日の変更があったが、複数曜日に非常勤医師を派遣してもらっている。平成29年6月から民間医局に依頼し、毎週木曜日の日勤医師を派遣してもらっている。

平成30年度は、固定の非常勤医師が5名となり、うち2名は千葉大学麻酔科、3名は三井記念病院麻酔科からの派遣である。民間医局からは、毎週木曜日の日勤医師を引き続き派遣してもらっている。

令和元年度も、引き続き固定の非常勤医師が5名、派遣元は2名は千葉大学麻酔科、3名は三井記念病院麻酔科からの派遣である。民間医局からは、毎週木曜日の日勤医師を引き続き派遣されているが、さらに、年度途中、金曜日は9月からおよび月曜日は10月から派遣医師が１名づつ追加となった。

夜間休日は、常勤麻酔科医１名のオンコール体制で対応している。平成29年度からは、民間医局に依頼し、月曜日および金曜日夜間の待機医師を派遣してもらっている。

（３）科の特徴

近年、麻酔の質の問われるようになり、麻酔からの良好な覚醒やそれに引き続く十分な鎮痛が要求される。これまで硬膜外ブロックが術後鎮痛に大きな役割を果たしてきたことは言うまでもないが、硬膜外ブロックの使いにくい上肢の手術においても局所麻酔薬を使用した末梢神経ブロックも行われている。最近では、超音波ガイド下末梢神経ブロックが広く行われるようになり、当科でも整形外科手術を中心に積極的に行っている。さらに、周術期肺血栓塞栓症の予防のために術後に抗凝固療法が行われるようになり、これまでは硬膜外ブロックが行われてきた症例に硬膜外ブロックにかわって末梢神経ブロックを行っている。

従来産婦人科小手術はいわゆる“静脈麻酔”で各科医師が管理していたが、鎮静鎮痛が不十分で、上気道閉塞や呼吸抑制といった問題が多かった。このような経緯から、当院では麻酔科医が麻酔を担当するようになり4年以上が経過した。前任の統括部長の試行錯誤の結果、レミフェンタニルを中心とした麻酔に下顎挙上器（JED）を使用した気道管理で良好な麻酔管理が行えている。

また、開院当初から行っている手術室への独歩入室や術前点滴の廃止、術前経口補水液の採用は現在も継続しており、外科領域で盛んに議論されているERAS(enhanced recovery after surgery)に寄与していると考えられる。

また、手術室外の麻酔として、精神科病棟において修正電気痙攣療法（mECT）の麻酔も引き続き行っている。

（４）教育

①初期研修医１年目　　１０名
　初期研修医２年目　　１名

当院では、麻酔科研修は初期研修1年目の必修項目となっており、1.5月ずつのローテーションで研修を行っている。希望により、2年目の選択科目として麻酔科を選択する医師もいる。

②歯科医師医科麻酔科研修　　２名

平成25年度より医科麻酔科研修の歯科医師を年に４名受け入れている。平成28 年度からは１名減の3名となった。更に平成29年度は2名となった。歯科医師が医科行為を行うことに関しての是非が議論されるが、当院ではあくまで医科麻酔科研修ガイドラインを遵守し、将来、歯科診療のなかで緊急事態に遭遇した場合でも冷静に対処できるようになることに重点をおいて麻酔科教育を行っている。

③救急救命士　気管挿管実習　１名

（5）診療実績

令和元年度

診療科別

	令和元年度
外科	345
産婦人科	375
泌尿器科	333
整形外科	783
内科	6
耳鼻咽喉科	119
その他	13
*ECT	100
麻酔科管理総数	2074

*ECT=修正電気痙攣療法　手術室外での麻酔　精神科

その他は、手術途中からの麻酔科管理への移行を含む

麻酔法別

		令和元年度
半閉鎖循環式麻酔	総数	1,806
	全身麻酔のみ	501
	全身麻酔+脊 or 硬 or 伝	1,305
区域麻酔	脊椎麻酔+硬膜外麻酔	52
	硬膜外麻酔のみ	2
	脊椎麻酔のみ	10
伝達麻酔	伝達麻酔のみ	2
静脈麻酔		102
ECT		100
麻酔科管理総数		2074

病理科

（ア）スタッフ

統括部長：窪澤　仁(専任医師)、主任臨床検査技師：三橋　涼子(専任技師)、臨床検査技師：大本　真琴（専任技師)、西野　奈々子（専任技師)、大友祐輝（専任技師）

（イ）教育

検査技師会の精度管理に参加するとともに、病理診断、細胞診断に関する各種研修会に積極的に参加し、症例の報告を行なうとともに討論に積極的に参加している。

その成果として今年度、昨年度入職の大友祐輝が細胞検査士の資格を取得し、所属の臨床検査技師全員が細胞検査士の資格を有している。

（ウ）診療実績

病理組織検査実績　約 4,000 件、細胞診約 5,000 件、剖検 2 件

CPC を年 1 回、婦人科、皮膚科との病理組織カンファレンスを随時行った

診療局業績

（1） 内科

ア　学会発表

No	演題名	演者及び共同演者	学会・研究会・研修会名	年月日
1	肺炎を契機に発見された気管狭窄を伴う縦隔内進展巨大腺腫様甲状腺腫の一例	佐藤　愛、河野貴史、番典子　山本恭平、寺野　隆、窪澤　仁	平成31年度日本内分泌学会総会	2019/5/10
2	Free Style リブレ使用中の１型糖尿病患者に対する栄養指導介入の有用性について	牧野桃、河野貴史、番典子　山本恭平、寺野　隆	平成31年度日本糖尿病学会総会	2019/5/25
3	低酸素脳症により両側中心前回皮質に限局した細胞障害を生じた頚椎症性脊髄症の一例	中川友貴、和田猛、青墳佑弥、青墳章代	第60回 日本神経学会	2019/5/25
4	大動脈解離を契機に急性呼吸促迫症候群や下部消化管穿孔をきたした1例	浅田一成、志鎌伸昭、竹田雅彦、正司俊博、大久保健二、石尾直樹	第252回 日本循環器病学会関東甲信越地方会	2019/6/15
5	原発性Aspergillus 虫垂炎を合併した急性骨髄性白血病に対して造血幹細胞移植を完遂し得た１例	桑名由希子、永尾侑平、田村百合、鐘野勝洋、小野田昌弘、横田朗、川口岳晴、原暁、日野裕太郎、亀井克彦	第652回 日本内科学会　関東地方会	2019/7/14
6	潰瘍性大腸炎に対する5－ASA 製剤投与を契機にBrugada 心電図変化を伴う心不全を呈した一例	浅田一成、志鎌伸昭、竹田雅彦、正司俊博、大久保健二、石尾直樹	第13回千葉大学循環器内科若手奨励賞発表会	2019/7/21
7	移動性関節炎と高リン脂質抗体陽性を呈したBuerger 病の１例	井田友明、小林芳久	第11回RAinbow Meeting	2019/9/6
8	濾胞性リンパ腫に対する予後不良因子の後方視的研究	大野沙耶香、堀内捷義、田村百合、永尾侑平、鐘野勝洋、小野田昌弘、横田朗	第81回 日本血液学会	2019/10/12
9	原発性Aspergillus 虫垂炎を合併した急性骨髄性白血病に対して造血幹細胞移植を完遂し得た１例	桑名由希子、永尾侑平、田村百合、鐘野勝洋、小野田昌弘、横田朗、川口岳晴、原暁、日野裕太郎、亀井克彦	第81回 日本血液学会	2019/10/13
10	発熱及び右殿部腫脹を呈したfocal eosinophilic myositis の１例	井田友明、小林芳久	令和元年度アレルギー膠原病内科例会	2019/12/1
11	低酸素脳症により両側中心前回皮質に限局した細胞障害を生じた頚椎症性脊髄症の１例	青墳佑弥、和田猛、中川友貴、青墳章代	第1410回千葉医学会例会 第37回脳神経内科学教室例会	2019/12/14

12	Epicardial Adipose Tissue と冠攣縮性狭心症の関係性についての検討	浅田一成、志鎌伸昭、竹田雅彦、正司俊博、大久保健二、石尾直樹	第1413回千葉医学会例会第42回千葉大学循環器内科懇話会	2019/12/8
13	胃癌術後12年腹膜播種再発による結腸閉塞を来した1例	斉藤遼、橘川嘉夫、宮本禎浩、畠山一樹、小関寛隆、藤本健太郎	第656回 日本内科学会 関東地方会	2019/12/14
14	肺動脈血栓塞栓症を初発症状とした悪性リンパ腫が両心房に認められた1例	山勢怜祐、正司俊博、田村百合、浅田一成、竹田雅彦、大久保健二、石尾直樹、志鎌伸昭	第656回 日本内科学会 関東地方会	2019/12/14
15	胸水中MPO-ANCAが高値を示した顕微鏡的多発血管炎の1例	中川柚帆、井田友明、小林芳久	第656回 日本内科学会 関東地方会	2019/12/14
16	DKA治療に伴うPseudo-infarctionに関する因子の検討	吉田 知彦、金子ひより、佐藤愛、河野貴史、番典子、前澤善朗、山本恭平、横手幸太郎、竹本稔	令和2年度日本糖尿病学会関東甲信越地方会	2020/1/18
17	20代で早期大腸癌を併発した若年発症大腸クローン病の一例	藤本健太郎、橘川嘉夫、小関寛隆、畠山一樹、宮本禎浩、小田健司、鶴田雅士	第1414回 千葉医学会例会千葉大学消化器内科例会	2020/1/25
18	原発不明癌の肺転移に伴う呼吸不全で死亡し、死後に前立腺小細胞癌と判明した1例	片岡晃希、飯野貴明、梶原秀喜	第657回 日本内科学会 関東地方会	2020/2/8
19	糖尿病性神経障害との鑑別を要した２型糖尿病合併Guillain-Barre症候群の１例	塚越 彩乃、河野貴史、番典子、山本恭平	令和2年度内分泌代謝糖尿病老年内科学会例会	2020/2/10
20	濾胞性リンパ腫に対する予後不良因子の後方視的研究	大野沙耶香、堀内捷義、田村百合、永尾侑平、鐘野勝洋、小野田昌弘、横田朗	第1405回 千葉医学会例会内代、血液、老年内科例会	2020/2/11
21	レテルモビル予防投与による造血幹細胞移植後のサイトメガロウイルス抗原血症、感染症に関する後方視的検討	田村百合、大野沙耶香、堀内捷義、永尾侑平、鐘野勝洋、小野田昌弘、横田朗	第1405回 千葉医学会例会内代、血液、老年内科例会	2020/2/11
22	同種造血幹細胞移植後の幼若血小板比率（IPF）と血球回復の予測	堀内捷義、大野沙耶香、田村百合、永尾侑平、鐘野勝洋、小野田昌弘、横田朗	第1405回 千葉医学会例会内代、血液、老年内科例会	2020/2/11
23	同種造血幹細胞移植後の幼若血小板比率（IPF）と血球回復の予測	堀内捷義、大野沙耶香、田村百合、永尾侑平、鐘野勝洋、小野田昌弘、横田朗	第42回 日本造血幹細胞移植学会	2020/3/5
24	甲状腺中毒症を契機にたこつぼ型心筋症を発症した1例	池崎隆三郎、番 典子、塚越彩乃、河野貴史、山本恭平	第658回 日本内科学会 関東地方会	2020/3/14

イ 講演会

No	題名	発表者	主催団体もしくは講演会名	開催場所	年月日

1	IBD の診療連携とその課題	橘川嘉夫	CHIBA IBD conference	ホテルミラマーレ	2019/11/18

ウ　院内勉強会、セミナー、カンファレンス

No	演題名	演者	勉強会・セミナー名	年月日
1	メポリズマブが寛解導入に有効であった EGPA の 1 例	井田友明、小林芳久	第29回千葉膠原病セミナー	2019/7/21

（2）　総合心療内科

ア　院内勉強会、セミナー、カンファレンス

No	演題名	演者	勉強会・セミナー名	年月日
1	偽性バーター症候群	梶原秀喜	千葉大学・青葉病院合同カンファレンス	2019/6/3
2	大動脈解離＋IE	田島弘貴	千葉大学・青葉病院合同カンファレンス	2019/9/2
3	ベーチェットでの血栓性静脈炎	武本吉朗	千葉大学・青葉病院合同カンファレンス	2019/12/2
4	下垂体卒中	梶原秀喜	千葉大学・青葉病院合同カンファレンス	2020/2/3

（3）　外科・消化器外科

ア　学会発表

No	演題名	演者及び共同演者	学会・研究会・研修会名	年月日
1	標準術式とした腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術(TEP)－基本術式と短期成績	清水康仁	第 17 回 日本ヘルニア学会学術集会 ポスター	2019/5/24
2	当科で行っている Reduced Ports Surgery －合併症を Reduce するための工夫	清水康仁、小田健司 登内昭彦、信本大吾 藤野真史、安藤克彦 大塚将之	第 8 回 Reduced Port Surgery Forum 2019 in Tokyo シンポジウム 2	2019/8/2
3	I 型ヘルニアに対する TEP －ヘルニア嚢の処理まで	清水康仁	第 15 回 日本腹腔鏡下ヘルニア手術手技研究集会 ビデオ発表	2019/9/28
4	大腸内視鏡治療の現状と問題点	小田健司、藤野真史 信本大吾、登内昭彦 清水康仁、安藤克彦	第 1385 回 千葉医学会例会 臓器制御外科学教室談話会 一般演題	2019/11/17
5	閉塞性大腸癌に対するステント留置後の腹腔鏡下手術の長期成績の検討	信本大吾、清水康仁	第 32 回 日本内視鏡外科学会総会	2019/12/5
6	3D で確認する腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術(TEP)の手術手順	清水康仁、小田健司 登内昭彦、信本大吾 藤野真史、安藤克彦	第 15 回 千葉ヘルニア研究会 一般演題	2020/1/25

イ　座長

1	再発ヘルニア	清水康仁	第 17 回 日本ヘルニア学会学術集会 ポスター	2019/5/24
2	ラパヘルにおける教育指導	清水康仁	第 15 回 千葉ヘルニア研究会 パネルディスカッション	2020/1/25

（4） 整形外科

ア　学会発表

No	演題名	演者及び共同演者	学会・研究会・研修会名	年月日
1	Functional anatomy, indication and limitation of minimally invasive spine stabilization	Hiroyuki Motegi	2nd International and 7th Annual Conference of Nepalese Society of Neurosurgeons In Collaboration with World Federation of Neurosurgical Societies	2019/4/5-6
2	腸腰筋膿瘍に合併した両側化膿性肩関節炎の一例	伊勢昌平、山口　毅、 渡辺仁司	第 11 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会	2019/6/13-15
3	肩関節の外傷・治療歴のない化膿性肩関節炎の治療経験	山口　毅、 渡辺仁司、伊勢昌平	第 11 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会	2019/6/13-15
4	当科におけるプレカット TKA の追加骨切量の検討	渡辺仁司、山口　毅	第 11 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会	2019/6/13-15
5	大腿骨近位部骨折患者の受傷場所の検討	佐久間昭利,渡辺仁司,輪湖靖,坂本雅昭	第 45 回日本骨折治療学会	2019/6/28-29
6	小児長管骨骨幹部骨折に対する ESIN(Elastic Stable Intramedullary Nail)の治療成績	佐久間昭利,六角智之,脇田浩正,山田俊之	第 45 回日本骨折治療学会	2019/6/28-29
7	非定型大腿骨骨折の骨癒合経過に関する小経験	岩崎龍太郎,坂本雅昭,六角智之,渡辺仁司,山田俊之	第 45 回日本骨折治療学会	2019/6/28-29
8	地域差を有する２施設における大腿骨近位部骨折患者の転倒場所の検討	佐久間昭利,渡辺仁司,坂本雅昭,石川哲大	第６回転倒予防学会	2019/10/5-6
9	レッグポジショナーを用いた最小侵襲前方侵入法(AMIS approach)における、術中骨盤傾斜とカップアライメントの検討	輪湖靖,渡辺仁司,坂本雅昭,北條篤志	第 46 回日本股関節学会	2019/10/25-26
10	大腿骨転子部骨折に対する髄内固定術後に感染と鑑別を要した壊疽性膿皮症の１例	北條篤志,輪湖靖,渡辺仁司,坂本雅昭	第 46 回日本股関節学会	2019/10/25-26

11	当科における低侵襲性人工骨頭置換術（BHA)のアプローチ別比較検討－Mobile Leg Positioner 使用下 DAA と CPP について－	渡辺仁司、坂本雅昭、輪湖　靖、北條篤志	第 46 回日本股関節学会	2019/10/25-26
12	肩関節の外傷・治療歴のない化膿性肩関節炎	山口　毅,伊勢昌平	第 46 回日本肩関節学会	2019/10/25-26
13	腸腰筋膿瘍に合併した両側化膿性肩関節炎	伊勢昌平,山口　毅	第 46 回日本肩関節学会	2019/10/25-26
14	傍脊柱筋膿瘍に対して外科的治療を要した一例	佐藤淳,茂手木博之,寺川文英,渡邊仁司,村上正純	第 54 回脊髄障害医学会	2019/10/31-11/1
15	急性対麻痺で発症した硬膜外悪性リンパ腫の一例	佐藤淳,茂手木博之,寺川文英,村上正純	第 54 回脊髄障害医学会	2019/10/31-11/1
16	上腕骨顆上骨折後肘関節脱臼を繰り返した１例	山田俊之	第 31 回千葉上肢を語る会	2019/11/16
17	小児橈骨遠位 1/3 骨幹部骨折において矢状面で15度以上変形が残存した症例の治療成績	山田俊之,六角智之	第30回日本小児整形外科学会学術集会	2019/11/21-23
18	整復不良のままプレート固定した基節骨骨折の１例	山田俊之	第10回千葉整形外傷研究会	2019/11/30
19	肘頭骨折における整復不良例の検討	寺川文英,六角智之,坂本雅昭,茂手木博之,渡辺仁司,山田俊之山口毅,佐藤淳,輪湖靖,北条篤司	第1409回千葉医学会整形外科例会	2019/12/14-15
20	大腿骨頚部骨折に対する CPP アプローチを用いた人工骨頭置換術の小経験	輪湖靖, 坂本雅昭, 渡辺仁司, 山口毅	第 50 回日本人工関節学会	2020/2/21-22

イ　シンポジウム・招聘講演などの特別な発表

No	演題名	演者名	学会・研究会・研修会名	年月日
1	Functional anatomy, indication and limitation of minimally invasive spine stabilization	Hiroyuki Motegi	2nd International and 7th Annual Conference of Nepalese Society of Neurosurgeons In collaboration with World Federation of Neurosurgical Societies	2019/4/5-6

ウ　紙上発表

No	題名	発表者及び共同研究者	雑誌・書籍名
1	剣道によるストレス骨折が考えられた両側有鉤骨鉤骨折の１例	佐久間昭利,山田俊之,六角智之,脇田浩正	臨床整形外科 54 巻 8 号 2019

エ　市民講座、医師会主催のセミナーの講師、研究会での特別講演講師など

No	題名	発表者	主催団体もしくは講演会名	開催場所	年月日
1	大腿骨転子部骨折の合併症	輪湖靖	Trauma small seminar 「大腿骨転子部骨折」	千葉	2020/1/26
2	クライミングにおけるスポーツ外傷・障害	六角智之	佐賀県山岳連盟講習会	佐賀	2019/6/29
3	AMIS Tip&Tricks、AMIS-BHA	渡辺仁司	MEDACTA AMIS LC 2019	Sydney, Australia	2019/11/2-3

（5）児童精神科

ア　学会発表

No	演題名	演者及び共同演者	学会・研究会・研修会名	年月日
1	兄の家庭内暴力から不登校となった中学２年生女児の症例	早津龍之介、鈴木陽大、柴田郁子、篠田直之	千葉県児童思春期精神医学研究会	2020/1/18

（6）産婦人科

ア　学会発表

No	演題名	演者及び共同演者	学会・研究会・研修会名	年月日
1	妊娠 13 週での胎児評価のこころみ	林伸彦　西脇哲二　山本敬介　金谷裕美　松本玲子	第 39 回千葉大学医学部関連病院臨床研究会	2019/7/19
2	腹式単純子宮全摘術後に膀胱腟ろうをきたした１例	山本敬介　松本玲子　林伸彦　金谷裕美　西脇哲二	第 1411 回千葉医学会例会　生殖医学分科会	2019/12/14

イ　紙上発表

No	題名	発表者及び共同研究者	雑誌・書籍名
1	子宮筋肥大による大量性器出血をきたした性同一性障害の１例	羽生裕二　西脇哲二　山縣麻衣　高木亜由美　岩崎秀昭　窪澤　仁	産婦人科の実際 68; 1175-1179 2019
2	当科における異所性妊娠に対するメソトレキサート療法の検討	高橋諭慎　西脇哲二　大見健二　奥谷理恵　佐藤明日香　羽生裕二　松本玲子　岩崎秀昭　碓井宏和	千葉医学　95; 85-91 2019

（7）皮膚科

ア　学会発表

No	演題名	演者及び共同演者	学会・研究会・研修会名	年月日
1	陰嚢平滑筋肉腫の１例	橋本啓代 根岸麻有子	第 884 回日本皮膚科学会東京地方会	2019/5/18

2	ダーモスコピーで基底細胞癌が鑑別にあがった脂漏性角化症	今関梓 外川八英 青山和弘 根岸麻有子 松江弘之	第83回日本皮膚科学会東京・東部支部合同学術大会	2019/11/16

イ　市民講座、医師会主催のセミナーの講師、研究会での特別講演講師など

No	題名	発表者	主催団体もしくは講演会名	開催場所	年月日
1	皮膚科特有の処方 ～外用薬や抗生剤を中心に～	根岸麻有子	千葉県病院薬剤師会中央支部・千葉市薬剤師会合同研修会	千葉市総合保健医療センター	2019/9/24

ウ　紙上発表

No	題　名	発表者及び共同研究者	雑誌・書籍名
1	特集/これで鑑別は OK! ダーモスコピー診断アトラス －似たもの同士の鑑別と限界－ 開業医にお勧めの使い方②	児島 孝行 遠藤 秀治 根岸 麻有子	Monthly Book Derma. 281: 151-157, 2019

（８）泌尿器科

ア　学会発表

No	演題名	演者及び共同演者	学会・研究会・研修会名	年月日
1	当院におけるドルニエ社製　DeltaⅡによる尿路結石の治療成績	松本　精宏	第107回日本泌尿器科学会総会	2019/4/18-21
2	膀胱に発生した異所性子宮内膜症の１例	井上　裕司	第111回千葉泌尿器科集談会	2019/6/8
3	尿膜管膿瘍と鑑別を要したメッケル憩室による腹壁膿瘍の１例	松本　精宏	第69回日本泌尿器科学会中部総会	2019/10/31-11/3
4	加齢との付き合い方「高齢者はかかりやすい病気 泌尿器疾患」	岡野　達弥	令和元年度千葉市ことぶき大学校公開講座（千葉）	2019/11/5
5	尿閉と発熱を主訴に受診した急性散在性脳脊髄炎の１例の治療経験	高橋　正行	第92回千葉泌尿器同門会学術集会	2020/1/25

（９）救急集中治療科

ア　学会発表

No	演題名	演者及び共同演者	学会・研究会・研修会名	年月日
1	消火器を口腔内噴射し多臓器に障害をきたした１例	竹田雅彦、齋藤大輝、高橋和香、森田泰正	第47回日本救急医学回総会・学術総会	2019/10/3

イ　紙上発表

No	題名	発表者及び共同研究者	雑誌・書籍名
1	Modulation of Human Neutrophil Peptides on P. arruginosa Killing, Epithelial Cell Inflammation and Mesenchymal Stromal Cell Secretome Profiles	Dai Q, Morita Y, Huang Y, Liaw PC, Wu J, Khang J, Islam D, Yu K, Li Y, Zhang H	J Inflamm Res.2019;12:335-343.

ウ　院内勉強会、セミナー、カンファレンス

No	演題名	演者	勉強会・セミナー名	年月日
1	千葉市の救急医療における青葉病院の役割	森田泰正	消防学校実地研修	2020/2/14
2	MET 報告会	森田泰正	MET 報告会	2020/2/14

（１０）麻酔科

ア　学会発表

No	演題名	演者及び共同演者	学会・研究会・研修会名	年月日
1	Cornelia de Lange 症候群成人の上腕骨骨折症例の麻酔経験	鈴木洋人、中嶋和佳、高橋実里、葛田憲道	日本臨床麻酔学会第３９回大会（軽井沢町）	2019/11/7

3. 医療技術部報告

臨床検査科

１．基本理念

質の高い検査データを迅速・精確に提供します。

基本方針

・他部門との連携を密に保ち、質の高い検査データの提供に努めます。

・研修会や学会などに積極的に参加し、常に最新の医学検査情報の習得および提供に努めます。

・内部検査および外部委託検査のデータ精度の確保に努めます。

２．組織及び構成

組織構成は以下のとおりである。

臨床検査科は、部長１名、技師長１名、主査３名、主任７名、臨床検査技師（常勤）14 名、臨床検査技師（任用職員）４名より構成されている。

今年度は１名の退職者に伴い、４月より１名の新規職員が採用された。

部　長 ： 高野　始

技師長 ： 小山　宏

主　査 ： 秋葉 容子、矢萩 直樹、庄野かおり

主　任 ： 藤崎 和仁、福田 憲一、三橋 涼子、志水 紗和、八塚 則行、石渡なつき、秋山　育美

臨床検査技師（常勤）：

小林 仁美、仁平　南、大本 真琴、田中絵理依、梶原 裕貴、西野 奈々子、佐藤 秀瑠、渡邊 夏紀、石野菜緒子、村松 孝行、佐藤 優、大友 祐輝、前田 惟那、小暮　直敬

臨床検査技師（任用職員）

３．概要

化学・免疫・一般検査部門、血液部門、輸血移植部門、微生物部門、病理部門、生理部門、外来採血部門に分かれている。2交代制勤務で夜間・休日は技師1名が常駐し、緊急検査、細菌検査および輸血業務に対応している。

主な業務状況は、以下のとおりである。

【生化学・免疫・一般検査】

生化学検査件数は 1,297,954 件（前年比＋4.4%）、免疫血清学検査件数は 103,844 件（前年比＋5.3%）とやや増加し、一般検査件数は 446,117 件（前年比＋0.3%）と前年度並みであった。

日々の精度管理やメンテナンス、定期点検を励行し、機器や試薬の管理体制の強化を継続的に行っており、正確かつ迅速な検査結果が提供できるよう努めている。新しく重炭酸イオン検査を導入するため検討を実施、業務拡充に取り組んだ。また、臨床治験に協力し、迅速かつ正確な治験検査・検体管理業務支援を行っている。

【血液学的検査】

血液一般検査件数は、503,478 件（前年比＋4.9%）とやや増加、骨髄像検査は 764 件（前年比＋24.0%）と大幅に増加した。骨髄検査は高い専門性を要し、煩雑かつ労力を要する検査であり、ベッドサイドでの標本作成も行っている。また、細胞分画や報告書一部の作成は全て検査技師が行っており、診療支援に努めている。一

方、血液内科医とのマルクカンファレンスは毎週行われており、患者さんへのフィードバックと共に臨床に大きく貢献している。

知識の習得を図り、骨髄像検査の質向上および人材育成に努めている。

【輸血移植検査】

血液型・不規則抗体件数は 14,065 件（前年比-2.9%）とやや減少したが、クロスマッチ検査件数は 3,180 件（前年比＋13.1%）と増加した。適正な輸血療法の提供に努め、安全な輸血業務体制を継続している。来年度か　らのフローサイトメトリー（FCM）の院内施行に向け、新たな技術の習得と業務拡充に取り組んだ。院内施行により迅速な診断治療方針の検討が可能となり、臨床に貢献するものと思われる。専門資格である認定輸血検査技師を 1 名が新たに取得した。

【微生物学的検査】

一般細菌検査数は 22,880 件（前年比＋3.1%）、抗酸菌培養検査数は 2,425 件（前年比＋1.0%）とやや増加した。ICT（感染対策チーム）に 1 名が参画し、耐性菌等の情報発信や院内ラウンドの活動を行っている。AST（抗菌薬適正使用支援チーム）では AST カンファレンスに 1 名が参画し、血液培養の解析を行い、抗菌薬適正使用の適正化を支援している。

一方、検出菌の週報・月報の集計処理や院内に役立つ情報提供を行い、院内感染制御に貢献している。

【病理学的検査】

細胞診検査は対前年比 90%と減少したが、病理検査は 111%と増加した。

常に診断の迅速化を行い、病理診断の質の向上に日々努めている。専門資格である細胞検査士および認定病理検査技師を各々新たに 1 名が取得した。

【生理検査】

呼吸機能検査は 2,815 件（前年比-9.1%）、脳波検査 122 件（対前年比-9.6%）と減少したが、心電図は 8,668 件（前年比-1.7%）、血圧検査（血圧脈波検査・24 時間血圧測定）は 738 件（前年比＋1.8%）と概ね前年度並みであった。超音波検査は全体で 6,015 件（前年比＋8.7%）と増加し、うち検査技師担当数は 2,652 件と全体の 44%であった。5 月より耳鼻科からの要望で睡眠時無呼吸検査（PSG）を開始し、3 月末までに 25 例の検査を実施し業務拡充に取り組んだ。

知識と技術向上に努め、患者サービスの提供も心がけている。

【外来採血】

外来採血件数は 56,846 件（前年比＋2.6%）と微増であった。今年度より採血ブースを増やし、車イス専用ブースも新たに設けた。採血室のレイアウトを変更し、採血待ち時間の短縮および採血業務の効率化に取り組んだ。昨年度 2 月より導入された採血・採尿受付機の増設により円滑な業務が図られている。

４．運営方針と目標

（１）人材育成

昨年度より人材育成を勧める目的で、各部門間で短期ローテーションを行っており、今年度も 3 名を他部門に 4～6 ヶ月配属した。現在では、10 名の職員が他部門の補助を行える状況にある。バックアップ体制の継続をどのように運用していくかは課題であるが、今後も継続させ更に技術の習得・向上をめざしていきたいと考える。

一方、検査科内の勉強会を定期的に実施し、個々のスキルアップを図っている。各種認定資格等の取得も積極的に進めており、現在までに多くの取得者が誕生している。今後も専門性を高め、より高度な検査を行うため更に人材育成に力をいれていきたい。

（２）コスト削減

昨年度からの経営コンサルタントの介入により、今年度も委託検査について 4 月と 10 月の価格値引き対応により経費削減を行った。今後もコスト意識を持った検査科運営を目標としている。

（3）チーム医療への貢献

院内では感染制御チーム（ICT)、抗菌薬適正使用支援チーム（AST)、栄養サポートチーム（NST)、糖尿病教室などに積極的に関わっておりチーム医療の一員として貢献している。

今後も各種チーム医療に参画し、他部門との緊密な連携による効率的な業務運営を行うよう努力していきたいと考える。

（4）業　務

今年度は、業務の効率化と管理体制の強化に取り組み、スタッフの更なる知識と検査技術の向上に努めた。各部門間で情報を共有し、今後もより一層、迅速かつ精度の高い臨床検査を提供していきたいと考える。

5．資 格

名　　称	人数	名　　称	人数
細胞検査士	5名	細胞治療認定管理師	3名
国際細胞検査士	4名	遺伝子分析科学認定士（初級）	1名
認定輸血検査技師	3名	二級臨床検査士（血清学）	2名
認定微生物検査技師	1名	二級臨床検査士（血液学）	4名
感染制御認定臨床微生物検査技師	1名	二級臨床検査士（微生物学）	3名
認定血液検査技師	1名	二級臨床検査士（臨床化学）	1名
認定骨髄検査技師	1名	二級臨床検査士（病理学）	3名
認定病理検査技師	1名	二級臨床検査士（循環器生理学）	1名
認定一般検査技師	1名	緊急臨床検査士	5名
超音波検査士（循環器）	7名	医療安全管理者	1名
超音波検査士（消化器）	6名	健康食品管理士	2名
超音波検査士（表在臓器）	1名		

6．臨床検査統計

（1）　検体検査件数

院内実施検査		2017度	2018度	2019年度	前年度比%
生化学検査		1,283,065	124,3069	1,297,954	104.4
免疫血清学検査		100,392	98,630	103,844	105.3
血液学検査	血液一般検査	499,083	479,990	503,478	104.9
	骨髄検査	689	616	764	124.0
一般検査		387,660	444,655	446,117	100.3
微生物検査	一般細菌検査	23,840	22,190	22,880	103.1
	抗酸菌培養検査	2,479	2,401	2,425	101.0
細胞診検査	受付数	5,587	5,156	4,686	90.9
	標本枚数	10,612	9,823	8,788	89.5
病理検査	受付数	4,288	4,156	4,638	111.6
	標本枚数	11,812	12,000	13,445	112.0
輸血検査	血液型・不規則抗体・直接ｸｰﾑｽ	14,665	14,485	14,065	97.1
	クロスマッチ検査	3,092	2,811	3,180	113.1

	自己血瀉血件数	157	132	132	100.0
	瀉血件数	18	9	25	
生理機能検査	心電図	7,538	8,820	8668	98.3
	（救急夜間心電図）	(4,219)	(4,710)	(4,722)	
	呼吸機能検査	2,868	3,097	2815	90.9
	血圧検査	979	725	738	101.8
	脳波	137	135	122	90.4
	超音波検査	4,242	5,535	6015	108.7
	その他の検査	4	2	31	
採血		55,416	55,404	56,846	102.6
合計		2,418,623	2,413,841	2,409,940	103.6

（　）内は計算除外

委託検査			
	LSI		SRL
生化学検査	27,652	生化学	2
免疫血清学検査	42,626	免疫ウイルス	38
血液学検査	514	細胞性免疫	817
一般検査	163	染色体	5
薬物検査	445	遺伝子	1,209
微生物学検査	1,840	細菌	2
染色体検査	1,001	病理	619
遺伝子検査	108	その他	6
病理検査	227		
合計	74,576		2,698

（２）輸血関連業務件

業務腫		件数
移植関連	末梢幹細胞採取	22
	末梢血幹細胞 CD34 測定	22
	DLI 採取	7
	DLI 細胞分取	3
	ドナー血小板多血漿	0
	骨髄濃縮	4
	骨髄血漿除去	0
	臍帯血 CD34 測定	2
	融解サンプル CD34 測定	0
	血小板洗浄	0
合計		60

（３）血液製剤使用状況

製剤種類	平成 31 年度計	月平均
RBC-LR	5,870	489.2
WRC-LR	0	0.0
FFP-LR	1016	84.7
PC	21,600	1,800.0
HLA-PC	615	51.3
WPC-LR	120	10.0
WPC-HLA-LR	0	0.0
自己血	229	19.1
合計	29,450	2454.2

（注）数については、200ml を 1 単位として換算した単位数

FFP-LR については、120ｍｌを 1 単位とした単位数

放射線科

（1）　スタッフ

診療放射線技師長：大塚　泰通

主　　査　　：新田　麻二

主　任　技　師　：細川　輝男、伊藤　等、佐々木　勇、志賀　正和、林　正尚
鈴木　陽子、増田　尚広、菊池　龍、三谷　晃宏、齊藤　香里

技　　師　　：佐藤　友裕、志村　麻希子、浅川　俊之、石井　利之、島田　直和
西浜　沙織

（診療放射線技師　18 名）

（2）　業務体制

ア　勤務体制

・2 交代勤務（夜間・休日は 1 名）により 24 時間、365 日の放射線科業務対応を行っている。

・更に夜間・休日の緊急カテーテル（PCI 等）対応として待機者 1 名を加えている。

イ　撮影業務

・一般撮影（移動型撮影装置、乳房撮影、パントモを含む）

・Ｘ線透視撮影（移動型透視装置、結石破砕装置を含む）

・骨密度測定

・X 線ＣＴ撮影（救急棟を含む 2 台体制）

・ＭＲＩ撮影（3T 及び 0.4T の開放型 MRI の 2 台体制）

・血管造影（心血管・頭腹部血管）

・核医学検査（SPECT-CT）

・ICU･HCU のポータブル撮影は、医師がカンファレンスを行う 8 時前に実施。

・職員健診（胸部 X 線、上部消化管 X 線）の実施。

ウ　放射線機器及び放射線安全管理

・検査装置の日常点検業務（始業・終業及び定期点検）

・放射線従事者被ばく管理

エ　放射線情報システム（RIS）の改善

・新規検査オーダ等によるマスター更新

オ　各種マニュアルの改定

・各モダリティの検査マニュアルの随時更新

・各機器操作マニュアルの随時更新

カ　業務集計

・検査種別の統計

・CT、MRI、RI 検査読影集計

キ　放射線科運営委員会、放射線科安全管理委員会の開催

ク　院内研修・講習会

・心血管造影検査急変時の救急対応シュミレーション訓練（2019/11/21）

（３）　業務実績　（件）

検査種	2019 年度	昨年度（2018 年）
一般撮影	52,757	52,223
CT	16,436	16,959
MR	2,575	2,710
OpenMR	1,374	1,666
Ｘ線ＴＶ	1,538	1,618
結石破砕	128	128
血管撮影（心血管）	373	291
血管撮影（頭腹部）	74	60
核医学検査	739	634
合計	75,994	76,289

（４）　総括

2019 年度は心血管造影検査が昨年度に比べ伸びたが、全体としては新型コロナウイルス感染症の影響も有り、全体としては若干減少した。また次年度（2020 年 4 月 1 日）施行の診療用放射線安全のためのガイドラインを作成、また CT、血管撮影装置、核医学検査の線量適正化に向けた評価を実施した。

年明けからは当院でも新型コロナウイルス感染者の受け入れが始まり、感染対策室指導の元、防護着の着脱や検査時の感染防護対策を行い、検査対応マニュアルの作成、スタッフへの教育訓練、研修を行った。

次年度は今後増加が予想される新型コロナウイル感染に留意し、院内感染はもとより、職員への感染対策を徹底し、安全でかつ良質な医療の提供に努めて行きたいと思います。

資格・認定

Ｘ線ＣＴ認定技師	5 名
核医学専門技師	1 名
日本血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師	1 名
救急撮影認定技師	3 名
検診マンモグラフィ撮影診療放射線技師	2 名
Ａｉ認定診療放射線技師	1 名
医療情報技師	3 名
第一種放射線取扱主任者	4 名

栄養科

（ア）　　スタッフ

栄 養 科 長：1名

主任管理栄養士：2名

管理栄養士：4名

委 託 業 者：シダックスメディカルフードサービス

（イ）　　業務

ア　食事の提供

・特別食加算比率を上げるため、貧血、クリーン食に5・7分粥食、3分粥食の食種を増やした。

・嚥下チームからの要望で嚥下5・7分粥食、嚥下3分粥食、食待ち嚥下食の食種を増やした。

・食物アレルギーの多様化に伴い、新たに もも・りんご・果物禁止の対応を開始。

・食事アンケート（２回／年）を実施

イ　栄養管理

・医療クオリティ委員会のQI項目において“特別食加算比率30%以上”を掲げ、結果“30.2%”と目標を達成した。

・急性期の栄養管理において、“栄養シート”を電子カルテ上に作成し、多職種での連携を図っている。

ウ　栄養相談・集団指導――――――〈 実績表参照 〉

・個人栄養相談（月～金　９時～１６時）

・糖尿病教室（第１金　最終週金　１３時～１５時）

・糖尿病週末短期入院パス（最終週金～日　個人栄養指導と集団指導実施）

・マタニティークラス前期にて妊産婦の食事講話を実施（第１火）

エ　チーム医療活動

・栄養サポートチーム　毎週木曜日

・褥創チーム　毎週木曜日

・緩和ケアチーム　毎週木曜日

・嚥下チーム（H３０．６～）　毎週火曜日

・糖尿病腎症透析予防チーム(H３０．８～ ）　随時

オ　糖尿病患者会（青葉友の会）の支援

・患者会事務局として活動を支援している。

年間行事（4月定期総会、6月日帰りバス旅行、10月ウォークラリー、11月市民のための糖尿病教室、2月食事会）を開催。

※2月食事会はcovid対策で急遽中止した。

令和２年度末で会創設１５年となるが、会員の高齢化により会員の減少、
役員の高齢化が課題である。

カ　情報紙の発行

・「栄養科通心」を偶数月に委託業者と共に発行している。
令和２年３月までに第９４号発行

キ　実習生の受け入れ

・県立保健医療大学、淑徳大学、帝京平成大学の学生に２～３週間の実習指導を行っている。

ク　その他

・地域に根ざした病院活動の一貫として、下記イベントに参加。
＊１０月『 千葉市健康づくりフェア 』
＊７月『 市民公開講座（糖尿病)』
・災害拠点病院として、非常時でも給食を安定して提供できるよう、
科内の「災害時アニュアル」を大幅に見直した。

（ウ）　実績

《給食実績食数》

	２９年度	３０年度	３１年度
提供食数 （特別食含む）	２３７，４３５	２４５，０７７	２５５，８４９
特別食（加　算）	５９，４８５	６２，１８０	７７，２５０
特別食（非加算）	４８，６８９	４４，２６４	４３，２３９
特別食加算比率％	２５．１％	２５．６％	３０．２％
調乳本数	１２，１５９	９，８６５	８，８３８
調乳人数	１，３６２	１，０７８	９３９

《個人栄養指導件数》

	２９年度	３０年度	３１年度
入院（加　算）	７０８	７１７	６３２
入院（非加算）	１２４	１３７	１０２
外来（加　算）	１，８５６	１，５７５	１，５４３
外来（非加算）	８３	８０	６２
合　　計	２，７７１	２，５０９	２，３３９

《集団指導》

	２９年度	３０年度	３１年度
糖尿病教室　（ 人 ）	１１１	７７	５６
（回数）	２１	１８	２０

マタニティー教室（人）	９３	８４	５７

《NST 加算》

	２９年度	３０年度	３１年度
加算件数	１１８	２０７	１１９

《糖尿病透析予防管理加算》

	３０年度	３１年度
加算件数	１６	４１

臨床工学科

(1) スタッフ（資格・試験）

スタッフ	資格・試験
髙村　真吾	臨床 ME 専門認定士 透析技術認定士 三学会合同呼吸療法認定士 心血管インターベンション技師認定 日本救急医学会認定 ICLS コース修了 第１種 ME 技術実力検定試験合格 血液浄化専門臨床工学検定試験合格 呼吸治療専門臨床工学検定試験合格 認定集中治療関連検定試験合格
佐々木　優衣	医療機器情報コミュニケータ（MDIC） 第２種 ME 技術実力検定試験合格
松原　昌志	日本救急医学会認定 ICLS コース修了 第２種 ME 技術実力検定試験合格
上原　史也	三学会合同呼吸療法認定士 心血管インターベンション技師認定 第２種 ME 技術実力検定試験合格
馬場　裕之介	透析技術認定士 三学会合同呼吸療法認定士 第２種 ME 技術実力検定試験合格

(2) 業務

ア　ICU・救急業務

・医師や看護師と連携した患者や医療機器の対応

・補助循環装置や人工呼吸器など生命維持管理装置の操作・管理

イ　血液浄化関連業務

・血液透析・血漿交換・腹水濾過濃縮再静注法など施行

・血液透析装置・血液浄化装置の操作・管理

・血液浄化治療中の各種トラブルの対応や点検・マニュアルなどの作成

ウ　循環器関連業務

・心臓血管カテーテル検査・治療でポリグラフや血管内超音波検査の操作

・ペースメーカーの植込みチェックや設定・定期検査・遠隔モニタリング

・運動負荷心筋シンチグラフィー検査

エ　呼吸器関連業務

・人工呼吸器使用中の患者同調性や設定確認

・人工呼吸器使用中の安全点検・トラブルシュート

・人工呼吸器使用後点検

オ　手術室関連業務

・術中自己血回収

・手術室内医療機器のトラブル対応

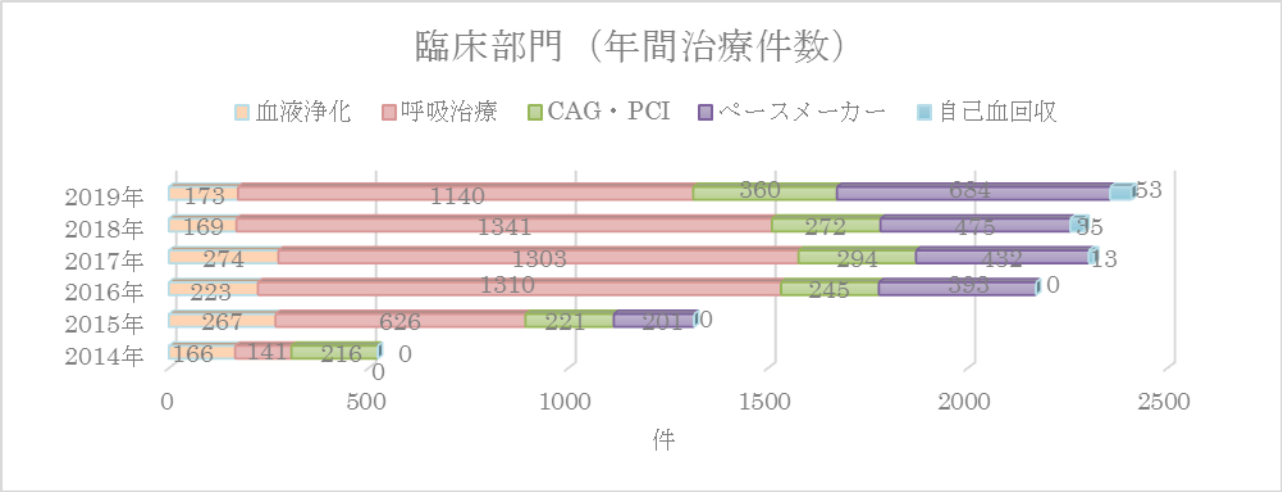
カ　機器管理業務

・中央管理機器の日常点検

・医療機器定期点検の年間計画策定と実施

・医療機器安全使用のための研修の実施

(3) 実績



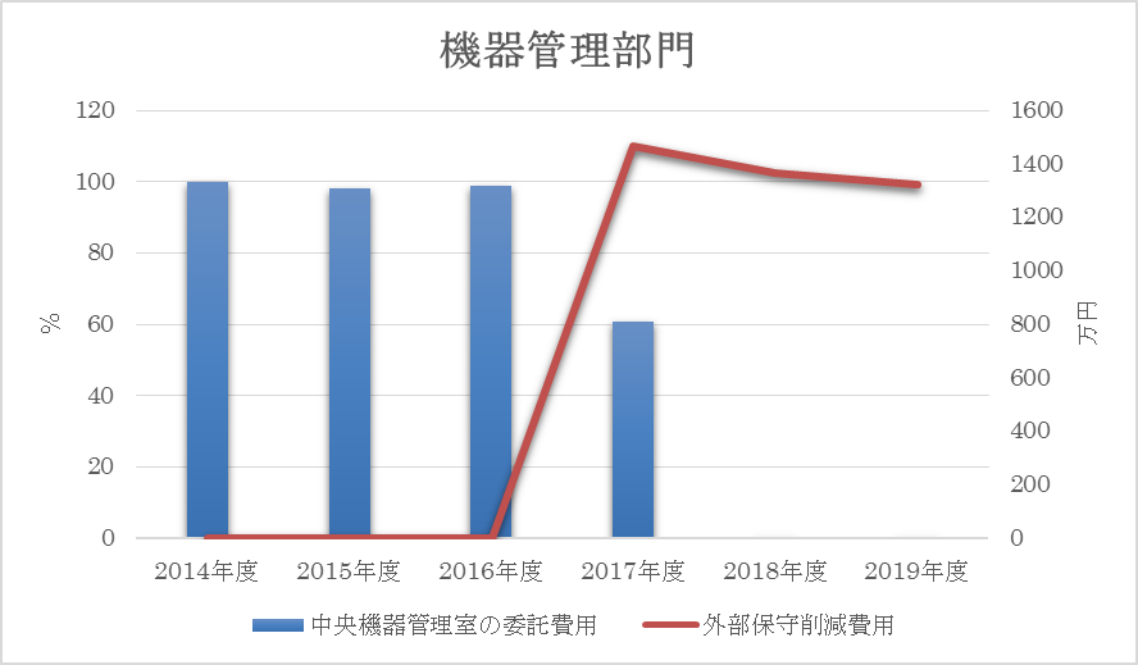
※血液浄化…血液透析や血漿交換、腹水濾過濃縮再静注法など血液浄化治療の実施件数

（血液浄化業務は持続緩徐式血液濾過透析を除いて算出）

※呼吸治療…人工呼吸器関連機器（NPPV、NHF 含む）装着件数（装着日数で算出）

※CAG・PCI…心臓血管カテーテル検査・治療件数

※ペースメーカー…ペースメーカー植込み・ペースメーカー外来・遠隔モニタリング件数



※中央機器管理室の委託費用…2014 年度中央機器管理室（ME センター）の機器管理業務委託費用を 100%として算出

※外部保守削減費用…当科が保守管理している ME 機器を外部委託した場合の概算費用（＝削減費用）

(4) 教育

ア　勉強会

・各種治療・医療機器に関する科内勉強会の開催

・全職員対象の医療機器安全使用に関する研修会の実施

・心臓血管カテーテル検査・治療時の急変に対するシミュレーションの実施

イ　活動

・医療機器に関する医療安全情報の提供

・RST（呼吸サポートチーム）

・医療安全委員会

・医療機器安全管理委員会

・SMT（チーム STEPPS）

・透析機器安全管理委員会

・災害医療対策委員会

・広報委員会

ウ　学会・研究会・講習会・研修会

・第 45 回日本集中治療医学会　発表

・第 32 回千葉集中治療研究会　発表

・第 56 回全国自治体病院学会　発表

・日本医療機器学会　参加

・日本透析医学会　参加

・日本呼吸療法医学会　参加

・日本循環器医学会　参加

・日本臨床工学技士会　参加

・日本呼吸療法医学会　参加

・人工呼吸器 BENNETT980　メンテナンス講習会　参加

・人工呼吸器 MONNAL T60　メンテナンス講習会　参加

・フットポンプ AV インパルス　メンテナンス講習会　参加

・低圧持続吸引器メラサキューム　メンテナンス講習会　参加

・電気メス Force Triad　メンテナンス講習会　参加

・電気メス FT10　メンテナンス講習会　参加

・保育器デュアルインキュｉ　メンテナンス講習会　参加

・個人用多用途透析装置 DBB-100NX　メンテナンス講習会　参加

・個人用多用途透析装置 DBG-03　メンテナンス講習会　参加

・経腸栄養ポンプ　キャリカポンプ　メンテナンス講習会　参加

・フットポンプ SCD-700　メンテナンス講習会　参加

(5) 総括

2019 年度から千葉市立海浜病院へ１名異動があり、現在 5 名体制（産後育児休暇者１名を含む)、365 日 24 時間のオンコール体制で業務を行っている。

臨床部門に於いて、血液浄化関連では血液透析件数が前年度に比べて横這い、持続緩徐式血液濾過（CHDF）件数と合わせても概ね変わらなかった。

アフェレーシス関連は、毎年バラつきが見られるものの、白血球除去療法（GCAP・LCAP）・腹水濾過濃縮再静注法（CART）は若干減少傾向にあった。一方で、遠心型血液成分分離装置を使用した血漿交換や白血球除去療法は増加傾向にあり、膜型血漿交換困難例や急性骨髄性白血病に対するアフェレーシスなどを実施した。
呼吸器関連業務では、毎年実施している呼吸デバイス（人工呼吸器・NPPV 専用器・ネーザルハイフローシステム）使用にあたっての研修を開催した。また、2020 年 1 月にはダイヤモンド・プリンセス号新型コロナウイルス感染事例を受けて、人工呼吸器回路の仕様変更や COVID-19 陽性患者の挿管・人工呼吸器管理や設備・環境の検討、見直しを行った。
循環器関連業務では、急性冠症候群に対する経皮的冠動脈形成術（PCI）や徐脈に対する体外式ペースメーカー対応など、予定の検査・治療に加えて夜間休日の緊急対応を行った。また、PCI 全症例の約半分（49.7%）が急性冠症候群（ACS）の緊急 PCI に対応、うち 53.2%が夜間・休日のオンコール対応していることも急性期病院としての特徴であった。
不整脈関連業務では、2018 年度よりペースメーカー植込み患者の遠隔モニタリングを開始しているため、不整脈関連業務は年々増加している。
臨床部門の新業務として、運動負荷心筋シンチグラフィー検査介助を開始した。
機器管理部門では、2018 年度より中央機器管理室（ME センター）の業務委託を完全廃止し、委託費用削減に大きく貢献した。一方で、各部署から ME 機器の保守管理を依頼されるケースが年々増加傾向にあり、その中でも当科による保守管理が難しい ME 機器の外部保守委託費用の増加が課題である。

医療技術部門業績

（１） 臨床検査科

ア　学会などでの演題発表

No	演題名	演者及び共同演者	学会・研究会・研修会名	年月日
1	第４回”房の国”血液カンファレンスの教育効果 -プレテスト・ポストテストによる検証-	仙波　利寿、小山　宏、綿引　一成、澤田　朝寛、福田　幸広、笹尾　祐太、湯浅　智文、近藤　也寸紀	第２０回日本検査血液学会学術集会	2019/07/06～07/07
2	腎臓に発生した粘液管状紡錘細胞癌の一例	西野　奈々子、三橋　涼子、大本　真琴、大友　祐輝、　　窪澤　仁	第 58 回全国自治体病院学会	2019/10/23～10/25
3	全自動血球分析装置 XN-3100 を用いた骨髄有核細胞数測定方法の検討	佐藤 秀瑠　藤川 樹　伊藤 桂子　小暮 直敬　小山 宏	第 39 回千葉県臨床検査学会	2020/2/16

イ　シンポジウム・招聘講演などの特別な発表

No	演題名	演者名	学会・研究会・研修会名	年月日
1	血液疾患　症例報告 DLBCL	小山　宏	第 5 回”房の国”血液カンファレンス	2019/11/2

ウ　誌上発表

No	題名	発表者及び共同研究者	雑誌・書籍名
1	当院における成人侵襲肺炎球菌感染症（IPD)に関する検討	前田　惟那、秋葉　容子、梶原　裕貴、面　すみれ、静野　健一	千葉県臨床検査技師会千臨技会誌 137 巻　3 号

エ　市民講座、医師会主催のセミナーの講師、研究会での特別講演講師など

No	題名	発表者	主催団体もしくは講演会名	開催場所	年月日
1	二級臨床検査士になろう	小暮　直敬	千葉県臨床検査技師会 2019 年度第 1 回血液検査研究班研修会	千葉市生涯学習センター	2019/4/27

（2） 放射線科

ア 学会・研究会などでの演題発表

No	演題名	演者及び共同演者	学会・研究会・研修会名	年月日
1	**当院の心臓カテーテル室での急変時対応シュミュレーショントレーニングの取り組み**	**演者:伊藤 等** **共同演者:林 正尚、三谷晃弘、佐々木 優衣、小見裕子**	**2019 年度 関東甲信越診療放射線技師学術大会**	**2019/6/29**
2	CT 線量が骨シンチグラフィ画像の定量解析値に与える影響	演者：佐藤友裕	第 69 回日本病院学会	2019/08/02
3	心筋交感神経シンチグラフィにおける空間適応型ノイズ除去処理の有用性	演者：佐藤友裕	第 39 回日本核医学技術学会総会学術大会	2019/11/02
4	当院 CT 装置における MTF の評価	演者：石井 義之 共同演者：増田尚広、佐藤友裕、三谷晃弘、伊藤等、高木卓（海浜病院）	千葉県技師会 第 70 回学術大会	2020/02/09

イ シンポジウム・招聘講演などの特別な発表

No	演題名	演者名	学会・研究会・研修会名	年月日
1	得られたデータの捉え方と DRL を理解しよう	伊藤等	平成 30 年度線量測定講習会	2019/04/28
2	Broad Quantification 使用施設報告	佐藤友裕	xSPECT ユーザーセミナー2019	2019/04/12
3	被ばく・防護（従事者の被ばくと管理）	伊藤 等	第 12 回千葉 IVR セミナーPart1	2019/05/19
4	医療法施行規則の一部を改正する省令わかりやすく解説します！	伊藤 等	第 20 回千葉アンギオ技術研究会	2019/09/28
5	Symbia Intevo の使用経験～xSPECT 再構成の臨床活用～	佐藤友裕	第 27 回 Molecular Imaging Technologist Conference 茨城	2019/11/29

ウ 市民講座、医師会主催のセミナーの講師、研究会での特別講演講師など

No	題名	発表者	主催団体もしくは講演会名	開催場所	年月日
1	**副腎（髄質・皮質）シンチグラフィ**	**佐藤友裕**	**第 100 回千葉核医学技術研究会**	**千葉市文化センター**	**2019/05/24**
2	**核医学検査における異常所見・異常事象発生時の対応と工夫**	**佐藤友裕**	**第 17 回 千葉県放射線技術フォーラム**	**国立がん研究センター東病院** **先進医療開発センター**	**2020/02/16**

				研究棟	
3	核医学検査における異常所見・異常事象発生時の対応と工夫	佐藤友裕	第 18 回 千葉県放射線技術フォーラム	国立がん研究センター東病院 先進医療開発センター研究棟	2020/02/17

（３） 栄養科

No	演題名	演者及び共同演者	学会・研究会・研修会名	年月日
1	Freestyle リブレ使用中の１型糖尿病に対する栄養指導介入の有用性について	牧野桃、麻薙安代、山本恭平	第 62 回日本糖尿病学会学術集会	2019/5/23～25

4. 薬剤部報告

薬剤部

（１）基本理念

薬の専門家として医師をはじめ多職種と連携して、安全で安心できる質の高い薬物療法を提供します。

１　薬品管理　　医薬品を管理し、良質で安全な医薬品を効率的に提供します。
２　事故防止　　医薬品安全使用情報を共有し、医療事故の防止に努めます。
３　チーム医療　　他職種と協力し、患者様にとって、より有効な薬剤の使用に努めます。
４　知識向上と教育　薬剤師として自らの知識研鑽に努めるとともに、薬学教育に参画します。

（２）体制

ア　夜間・休日：２４時間体制（宿日直）で業務を行なっています。
イ　セントラル：調剤・製剤・無菌調製・DI
ウ　病棟　　：病棟薬剤管理指導（加算１・加算２）体制
　　服薬指導（加算）体制
　　AST（加算）体制

（３）スタッフ：２９名

（常勤薬剤師１８名、育休常勤薬剤師４名　非常勤薬剤師４名　助手３名）

薬剤部長　　安見　誠
薬剤副部長　　長嶋　真美
主査　　根本　克己、古川　博則
主任薬剤師　　志村　章、工藤　三果、森永　正樹、戸室　佳織、山口　香織、田中　則行
　　村本　綾子、齋藤　貴之、藍野　芙季子、今関　尊司、草野　李穂
　　関　善恵、河野　由美子、蘆原　尚也
薬剤師　　佃　直是、藤﨑　智子、馬立　友理恵、吉瀬　璃子
非常勤薬剤師　青山　幸奈、大友　成子、小野崎　節子、野副　陽子、
薬剤助手　　伊藤　由美子、川副　静香、野本　美也子

（４）資格

研修認定薬剤師（日本薬剤師研修センター）	14 人
日病薬病院薬学認定薬剤師（日本病院薬剤師会）	16 人
日病薬生涯認定（日本病院薬剤師会（都道府県））	8 人
日病薬生涯履修認定（日本病院薬剤師会（都道府県））	2 人
実務実習指導薬剤師（日本病院薬剤師会）	1 人
実務実習指導薬剤師（日本薬剤師研修センター）	5 人
がん薬物療法認定薬剤師（日本病院薬剤師会）	1 人
麻薬教育認定薬剤師（日本緩和医療薬学会）	1 人
感染制御認定薬剤師（日本病院薬剤師会）	2 人
抗菌化学療法認定薬剤師（日本化学療法学会）	2 人

千葉県糖尿病療養指導士（千葉県糖尿病対策推進会議）	1 人
日本糖尿病療養指導士 CDEJ（日本糖尿病療養指導士認定機構）	2 人
リウマチ財団登録薬剤師（日本リウマチ財団）	1 人
精神科薬物療法認定薬剤師（日本病院薬剤師会）	1 人
小児薬物療法認定薬剤師（日本薬剤師研修センター）	1 人
NST（栄養サポート）専門療法士（日本静脈経腸栄養学会）	5 人
DMAT（DMAT（国立　災害医療センター内））	2 人
CL－DPAT	1 人
プライマリ・ケア認定薬剤師（日本プライマリ・ケア連合学会）	1 人
医療情報技師（日本医薬品情報学会　医療情報技師育成部会）	1 人
漢方・生薬認定薬剤師（日本薬剤師センター）	1 人
公認スポーツファーマシスト（日本アンチ・ドーピング機構 JADA）	2 人
高血圧循環器病予防療養指導士 （日本高血圧学会・日本循環器病予防学会・日本動脈硬化学会）	1 人
医療ｸｵﾘﾃｨﾏﾈｰｼﾞｬｰ（日本医療機能評価機構）	1 人

（５）院内使用薬品

ア

年度	2019 年	2018 年（参考）	2017 年（参考）
購入品目種類（種類）	1494	1,418	1,419
後発医薬品の 購入種類数（種類）	332	286	266

イ　後発医薬品使用割合（DPC）

年度	2019 年	2018 年（参考）	2017 年（参考）
後発医薬品使用割合	87.0%	85.0%	85.4%(DPC のみ)

※後発医薬品使用割合

＝（後発医薬品の数量）／［(後発医薬品の数量）＋（後発医薬品のある先発医薬品の数量)］×100

（６）業務及び実績

ア　処方箋枚数・院外処方箋発行率

年度		2019 年	2018 年（参考）	2017 年（参考）
外来	院外処方箋（枚）	89,837	90,812	88,155
	院内処方箋（枚）	5,820	5,791	5,863
入院処方箋（枚）		49,379	48,957	48,319
院外処方箋発行率(%)		93.9	94.0	93.8

イ　注射箋調剤枚数

年度	2019 年	2018 年（参考）	2017 年（参考）
入院注射処方箋（枚）	94,036	90,897	105,100
外来注射処方箋（枚）	8,905	6,478	6,479

ウ　無菌調製件数（件）

年度		2019 年	2018 年（参考）	2017 年（参考）
がん化学療法無菌調製	外来	2645	2,229	1,847
	入院	3995	2,838	2,263
がん以外無菌調製		1219	1,262	1,577
合計		7859	6,329	5,687

参考：祝休日の無菌調製件数（件）（再掲）

年度		2019 年	2018 年（参考）	2017 年（参考）
がん化学療法無菌調製	入院	1010	727	571

エ　院内製剤数（件）

年度	2019 年	2018 年（参考）	2017 年（参考）
院内製剤（件）	158	163	142

オ　【病棟】薬剤管理指導件数（件）

年度	2019 年	2018 年（参考）	2017 年（参考）
指導料１（ハイリスク）	6,440	5,850	4,980
指導料２（１以外）	8,460	7,845	8,388
指導料３（麻薬）	303	175	156
退院指導	3,002	3,148	2,988

カ　病棟薬剤業務実施加算件数（件）

年度	2019 年	2018 年（参考）	2017 年（参考）
一般病棟（加算１）	13,953	1,4772	11,208
ＩＣＵ（加算２）	137	887	784

※6 月より ICU・HCU 病棟担当配置取り下げ。

キ　薬剤総合評価調整件数（人）

年度	2019 年	2018 年（参考）	2017 年（参考）
薬剤総合評価調整件数	7	8	26

ク　ＴＤＭ件数（件）

年度	2019 年	2018 年（参考）	2017 年（参考）
VCM（バンコマイシン）	180	134	118
TEIC（テイコプラニン）	6	3	23
VPA（ﾊﾞﾙﾌﾟﾛ酸ﾅﾄﾘｳﾑ)）	11	5	6
Li（炭酸リチウム）	5	8	10

ケ 千葉県共用卒中等地域医療連携パス（CAMP-S）

年度	2019	2018 年（参考）	2017 年（参考）
患者数	12	19	14

コ　夜間実績　（再掲）宿直体制

年度		2019	2018 年（参考）	2017 年（参考）
内服・外用処方箋（枚）	外来	1,126	1,084	1,077
	入院	5,854	5,580	5,428
入院注射処方箋（枚）		20,361	21,301	22,526

（７）治験

ア　治験事務局業務

年度	2019	2018 年（参考）	2017 年（参考）
治験実施件数（再掲）	11	5	3

イ　治験審査委員会業務（外部委員参加）

年度	2019	2018 年（参考）	2017 年（参考）
治験審査開催回数	12	12	12

（８）学会発表

発表者	演題	学会名	発表日
今関　尊司	疼痛コントロール目的で行った オピオイドスイッチングの有用性	日本病院薬剤師会 関東ブロック 第 49 回学術大会	2019/8/24
森永　正樹	テイコプラニンの適正使用への取り組み	第 58 回 全国自治体病院学会	2019/10/25

（９）講師

講師	演題	講習会名	日時
古川　博則	院外処方箋への検査値記載開始にあたって	青葉薬薬連携セミナー	2020/2/12
佃　直是	高齢者の睡眠薬とせん妄の治療薬	青葉薬薬連携セミナー	2020/2/12
今関　尊司	緩和領域の薬剤の適正使用	青葉薬薬連携セミナー	2020/2/12

（１０）主催講習会

名称	日時	場所	備考
青葉病薬連携セミナー	2020/2/12	ホールあおば	後援：千葉県病院薬剤師会

（１１）実習等受入

日時	目的・理由	人数	備考
2019/5/27-8/11	薬学生実務実習	2 名	東邦大学、城西国際大学
2019/8/26-11/10	薬学生実務実習	3 名	東邦大学、城西国際大学、帝京平成大学
2019/11/25-2020/2/16	薬学生実務実習	4 名	東邦大学、城西国際大学

【総括】

① 2020 年 2 月より COVID-19 感染症患者の積極的な受入に伴い、必要薬剤の確保に努めました。

② DMAT 薬剤師が台風１９号、豪華客船 COVID-19 対応で出動しました。

③ 2020 年 3 月 13 日より院外処方箋に検査値を記載しました。これにより調剤薬局では禁忌症例、適正用量、必要な検査の有無などの確認、有害事象の未然防止・早期発見が可能となり、更なる医薬品の適正使用が期待できます。

④ 治験実施件数は 11 件と前年より 5 件増加しました。

⑤ 後発医薬品の積極的な採用に努め、後発医薬品率は、87%以上を維持しました。

⑥ 注射箋調剤枚数は外来・入院合わせて前年より約 5500 枚増、がん化学療法調製件数は平日：6640 件/年（1573 件増）、祝休日：1010 件/年（283 件増）、TDM 解析 202 件/年（50 件増）と増加しました。

５．看護部報告

看護部

1. 概要

1）理念と目標

【理念】

患者さんがその人らしく生きることを支援します。

【基本方針】

(1)患者さんの尊厳を尊重し、個別性のある看護を提供します。

(2)安全で安楽な看護を目指します。

(3)多職種と協働し、チーム医療の向上に務めます。

(4)社会のニーズに応え、地域との連携を深めて、継続的な看護を提供します。

(5)実践や自己研鑽を通して専門的な知識・技術を向上し、感性や価値観を磨き、自律した看護師を目指します。

【令和元年度目標】

(1)身体的・精神的・社会的・スピリチュアル的側面からアセスメントを行い、患者さんの意思決定を支援して、その人に合った看護を提供します。

(2)各自が看護師としての価値観を明らかにして、主観的キャリア形成ができるよう支援します。

(3)看護師が元気でいきいきと明るく働くことができるように、業務環境の改善に取り組みます。

2）人員構成

看護部長：1 名　　副看護部長：4 名　　看護師長：15 名　　主任看護師：28 名

常勤看護職：359 名（正看 346 名、助産師 13 名）　　常勤介護福祉士：7 名

会計年度看護職：21 名（正看 18 名、助産師 2 名、准看 1 名）

会計年度その他：25 名（介護福祉士 3 名、看護補助 13 名、看護クラーク 8 名、事務 2 名、）

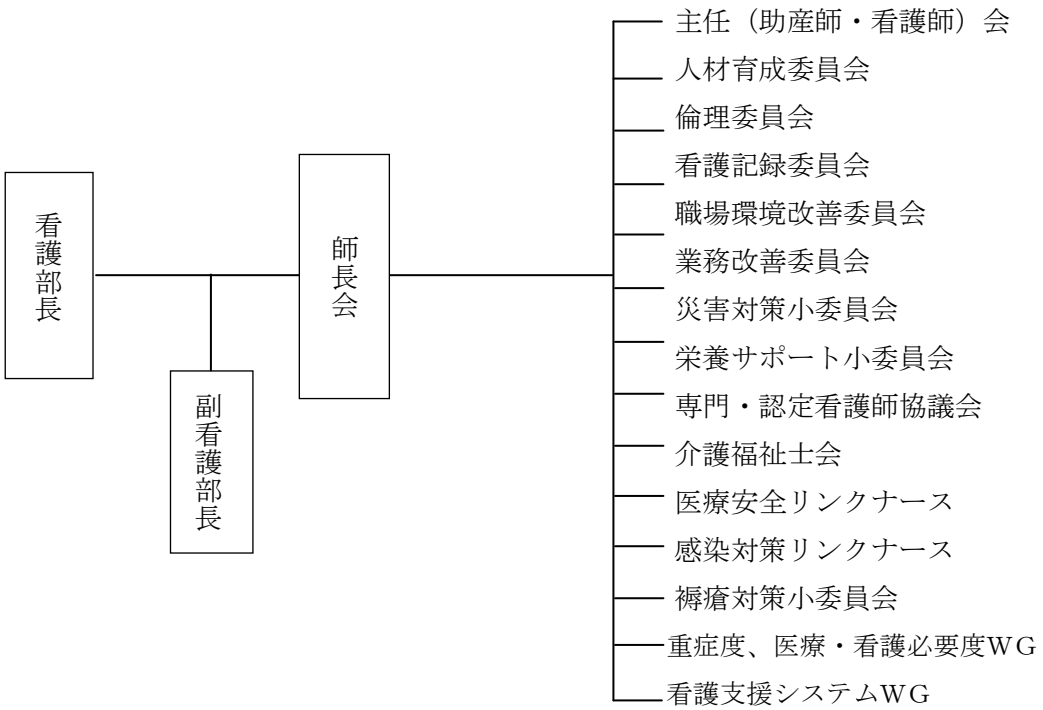
3）年齢構成

	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50 歳以上	全体平均年齢
2019 年度	103 名 (27.8%)	86 名 (23.2%)	126 名 (34%)	55 名 14.8%	38.1 歳

4）離職率

2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
5.9%	7.5%	7.4%	8%

5）委員会組織



6）看護体制

(1) 看護基準

一般病棟	7：1	看護体制
児童精神病棟	10：1	看護体制
成人精神病棟	13：1	看護体制
ＩＣＵ	2：1	看護体制
ＨＣＵ	4：1	看護体制

(2)看護方式

固定チームナーシング継続受け持ち制（一部で機能別看護）

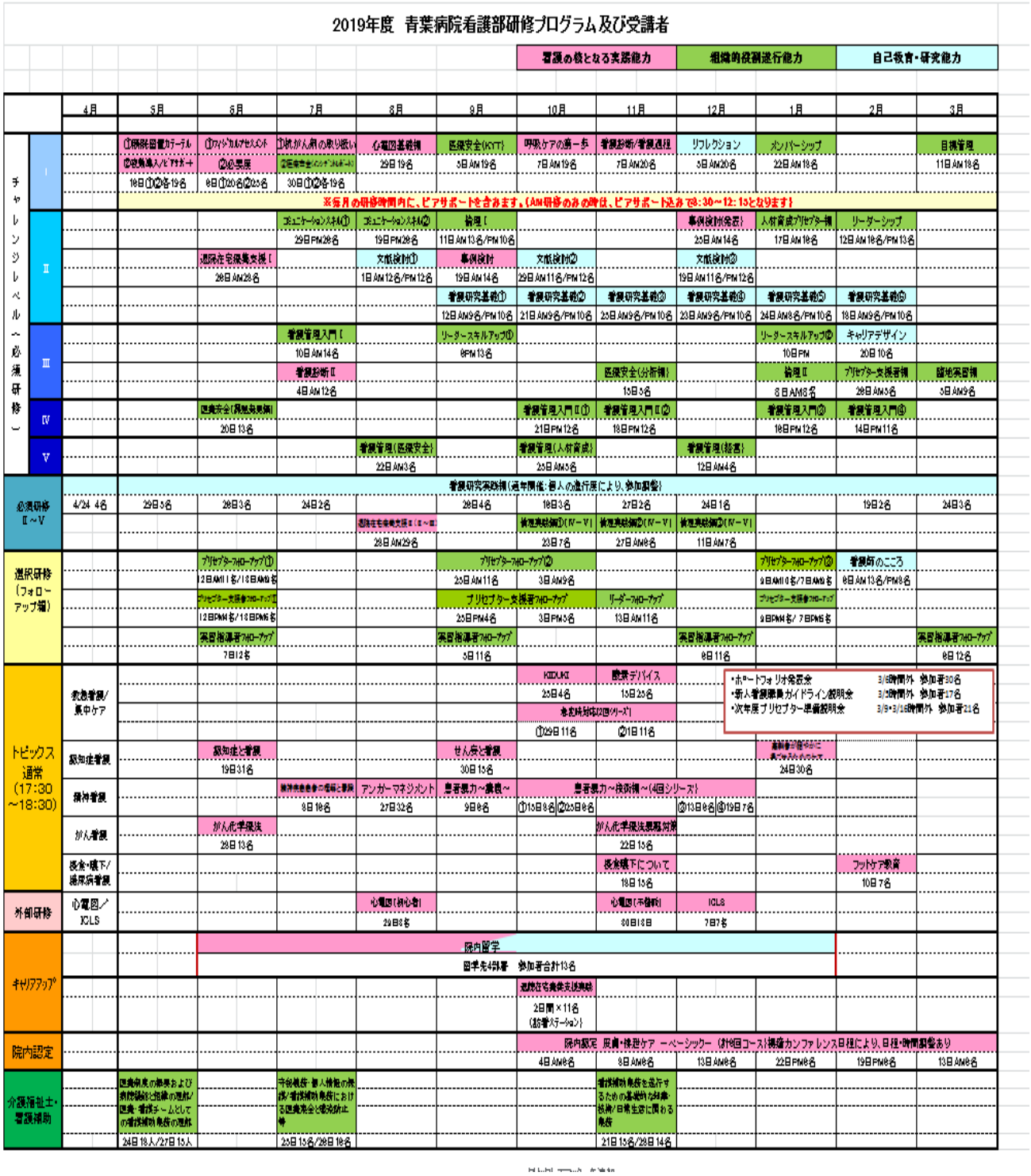
(3)看護記録

ＮＡＮＤＡの１３領域で情報収集し看護診断を確定する。

診断ごとにＳＯＡＰ方式で記録する

2. 継続教育

1）院内研修



2）院外研修

研修名	主催	人数
フレッシュセミナー	千葉県看護協会	20 名
ヘルシーワークプレイスについて学ぶ	〃	1 名
看護補助者の活用推進のための看護管理者研修	〃	2 名
共に考えよう、2 年目としてやりがいのある働き方	〃	21 名
診る！聴く！育てる！後輩指導	〃	1 名

みる！きく！つなぐ！スキルを学ぼう	〃	4名
災害支援ナースの第一歩	〃	1名
看護管理者研修	〃	3名
リーダーシップ研修	〃	3名
医療から在宅へのバトンタッチ	〃	3名
セカンドレベル報告会	〃	2名
看護管理者研修の振り返り	〃	3名
多職種連携による入院支援	〃	3名
がん患者のセルフケア	〃	1名
食べたいをかなえる経口摂取ケアのポイント	〃	1名
最新の褥瘡と予防とケア	〃	1名
医療安全基礎	〃	5名
その人らしく生きることを支えるスピリチュアルケア	〃	2名
その人らしい生き方を支える意思決定への支援	〃	2名
感染が危ない	〃	2名
スキンテア研修	〃	1名
プレゼンテーションスキルを磨こう	〃	4名
人を育てる臨地実習	〃	5名
災害ナースの第1歩	〃	2名
エンドオブライフケア	〃	1名
呼吸器疾患の急変予防のアセスメント力を高めよう	〃	3名
AHA 心肺蘇生トレーニング BLS コース	〃	1名
増加する在日・訪日外国人への医療提供体制	日本看護協会	1名
ＪＮＡラダー交流会	〃	2名
ＨＣＴＣ認定講習Ⅰ	日本造血細胞移植学会	2名
同種造血細胞移植後フォローアップのための看護師研修	〃	1名
診療報酬研修会	児童青年精神学会	1名
医療施設協議会	〃	2名
AHA 心肺蘇生トレーニング BLS コース	習志野病院	1名
重症度、医療・看護必要度評価者養成研修会	S-QUE	5名
臨地実習研修会	全国自治体病院	1名
看護における機能連携	病理管理研究会	2名
ちば医経塾	千葉大学	1名
実習指導者講習会	千葉県	2名
認定看護管理者教育課程ファーストレベル	千葉県看護協会	1名
認定看護管理者教育課程セカンドレベル	千葉県看護協会	2名
認定看護管理者教育課程サードレベル	独立行政法人地域医療機能推進機構	1名
感染管理認定看護師教育課程		1名

3）専門認定看護師

精神看護専門看護師	2 名	糖尿病看護認定看護師	1 名
救急看護認定看護師	2 名	がん化学療法認定看護師	2 名
感染管理認定看護師	1 名	皮膚・排泄ケア認定看護師	1 名
認知症看護認定看護師	2 名	摂食嚥下認定看護師	1 名
集中ケア認定看護師	2 名	慢性心不全認定看護師	1 名

4）学会発表

病棟	氏名	発表日	テーマ	学会名
救急外来	藤田智子	2019年10月	内視鏡看護クリニカルラダー導入前後の看護師の業務に対する自己効力感	消化器内視鏡技師学会
手術室	内山恵子	2019年10月	A病院における手術室オカレンスチェックシートの活用状況と理解度の実態調査	自治体病院学会
救急外来	山崎朋子	2019年6月	救急外来トリアージにq-SOFAスコアを導入した効果について	日本臨床救急医学会学術集会
救急外来	野中美奈子	2019年10月	救急外来に導入した10分間学習会に対する自己評価の検討	救急看護学会
救急外来	齋藤久里子	2019年10月	心臓カテーテル室における多職種合同の急変時シュミレーショントレーニングの取り組み	自治体病院学会
ICU/HCU	山澤由美	2019年10月	A病院HCU病棟におけるせん妄予防に対する取組みについて	日本救急看護学術集会
手術室	吉川聡美	2019年10月	人工膝関節置換術における単回使用手術器械の導入による作業時間短縮化の検証	日本手術室看護学会
BCC	渡邉恵美子	2019年10月	入退院センターにおける術前患者の服薬指導に関する業務改善	自治体病院学会
BCC	渡邉恵美子	2019年11月	せん妄の予防ケア・早期介入に向けた患者情報共有システムの構築	日本看護学会
児童精神科	竹下明子	2020年2月	感情表出することが困難な思春期患者への感情の言語化を促すかかわり	全国児童青年精神科医療施設研修会

3. 受入・就職活動

1）実習受入

千葉市青葉看護専門学校
千葉県幕張総合高等学校看護科
淑徳大学看護栄養学部、総合福祉学部
城西国際大学看護学部
国際医療福祉大学成田看護学部
東京情報大学看護学部
帝京平成大学ヒューマンケア学部
福岡看護専門学校通信制

2）その他の受入

職場体験学習　中学校	5 校
インターンシップ　高等学校	1 校

千葉県看護協会　ふれあい看護	4 名
千葉大 IPE ステップ 1、ステップ 2	

3）就職説明会、見学会、インターンシップ

企業主催就職説明会	7 企業参加
学校主催就職説明会	幕張総合高等学校、東京情報大学、帝京平成大学、青葉看護専門学校、淑徳大学、了徳寺大学
サマーインターンシップ	12 名参加
海浜病院合同見学会	

６．事務部門報告

医療安全室

1　スタッフ（医療安全室）

室　長：安藤　克彦（兼務）
副室長：金子　篤子（医療安全管理者、専従）
職員　：横田　朗（医療機器安全管理責任者、診療局長兼務）
安見　誠　（医薬品安全管理責任者、薬剤部長兼務）
鈴木　繁明（事務長補佐）
飯田　京子（医療安全室師長）
今井　千恵子
河野　紀子
会計年度任用職員：長谷川　律子

2　業務

（1）医療安全管理に関する検討および推進

・事例検討会７回/年（うち外部委員含む検討会 3 回）開催
・臨床倫理委員会　5 回／年
・院内巡視：救急カート点検実施状況、医療安全部署カンファレンス参加
・患者フルネーム状況確認

（2）医療安全管理に関する情報収集・分析・評価

・医療安全マニュアル改訂
・外来採血の有害事象時の対応フロー
・救急カート点検表（4 回）
・口頭指示について
・OEN ポスター：夜間/休日コール場所変更
・アナフィラキシー発症時の対応
・転倒･転落発生時の対応
・患者家族からの暴力対応マニュアル
・医療安全指針
・入院患者の「持参薬」の取り扱い
・医療安全ニュース（ＡＮ-ＺＥＮ）　12 号/年発行、臨時発行２回
・医療安全管理に関する教育研修
・医療安全管理委員会の運営　12 回/年開催
・医療安全カンファレンス運営　12 回/年開催
・医療安全情報配信（日本医療機能評価機構）

（3）患者相談

・患者家族からの医療に関する苦情および相談
・苦情・相談内容に関する検討
・相談窓口カンファレンス　24 回/年開催

3　教育・研修

（1）院内教育･研修

ア　医療安全教育

・新採用者オリエンテーション（4 月）

・医療安全ラダーⅠ（インシデントレポート）（７月）

・看護補助者医療安全研修（７月）

・看護管理者研修（１月）

イ　医療安全研修会

・第 1 回「災害時における診療業務の継続」(5 月)

DVD フォローアップ６回、インターネット環境フォローアップ

参加人数：655 名　　参加率：91.7%

・第 2 回「医療対話推進」(10 月)

DVD フォローアップ８回、インターネット環境フォローアップ

参加人数：640 名　　参加率 89.5%

ウ　協力研修

・身体抑制について（5 月）

・身体抑制と心理ケア(11 月)

・MET 報告会（2 月）

・SMT 報告会（3 月）

（2）院外教育・研修

・千葉県立幕張総合高等学校専攻科 1 年「看護の統合と実践　医療安全」

4　統計

（1）医療安全

医療安全報告総数　2,888 件（オカレンスレポート含）（平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日）

月別報告件数（インシデントレポート）

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
200	244	286	249	289	227	262	235	242	214	208	197

月別報告件数（オカレンスレポート）

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
4	3	3	3	3	2	4	5	1	4	1	2

影響レベル別件数（インシデントレポートのみ）

	レベル 0	レベル 1	レベル 2	レベル 3a	レベル 3b	レベル 4a	レベル 4b	レベル 5
報告数	440	1901	396	91	24	0	0	1
割合	15.4%	66.7%	13.88%	3.18%	0.8%	0.04%		
	99%				1%			

事象内容別件数

	薬剤	輸血	治療処置	医療機器	ﾄﾞﾚｰﾝﾁｭｰﾌﾞ	検査	療養（含転倒）	その他
報告数	712	29	196	77	518	427	652	242
割合	25%	１%	6.8%	2.7%	18.1%	15%	22.9%	8.5%

（２）患者相談

総合案内業務件数

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談苦情	5	7	8	9	5	10	4	3	4	6	7	5	136
新患案内	247	278	313	392	309	349	341	331	327	305	286	262	3740
再来案内	225	195	204	215	253	253	242	219	238	197	171	182	2594
再来機操作	366	343	327	307	309	307	396	341	301	353	349	308	4007
受診相談	193	205	202	240	225	204	312	230	213	211	208	194	2641
移乗等	144	126	142	156	119	117	141	163	165	132	134	97	1636
各種案内	850	992	1168	1229	1054	1258	1630	1305	1345	1277	1215	1059	14382
合計	2035	2146	2364	2548	2274	2498	3066	2592	2593	2481	2370	2107	29136

＊ 相談苦情業務は、電話での対応も含む

相談対応詳細

医療に関する事	医療費に関する事	受診に関する事	要望に関すること
37件	5件	32件	5件
47%	6%	41%	6%

感染対策室

感染対策室は医療関連感染（院内感染）の低減を目的とし、2018 年に設置された。患者の治療・療養における感染対策の推進と職員の職業感染防止を担っている。

1.　スタッフ

１）感染対策室

室　　長：岡野　達弥（副院長　兼務）
副 室 長：瀧口　恭男（呼吸器内科統括部長　兼務）
看 護 師：鈴木　美保（専従）
検査技師：秋葉　容子（臨床検査科　兼務）
薬 剤 師：森永　正樹（薬剤部　兼務）

２）Infection Control Team

医　師　　：瀧口　恭男（Infection Control Doctor）
医　師　　：大嶋　寛子（Infection Control Doctor）
医　師　　：梶原　秀喜（Infection Control Doctor）
看護師　　：鈴木　美保（Certified Nurse in Infection Control）
看護師　　：小澤　晶子
検査技師　：梶原　裕貴
薬剤師　　：志村　章

２．業務

１）院内感染管理に関する検討および推進
- 各部署からのコンサルテーション対応

２）院内感染管理に関する情報収集・分析・評価
- ＩＣＴ（Infection Control Team）院内ラウンド　１回/週
- 院内感染症発生時の対応
- 院内感染症・微生物・医療関連感染の監視
  - 薬剤耐性菌サーベイランス
  - 特定抗菌薬使用に関するサーベイランス
  - 血液培養陽性サーベイランス
  - 人工呼吸器関連イベント（VAE）サーベイランス（ICU）
  - 膀胱留置カテーテル関連尿路感染サーベイランス（ICU、5 階東病棟）
  - 中心静脈カテーテル関連血流感染サーベイランス（ICU、5 階西病棟）

３）職業感染対策
- ウイルス性疾患の抗体価検査
- 血液、体液暴露事故対応
- 予防接種業務
  （インフルエンザ・Ｂ型肝炎・ムンプス・麻疹・ＭＲ・水痘ワクチン）
- 結核接触者検診

4）感染対策マニュアル改訂

5）院内感染管理に関する教育研修

・全 18 回　延べ 1,251 名参加

6）感染対策委員会の運営　12 回/年

7）感染防止対策加算

（1）連携加算 2 施設：千葉南病院　柏戸病院

・第 1 回カンファレンス：5 月 29 日（会場：青葉病院）

・第 2 回カンファレンス：7 月 31 日（会場：千葉南病院）

・第 3 回カンファレンス：11 月 13 日（会場：柏戸病院）

・第 4 回カンファレンス：1 月 29 日（会場：青葉病院）

（2）地域連携加算　連携施設と相互評価日

・青葉病院（相互評価日：10 月 30 日）

・千葉県循環器病センター（相互評価日：10 月 9 日）

・千葉メディカルセンター（相互評価日：7 月 5 日）

・千葉中央メディカルセンター（相互評価日：12 月 19 日）

3．教育・研修実績

1）院内教育・研修

日時	研修会名	講師	対象
平成 31 年 4 月 3 日	新人オリエンテーション	鈴木　美保	新入職者
令和元年 6 月 20 日	第 1 回　感染対策研修会 ICT ラウンドの重要性	鈴木　美保	全体
令和元年 6 月 27 日	第 1 回 抗菌薬適正使用に関する研修会	瀧口　恭男	医師　看護師 検査技師 薬剤師
令和元年 7 月 25･26 日	看護部補助者研修会	鈴木　美保	介護福祉士 看護補助者
令和元年 10 月 2 日	第 2 回 抗菌薬適正使用に関する研修会	森永　正樹	医師　看護師 検査技師 薬剤師
令和元年 11 月 21 日	手洗いレクチャー	鈴木　美保	児童精神科 児童
令和年 11 月 28 日	第 2 回　感染対策研修会 インフルエンザについて	梶原　秀喜	全体

2）学会発表・座長参加・院外教育・研修

日時	学会・研修会名	座長・演者	場所
平成31年4月18日	柏戸病院　感染対策研修会	鈴木　美保	柏戸病院
令和元年6月10日	Saizen研究会 ベストプラクティス　千葉部会	鈴木　美保	山崎製パン企業年金基金会館
令和元年8月31日	第1回感染制御ソシアルネットワークフォーラム インダストリアル・レクチャー 「クロルヘキシジン含浸タオルによる全身清拭の導入から方法、その臨床効果」	鈴木　美保	仙台国際センター
令和元年9月24日	千葉県食中毒・感染症対策研修会	鈴木　美保	千葉市民会館
令和元年10月2日	千葉市感染症講習会	鈴木　美保	保健センター
令和元年10月3日	千葉県老人健康福祉協会 感染対策研修会	鈴木　美保	ﾎﾃﾙﾎﾟｰﾄﾌﾟﾗｻﾞちば
令和元年10月18日	柏戸病院　感染対策研修会	鈴木　美保	柏戸病院
令和元年12月7日	杏林製薬株式会社　主催 「感染対策教室 in　CHIBA」	座長 鈴木　美保	三井ガーデンホテル千葉
令和2年1月14日	千葉市消防学校　救急課程 「感染症予防」	鈴木　美保	千葉市 消防学校
令和2年2月6日	テルモ（株）社内講演会 「院内におけるICNの日常的活動について」	鈴木　美保	テルモ東関東支店　会議室
令和2年2月8日	Saizen研究会 ベストプラクティス　千葉部会	鈴木　美保	山崎製パン企業年金基金会館
令和2年3月5日	南総食肉研究所　研修会 「災害と感染対策について」	鈴木　美保	千葉県調整合同庁舎4階大会議場

3）執筆

書籍・雑誌名	執筆者
INFECTION CONTROL　2019年9月号　メディカ出版 「ラウンドと研修で使える！ダウンロードデータつき　こんなにある！感染対策のアウトなケース　28」	鈴木　美保

4．統計

1）５階東病棟膀胱留置カテーテル関連尿路感染（CR－UTI）サーベイランス

4～12月	述べ入院患者数	延べカテ使用者数	感染件数	使用比	感染率
4～6月	3374	634	0	0.2	0
7～9月	3521	701	0	0.2	0
10～12月	3472	546	0	0.16	0
年間	10367	1881	0	0.18	0

2）５階西病棟中心静脈カテーテル関連血流感染（CLABSI）サーベイランス

4～12月	延べ入院患者数	延べCV	感染件数	使用比	感染率
4～6月	3079	794	0.0	0.3	0
7～9月	3161	731	2.0	0.2	2.7
10～12月	3193	814	0.0	0.3	0
年間	9433	2339	2.0	0.25	0.8

3）ICU サーベイランス　2019.4 月～12 月

（1）CR-UTI

延べ入院患者数	延べ使用数	使用比	感染率(1000Patients days)
637	617	0.97	0
		JANIS	0.6

（2）CLABSI　2019.4 月～12 月

延べ入院患者数	延べ使用数	使用比	感染率(1000Patients days)
637	345	0.5	0
		JANIS	0.6

（3）人工呼吸器関連イベント（VAE）サーベイランス　2019.4 月～12 月

延べ入室患者数	述べ使用数	使用人数	使用比	VAC	IVAC
637	250	23	0.4	0	0
				発生率	発生率
				0	0

地域連携室

（ア）基本方針

患者の療養生活を支援するために、地域の保健・医療・福祉の関係機関と連携を取るための窓口として機能する。

（イ）スタッフ

看護師・社会福祉士・事務

（ウ）業務内容

① 相談業務

1. 各種相談について（相談内容）
   - ・転院先病院・施設の情報提供
   - ・在宅療養の調整
   - ・福祉制度の利用（介護保険・身体障害者手帳など）の相談
   - ・医療費等の相談
   - ・診療報酬算定(「退院支援」に伴うもの)
2. ② 地域連携パスについて
   - ・脳卒中地域連携パスについて
   - ・大腿骨地域連携パスについて
3. ③ 女性専用外来予約窓口について
   - ・女性専用外来予約希望者の対応
   - ・女性専用外来予約の調整
4. ④ 在宅医療支援病床について
   - ・登録者の管理
   - ・病床利用時の調整と退院支援
5. ⑤ 医療と介護の連携
   - ・交流会の開催

② 病診・病病連携業務

6. 紹介状・返書等の管理
7. 外来受診・検査の予約
8. 連携病院・診療所への訪問
9. 登録医の会の管理
10. 公開カンファレンスの開催

③ その他

11. ホームページ、広報紙「あおば」のコーナー原稿の作成
12. 院内ニュースの作成、広報

（エ）令和元年度業務実績

ア　地域医療支援病院紹介率・逆紹介率

<table>
<tr><td colspan="2">地域医療支援病院紹介率</td><td>77.0%</td><td rowspan="2">算定期間</td><td rowspan="2">平成 31 年 4 月 1 日～
令和 2 年 3 月 31 日</td></tr>
<tr><td colspan="2">地域医療支援病院逆紹介率</td><td>87.2%</td></tr>
<tr><td rowspan="3">算出根拠</td><td colspan="2">紹介患者数</td><td colspan="2">9,918 人</td></tr>
<tr><td colspan="2">初診患者数</td><td colspan="2">17,410 人</td></tr>
<tr><td colspan="2">逆紹介患者数</td><td colspan="2">11,231 人</td></tr>
</table>

イ　救急医療の提供実績

救急用又は患者輸送自動車により搬入した救急患者の数	4,528 人　（　2,052 人　）
上記以外の救急患者の数	1,904 人　（　842 人　）
合計	6,432 人　（　2,894 人　）

（　　）は、それぞれの患者のうち入院を要した患者数

ウ　共同利用の実績

・病床利用　　0 件

・共同利用できる高額医療機器及び設備等　CT/MR/骨密度測定器　261 件

・ホールあおばの貸出　1 回（1/15 千葉寺地区多職種連携会議）

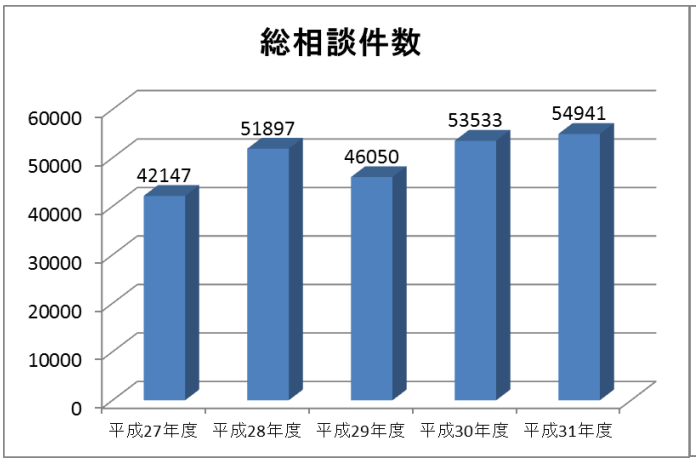
エ　地域医療従事者等に対する研修開催実績

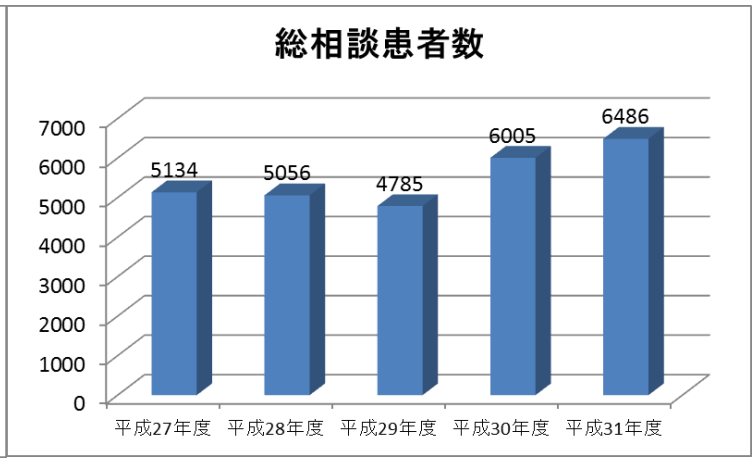
日　時	研修名	講師・演者等	参加者数
平成 31 年 4 月～ 令和 1 年 9 月	在宅医療コーディネーター研修会 （ケアマネージャー対象）	（第 1～第 6 回　4 月から 9 月まで計 6 回）	132 人（院外 128 人）
令和元年 8 月 28 日（水） 19：30～	第 12 回千葉市医療連携カンファレンス		43 人（院外 18 人）
令和元年 9 月 5 日（金） 18：00～	救急医療懇話会	講師:循環器内科部長　石尾直樹	73 人（院外 73 人）
令和元年 11 月 8 日（金） 18：00～	在宅医療コーディネーター研修会フォローアップ研修会		32 人（院外 30 人）
令和元年 11 月 14 日（金） 18：45～	退院・在宅支援事例検討会	講師：在宅ケア移行支援研究所宇都宮宏子オフィス代表　宇都宮宏子　先生	67 人（院外 40 人）
令和元年 12 月 4 日（金） 19：15～	第５回　在宅医療連携カンファレンス	「点滴のみでの在宅での看取りを希望された患者の退院･在宅療養支援について」 ふたば訪問クリニック　山﨑恵一先生 みやこ訪問看護ステーション佐藤彩美先生	76 人（院外 56 人）
令和 2 年 2 月 12 日（木） 19：15～	青葉病薬連携セミナー		99 人（院外 80 人）

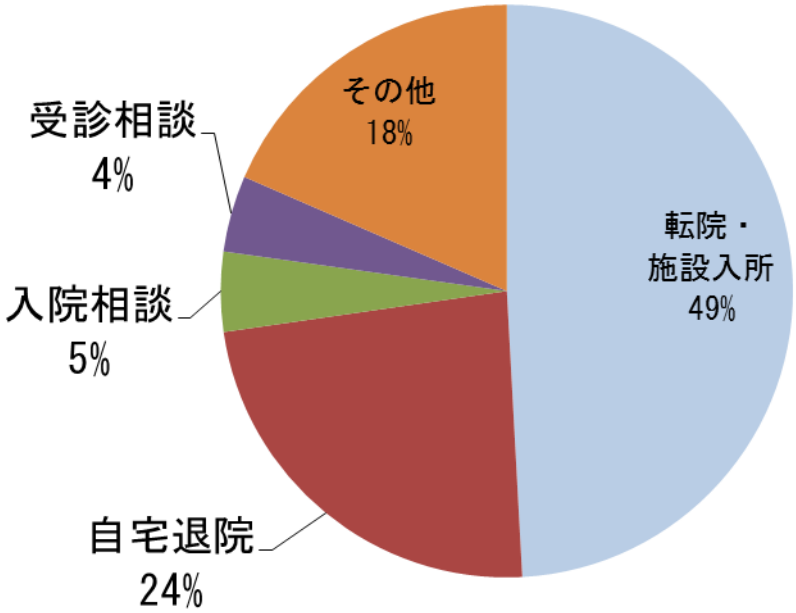
オ　患者相談の実績（平成 31 年 4～令和 2 年 3 月）

社会福祉士 4 名　看護師 3 名　が担当

入院患者	外来患者	その他	合計
2, 058 人	545 人	3, 883 人	6, 486 人







相談内容の「転院・施設入所」が約 50%、「自宅退院」が 25%となっている。

「その他」の内容は、問い合わせ（受診方法や書類に関するものなど）が多い。

カ．　その他の地域医療支援病院に求められる取り組みについて

①病院の機能に関する第三者による評価

平成 27 年度受審申し込み、平成 28 年 7 月 28・29 日　病院機能評価機構受審し、平成 29 年 1 月末に認定すみ。認定期中の改善報告を平成 30 年 9 月に提出した。

②果たしている役割に関する情報発信

◆広報誌「あおば」6 月と 12 月発行

◆広報紙「もえぎ」22 回発行

◆平成 31 年度「診療科案内」を改訂し診療所訪問時にお渡した。

◆令和 2 年 4 月 15 日に病院ホームページをリニューアルした。6 月発行の広報誌「あおば」をリニューアル予定。

③退院調整部門

平成 31 年度は、社会福祉士 4 名　看護師 3 名　合計 7 名が担当した。

平成 30 年４月より「退院支援加算１」に加え入院センターを開設し「入院時支援加算」と算定を開始した。

④登録医の会

令和元年 11 月 27 日オークラ千葉ホテルにおいて登録医の会を開催した。（院外 36 名参加）

地域連携に関する診療報酬算定状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
退院支援加算１（一般病棟）	172	164	162	173	166	181	178	175	182	160	172	169	2054
入院時支援加算	22	6	16	21	12	8	10	14	14	4	5	7	139
介護支援連携指導料	49	34	37	41	37	52	35	26	32	18	31	15	407
地域連携診療計画加算（地域連携パス）	4	4	6	7	5	1	3	8	8	5	8	9	68
退院時共同指導料２	3	3	3	5	1	1	2	0	2	0	2	0	22
多機関共同指導加算	3	2	2	4	1	1	1	0	2	0	2	0	18
退院前訪問指導料	4	2	0	2	3	5	6	7	3	2	1	0	35
退院後訪問指導料	0	1	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	5
在宅患者緊急入院診療加算（連携医療機関以外）	7	3	6	2	11	4	6	6	3	5	1	4	58
在宅患者緊急入院診療加算（連携医療機関の非登録患者）	0	0	4	1	2	4	0	0	1	1	4	0	17
在宅患者緊急入院診療加算（登録患者）	1	0	1	0	2	2	2	0	1	0	0	0	9

地域連携を促進するための取り組み（地域連携パス）

大腿骨頚部骨折地域連携パス	62 件
脳卒中地域連携パス	16 件

診療録管理室

（ア） 概要

診療録管理室では、一元的に管理された診療記録に基づき、国際疾病分類（ICD-10）を用いて適切にコーディングを行い、データ管理をしている。

管理された診療記録は日常的に監査を行い、正確且つ安全な保管管理に努め、必要に応じて様々な形で提供をしている。

すべてのもとである診療記録の正確性は不可欠であり、そのために量的はもとより質的な精査と監査、検証の精度を上げていかなければならない。

医療の質・経営の質の向上の一助となるべく、高精度なデータの蓄積と活用に努めている。

（イ） 体制

診療情報管理士　５名（常勤）

（ウ） 業務

1. 診療記録の点検、監査、管理

記載内容や添付書類が適切かどうかを確認する業務。

診療記録の不備統計や退院時要約（サマリー）の完成率統計などを作成している。

2. ＤＰＣの点検、監査

ＤＰＣは「Diagnosis　Procedure　Combination」の略称であり、「診断群分類」を意味する。

当院は「ＤＰＣ」に基づいた支払い制度を導入した病院であり、診療録管理室において、「ＤＰＣ」の点検、監査を行っている。

診療情報管理士が、入院時より診療記録の監査を行い、診療内容に適した病名「国際疾病分類（ICD-10)」の付与を提案している。

「適切なコーディングに関する委員会（年６回開催)」を通して検証を行っている。また、データ化された「ＤＰＣ」情報はＤＰＣ病院の義務として厚生労働省へ提出している。

3. 病院情報の公表

ＤＰＣデータから全国統一の定義と形式に基づいた指標を作成し、情報公開を行っている。

当院がどのような医療を提供しているのか、多くの方に知っていただくよう病院ホームペ

ージへ掲載している。（毎年 10 月 1 日更新）

4. がん登録

国が推進している「がん患者さんの登録事業」に協力するため、がん病名や治療内容をデータとして提供している。

外部研修等へ積極的に参加し、精度の高いがん登録に努めている。

5. 診療記録情報の提供（カルテの開示等）

「診療情報の提供等に関する指針」（H15. 9. 12 付厚生労働省医政局長通知）に基づき、患者さん等の求めに応じて当院が保有する診療記録を提供している。

増加傾向にある申請に対して、個人情報の取扱いに留意し対応している。

6. 疾病統計や各種統計の作成

管理された診療情報からデータベースを構築・分析し、必要な統計資料を作成している。

情報管理室

（ア）　概要

青葉病院情報システムは、医療のあるべき姿を見据えて、高品質の医療サービスの提供、チーム医療の推進、病院経営の効率化などを実現することを目的とし、その役割を最大限発揮できるよう、システム運用管理、ヘルプデスクによる問合せ対応、障害対応などの業務を行っている。

また、情報セキュリティ対策への取組みとして、厚生労働省が定める「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」や、千葉市の情報セキュリティポリシーである「千葉市情報セキュリティ対策基本方針」及び「千葉市情報セキュリティ対策基準」等の諸規程に則り、不正アクセス対策やコンピューターウイルス対策などを推進し、新規採用職員には情報セキュリティ研修も行っている。

（イ）　運用体制

情報管理室担当職員１名及び委託業者の常駐要員３名（原則）

（ウ）　主な業務

ア　システム運用管理

病院情報システム全体の運用管理、各種マスタの設定管理を行う。

ハードウエア・ソフトウェア・ネットワークの運用状態を監視する。

イ　問合せ対応

ヘルプデスクを設置し、病院情報システムに関する院内利用者からの問合せに対応する。

ウ　データ入出力管理

外部からのデータ持込みや持出し（主に患者の画像情報など）について、磁気媒体のウイルスチェックとサーバへのアップロード作業等を行う。

エ　統計・抽出処理

診療情報データベースや会計情報データベースから必要な情報を抽出し、経営指標とするための診療統計、医事統計等、各種統計データの作成を行う。

診療報酬請求のためのデータの作成・チェックを行う。

オ　障害対応

システム障害発生時の問合せ対応、障害時運用マニュアルに基づく対応作業、システムベンダーとの連絡調整、再発防止に向けた取り組み等を実施する。

カ　利用者情報の管理

病院情報システム利用者情報の追加・変更・削除を行う。

＜業務実績統計＞

ヘルプデスク問合せ受付件数

区 分 名	29 年度	30 年度	31 年度
依頼	3,966	4,557	4,521
画像取込（CD 等）	3,073	3,375	3,699
ファイル操作関連（デジカメ、USB、FD 等）	3,060	2,747	2,720
書類、マスタの設定関連	342	213	46
抽出関連	273	310	270
ハードウェア障害	109	128	311
ソフトウェア障害	85	87	192
その他	79	36	47
合計	10,987	11,453	11,806

事務局

（ア）スタッフ

事務局に 2 班（総務班・管理班）、医事室が配置されている。

（イ）業務

①総務班

・職員の採用・退職及び職員配置計画に関すること
・運営調整会議に関すること
・院内保育所の運営に関すること
・患者給食業務委託契約に関すること
・医療監視に係る各種資料の作成に関すること
・精神病院実地指導に関すること
・旅費交通費に関すること
・研究雑費、消耗品（追録、図書）、講師派遣に関すること
・年休・特別休暇、時間外勤務集計等に関すること
・調整数報告、通勤・住居届出等に関すること
・診療局・看護部・薬剤部・課の庶務に関すること
・選挙事務（指定病院不在者投票）に関すること
・報償費、食糧費、交際費、諸会費及び図書費に関すること
・文書整理簿、郵便物等、公衆電話に関すること
・企業財産の目的外使用に関すること
・実習生受入に関すること
・社会保険事務局への定例報告に関すること
・賃金、法定福利費（非常勤職員）に関すること
・源泉徴収・年末調整業務に関すること
・公用車に関すること
・職員健康診断、当直表作成、職員配置表作成に関すること
・公務災害認定請求、受託研究（謝金支払）に関すること
・社会保険及び雇用保険の加入、脱退に関すること
・衛生委員会に関すること
・看護職員宿舎の入退去管理に関すること
・卒後臨床研修医の受入に関すること
・駐車場料金徴収に関すること
・他の班との調整

②管理班（調達）

・薬品（一般薬・血液・検査試薬等）の購入に関すること
・診療材料の購入に関すること
・医療消耗備品の購入に関すること
・職員被服、消耗品、消耗備品、燃料、印刷物の購入に関すること
・修繕（医療機器等備品・医療消耗備品・消耗備品）に関すること
・賃借（在宅酸素・医療機器等）に関すること
・委託（購買物品管理業務・再生滅菌物管理業務・医療機器管理業務・ベッドリネン管理業務・医療機器の保守及び点検業務等）に関すること
・器械備品の購入及び除却に関すること
・たな卸し（薬品・診療材料・消耗品・印刷物）に関すること
・更衣ロッカーの管理に関すること
・診療材料・物流管理委員会に関すること
・医療機器安全管理運営委員会に関すること

③管理班（設備管理）

・電気（受変電・強電・太陽光発電）設備の維持管理に関すること
・昇降機（エレベータ・エスカレータ他）の維持管理に関すること
・消防設備の維持管理に関すること
・ナースコール設備の維持管理に関すること
・気送管設備の維持管理に関すること
・非常用電源（発電機・無停電電源装置）設備の維持管理に関すること
・院内放送設備、電話設備、携帯電話及びＰＨＳの維持管理に関すること
・建物（院内保育所棟含む）の維持管理に関すること
・給排水設備及びガス設備の維持管理に関すること
・ボイラ及び圧力容器設備の維持管理に関すること
・空調設備の維持管理に関すること
・医療用ガス設備の維持管理に関すること
・廃棄物（一般廃棄物、医療感染性廃棄物、産業廃棄物等）の処理に関すること
・警備及び防犯に関すること
・環境衛生（清掃・植栽管理）に関すること
・駐車場設備の維持管理に関すること
・光熱水費及び下水道料金の管理に関すること
・公衆電話の管理に関すること
・目的外使用・貸付等許可に関すること
・防火防災管理委員会に関すること
・医療ガス安全管理委員会に関すること

④医事室

・施設基準の届出に関すること
・診療報酬の改正に関すること
・支払い基金、国保連合会との連絡調整
・診療報酬(レセプト)の請求、及び再審査請求に関すること
・レセプトの返戻及び査定に関すること
・労務災害・公務災害・自賠責の診療費請求事務に関すること
・検(健)診関係の請求に関すること
・障害者自立支援法医師意見書等の請求に関すること
・生活保護法に関する請求に関すること
・精神科入退院等患者月報に関すること
・産科医療保障制度に関すること
・薬害肝炎(C型肝炎)の問い合わせに関すること
・諸法関係の請求事務に関すること
・生活保護患者に関すること
・精神保健法第 32 条に関すること
・助産施設に関すること
・骨髄移植等に関すること
・外来検診・予防接種に関すること
・病院報告、患者数、患者月報に関すること
・悪性新生物通報票登録者の整理に関すること
・入院証書の保管管理に関すること
・特別の療養環境の提供に伴う同意書の保管管理に関すること
・相談窓口に関すること
・医療相談に関すること
・診療費の相談・減免に関すること
・医事会計の窓口・自動支払機の現金収納に関すること
・未収金(外来・入院)の整理、督促に関すること

７．統計

（1）　総括

区分		平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
入院	入院患者数	7, 155	7, 769	7, 864
	月平均新入院患者数	596	647	655
	退院患者数	7, 168	7, 746	7, 889
	延患者数	105, 160	107, 178	112, 576
	平均患者数/日	288	294	308
	平均在院日数	14. 7	12. 8	11. 7
	病床利用率	75. 8%	677. 3%	77. 5%
外来	述べ患者数	210, 147	212, 952	208, 285
	１日平均患者数	861	873	868
紹介・逆紹介	初診患者数	18, 027	18, 839	17, 410
	紹介率	68. 2%	71. 9%	77. 0%
	逆紹介率	79. 9%	90. 5%	87. 2%

（２） 診療科別入院患者数状況

	平成 29 年度		平成 30 年度		令和元年度	
	新入院患者数	延患者数	新入院患者数	延患者数	新入院患者数	延患者数
内科	3, 442	55, 966	3, 736	52, 785	4, 073	59, 025
外科	668	7, 317	685	6281	640	6535
整形外科	1, 113	15, 365	1, 374	19, 952	1, 238	18, 165
小児科	80	429	54	285	54	286
産婦人科	633	4, 740	635	5, 086	571	4, 111
眼科	3	65	0	0	2	15
耳鼻いんこう科	212	1, 612	220	1, 704	217	1, 476
皮膚科	69	943	126	1, 224	93	871
泌尿器科	750	5, 640	771	5, 612	804	5, 758
精神科	143	6, 853	117	6, 580	111	7, 225
児童精神科	38	6, 190	44	7, 104	36	8, 044
感染症	4	40	7	565	25	1, 065
計	7, 155	105, 160	7, 769	107, 178	7, 864	112, 576

（３） 診療科別外来患者数状況

	平成 29 年度		平成 30 年度		令和元年度	
	延患者数	1日平均患者数	延患者数	1 日平均患者数	延患者数	1日平均患者数
内科	62, 254	255. 1	63, 709	261. 1	64, 716	269. 7
外科	8, 064	33. 1	8, 133	33. 3	7, 781	32. 4
整形外科	32, 513	133. 3	34, 161	140. 0	30, 962	129
小児科	1, 900	7. 8	2, 019	8. 3	1, 847	7. 7
産婦人科	15, 884	65. 1	14, 264	58. 5	12, 942	53. 9
眼科	4, 671	19. 1	4, 792	19. 6	4, 681	19. 5
耳鼻いんこう科	3, 828	15. 7	4, 400	18. 0	4, 036	16. 8
皮膚科	10, 026	41. 1	9, 663	39. 6	10, 670	44. 5
泌尿器科	15, 032	61. 6	15, 033	61. 6	15, 424	64. 3
精神科	18, 664	76. 5	18, 894	77. 4	18, 172	75. 7
アレルギー科	0	0. 0	0	0. 0	0	0. 0
リハビリ科	34, 510	141. 4	35, 270	144. 5	34, 694	144. 6
歯科	2, 801	11. 5	2, 614	10. 7	2, 360	9. 8
合計	210, 147	861. 3	212, 952	872. 8	208, 285	867. 9

（4） 診療科別救急患者数

外来

外来	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
内 科	2, 534	2, 781	2, 656
外 科	90	94	71
整形外科	642	721	538
小児科	8	6	8
産婦人科	218	166	162
眼 科	1	2	5
耳鼻いんこう科	25	36	7
皮膚科	67	45	21
泌尿器科	72	56	58
精神科	16	13	12
児童精神科	0	0	0
合計	3, 673	3, 920	3, 538

入院

入院	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
内 科	2, 438	2, 305	2, 216
外 科	159	108	90
整形外科	120	318	534
小児科	1	0	0
産婦人科	12	8	6
眼 科	0	0	0
耳鼻いんこう科	5	4	0
皮膚科	10	6	0
泌尿器科	67	58	48
精神科	0	23	0
児童精神科	2	0	0
合計	2, 814	2, 830	2, 894

（５） 診療科別救急車搬送患者数

外来

外来	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
内 科	2, 067	2, 262	2, 073
外 科	37	45	27
整形外科	359	385	299
小児科	6	4	5
産婦人科	26	32	38
眼 科	0	1	1
耳鼻いんこう科	14	11	4
皮膚科	13	15	1
泌尿器科	25	26	26
精神科	14	6	2
アレルギー科	0	0	0
感染症	0	0	0
合計	2, 561	2, 787	2, 476

入院

入院	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
内 科	1, 417	1, 715	1, 682
外 科	48	51	29
整形外科	251	337	282
小児科	1	1	4
産婦人科	15	20	18
眼 科	0	0	0
耳鼻いんこう科	4	18	5
皮膚科	3	5	0
泌尿器科	24	20	24
精神科	10	12	8
アレルギー科	0	0	0
感染症	0	0	0
合計	1, 773	2, 179	2, 052

（６） 紹介率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
29年度	69.2	68.5	68.8	68.5	65	68.8	68.3	66.3	72	65.8	68.5	69.5	68.2
30年度	74	73.1	71.5	70.6	67.5	75.2	69.6	71.5	72.2	73.5	70.3	75.7	71.9
元年度	73.7	72.6	74.9	76.1	81.7	80.3	77.4	76.6	79.4	78.1	75.1	78.6	77.0

※地域医療支援病院にかかる基準により算出

※単位はパーセント

（７） 逆紹介率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
29年度	83.1	70.5	72.7	79.5	66.6	77.1	74.9	72	81.7	79.8	102.3	105.7	79.9
30年度	86.1	98.1	77.2	79.3	87.3	94.3	81.2	89.5	95	95.4	85.8	119.3	90.5
元年度	84.3	81.7	93.6	75.8	77.4	78.8	71.2	66.9	95.5	103.4	101.0	132.0	87.2

※地域医療支援病院にかかる基準により算出

※単位はパーセント

編集後記

令和元年度の年報「あおば」が出来上がりました。外来並びに入院患者の年齢構成も年毎に高齢化が進み、当院の高齢者に対する救急並びに総合的診療の重要性は更に増してきております。平成から令和に元号のかわりましたこの年に千葉は台風 15 号並びに 19 号による甚大な豪雨強風災害に見まわれました。当院は大規模な停電により機能不全に陥った近隣の医療機関から患者を多数受け入れ、存在感を示しました。こうした中でも、地域医療機関との病診連携に支えられた診療業務、委員会活動や市民公開講座、学術活動などは途切れること無く発展的に行われており、これを記録し対外的に発信するために年報作成は重要な業務の一つであり、平成 29 年度から病院ホームページにアップされ、外部評価をいただく情報を提供する形になっております。本年報が当院内外の皆様の千葉市立青葉病院の理解を深める記録として興味深いものであれば幸いです。令和元年末より人類は新型コロナウイルスとの壮絶な闘争に入り、当院はここでも大きな役割を果たすことになりますが、これは次年度のご報告になることかと思います。

最後にご多忙の中、年報の編集にご協力頂いた皆様に心から感謝申し上げます。

小児科統括部長・広報委員　　地引利昭

千葉市立青葉病院
令和元年度年報　「あおば」

令和 3 年 3 月発刊（平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日）

発刊　千葉市立青葉病院
〒260-0852
千葉市中央区青葉町 1273-2
TEL　(043) 227-1131（代表）　FAX (043) 227-2022

発刊責任者　山本恭平
編集責任者　地引利昭
編集委員　金子篤子
中村繭美
三橋涼子
佐藤浩司